

令和2年度 ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

試掘調査

堀口遺跡（第31・33・35次）
石高遺跡（第13次）
船遺跡（第2次）
浅井内遺跡（第4次）
相対遺跡（第4次）
高野富士山遺跡（第13次）
市毛下坪遺跡（第20次）
三反田古墳群（第4・5次）
磯崎東古墳群（第13次）
中曾根遺跡（第2次）
平井遺跡（第4・5・6・7次）
松原遺跡（第8次）
岡田遺跡（第37・38次）
東原遺跡（第10次）
東石川新堀遺跡（第5次）
市毛上坪遺跡（第31・32次）
部田野富士山遺跡（第1次）
老ノ塚古墳群（第1・2次）
上馬場遺跡（第6次）
飯塚前遺跡（第3次）
寄居新田古墳群（第5次）

本調査

三反田新堀遺跡（第20次）
市毛上坪遺跡（第30次）
堀口遺跡（第32・34次）
高野富士山遺跡（第14次）

2021

ひたちなか市教育委員会
公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

口绘



1 高野富士山遺跡第14次調査区第1号住居跡



2 高野富士山遺跡第14次調査区第1号住居跡出土墨書き器「田依」

序 文

ひたちなか市は関東平野の北端部にあたり、茨城県の中央部からやや北東に位置し、那珂川河口部左岸の人口約16万人の街で、県都水戸市に隣接しています。標高30m前後の起伏の少ない平坦な台地で、台地を浸食して那珂川やその支流の中丸川等の小河川が流れています。これらの河川の流域や台地上には、肥沃な田畠や宅地などが広がっています。

当市の東側は太平洋に面して約13kmの海岸線が続き、那珂川などの河川流域の台地上は、原始・古代から人々の生活の場として栄え、三百数十箇所の集落跡・古墳・城館跡などの遺跡が確認されています。

なかでも古墳時代の埴輪づくりの工場とされる馬渡埴輪製作遺跡、装飾壁画で知られる虎塚古墳はいずれも国の史跡指定を受け、市を代表する遺跡として多くの市民に知られております。

このように、ひたちなか市は全国に誇れる文化遺産に恵まれる一方、毎年住宅等の開発行為が活発に行われており、やむを得ぬ理由で失われていく遺跡の記録保存を図るために、事前に確認調査等を実施しております。

今年度も、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社に委託し、市内の埋蔵文化財包蔵地内において調査を実施いたしました。本書はこれらの確認調査等の記録をまとめたものであり、それぞれの調査は小規模なものではありますが、毎年の調査の積み重ねにより、多くの成果を得ることができました。

最後になりますが、快く調査のご承諾をいただきました地権者様や、調査に参加されました皆様に感謝申し上げますとともに、調査や本書の作成にご指導、ご協力を頂きました関係各位の皆様に心から感謝申し上げます。

令和3年3月

ひたちなか市教育委員会
教育長 野沢 恵子

例　言

1 本書は、令和2年度国費補助事業として、ひたちなか市教育委員会の委託を受けて、公益財團法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施したひたちなか市内の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 本書は、令和2年1月から12月にかけて実施された発掘調査についての報告であり、堀口遺跡、石高遺跡、船遺跡、浅井内遺跡、相対道路、高野富士山遺跡、市毛下坪遺跡、三反田古墳群、磯崎東古墳群、中曾根遺跡、平井遺跡、松原遺跡、岡田遺跡、東原遺跡、東石川新堀遺跡、市毛上坪遺跡、部田野富士山遺跡、老子塚古墳群、上馬場遺跡、飯塚前遺跡、寄居新田古墳群の計21遺跡について、30件の試掘・確認調査を実施し、三反田新堀遺跡、市毛上坪遺跡、堀口遺跡、高野富士山遺跡の計4遺跡について、5件の本調査を実施した。調査期間等は2~3頁一覧表のとおりである。

3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室の指導のもとに、公益財團法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理　事　長	渡邊 政美
副理事長兼 事務局長	須藤 翔由
理　事	雨澤 正　山形 由美子　杉山 和子　大和田 健　岡川 正　米川 央洋　井上 亨　海埜 敏之
監　事	北原 裕二　安賀範
文化課 文化財調査 事務所	課　長 小泉 栄 所　長 佐々木 義則 係　長 稲田 健一 主　事 田中 美零 嘱　託 齋藤 和住子

4 発掘調査の従事者は次の通りである。

調査員：田中美零、佐々木義則、稲田健一

調査補助員：吉木千恵子、海野輝雄、海老原四郎、小貫栄子、海後晴美、中船順子、廣木一真、矢野徳也、渡辺恵子

5 整理作業及び本書の作成に従事したものは、次の通りである。

稲田健一、小貫栄子、菊池順子、桐嶋美子、後藤みち子、齊藤和住子、佐々木義則、佐藤富美江、鈴鹿八重子、鈴木素行、田中美零、照田沙保里、西野陽子、矢野徳也

6 本書は、佐々木義則が編集した。

7 本書の執筆と分担は以下のとおりである。

田中美零・鈴木素行（弥生時代以前の遺物） 稲田健一（古墳時代の遺物） 矢野徳也（岩石同定） 佐々木義則（左記以外）

8 弥生時代以前の資料は、鈴木素行氏にご指導いただいた。

9 遺構の略号の意味は次の通りである。 SK：土坑、P：ピット、SD：溝跡、K：攢乱、T：トレンチ

10 発掘調査の出土資料は、ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。

11 本書の作成にあたっては、次の方々に御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(50首順・敬称略)

雨澤光枝　磯崎村友　板林勇気　海老澤せつ子　大内恵理子　大内富門　大船厚史　大塚忠雄　大塚直明　小川雄子　オフィスエイト株式会社

鹿志村大作　株式会社AKIYAMA　株式会社エムズ・エステート　株式会社鶴川建材　川崎純徳　河野和磨　河野理香　菊池健治　菊池隼人

香陵住販株式会社　小林敬佑　小林美佳　五位潤裕　近藤望　近藤正視　齋藤大明　船田よね子　清水勝利　清水三千代　清水よしえ　神保麻美

杉田和則　鈴木健太　砂押孝治　砂押将太　砂押利充　セイウン開発株式会社　園部修司　大和ハウス工業株式会社　高橋勝治　高橋登美子

武石尚文　飛田武義　清川卓也　新妻泰介　西野好海　一建設株式会社　堀一弘　平野竜一　平野亮輔　藤田智史　ベニヤ商事株式会社　堀口英穂

前船潔　松岡宏剛　松岡真奈美　宮内丈史　村瀬徹　横須賀良　渡會貴

12 事務局は、ひたちなか市教育委員会総務課文化財室内に置き、組織は次のとおりである。

総務課 文化財室	課　長 一本 由 文化財室長 千葉 美恵子 主　事 照沼 沙保里 森田 徹
-------------	---

目 次

	17 部田野富士山遺跡	26
	(1) 第1次調査報告 26	
I 概要	18 老ノ塚古墳群	27
	(1) 第1・2次調査報告 27	
II 試掘調査報告	19 上馬場遺跡	28
1 堀口遺跡	(1) 第6次調査報告 28	
(1) 第31次調査報告 4	20 飯塚前遺跡	28
(3) 第35次調査報告 11	(1) 第3次調査報告 28	
2 石高遺跡	21 寄居新田古墳群	29
(1) 第13次調査報告 12	(1) 第5次調査報告 29	
3 塙遺跡	III 本調査報告	30
(1) 第2次調査報告 12	1 三反田新堀遺跡第20次調査報告	30
4 浅井内遺跡	(1) 調査の経過 30 (2) 竪穴遺構 31	
(1) 第4次調査報告 13	(3) 調査区出土遺物 35	
5 相対遺跡	2 市毛上坪遺跡第30次調査報告	36
(1) 第4次調査報告 14	(1) 調査の経過 36 (2) 住居跡 36	
6 高野富士山遺跡	(3) 土坑 38 (4) 調査区出土遺物 38	
(1) 第13次調査報告 14	3 堀口遺跡第32次調査報告	41
7 市毛下坪遺跡	(1) 調査の経過 41 (2) 住居跡 41	
(1) 第20次調査報告 15	4 堀口遺跡第34次調査報告	47
8 三反田古墳群	(1) 調査の経過 47 (2) 住居跡 47 (3) 溝跡 49	
(1) 第4次調査報告 16	(4) 地下式坑 51 (5) 土坑 51	
9 礫崎東古墳群	(6) 調査区出土遺物 51	
(1) 第13次調査報告 18	5 高野富士山遺跡第14次調査報告	53
10 中曾根遺跡	(1) 調査の経過 53 (2) 住居跡 53	
(1) 第2次調査報告 18	(3) 調査区出土遺物 56	
11 平井遺跡	19	
(1) 第4・5・7次調査報告 19	(2) 第6次調査報告 20	
12 松原遺跡	21	
(1) 第8次調査報告 21	(1) 第37次調査報告 21 (2) 第38次調査報告 22	
13 岡田遺跡	23	
(1) 第10次調査報告 23	(1) 第5次調査報告 24	
14 東原遺跡	24	
(1) 第5次調査報告 24	(1) 第31次調査報告 26 (2) 第32次調査報告 26	
15 東石川新堀遺跡		
16 市毛上坪遺跡		

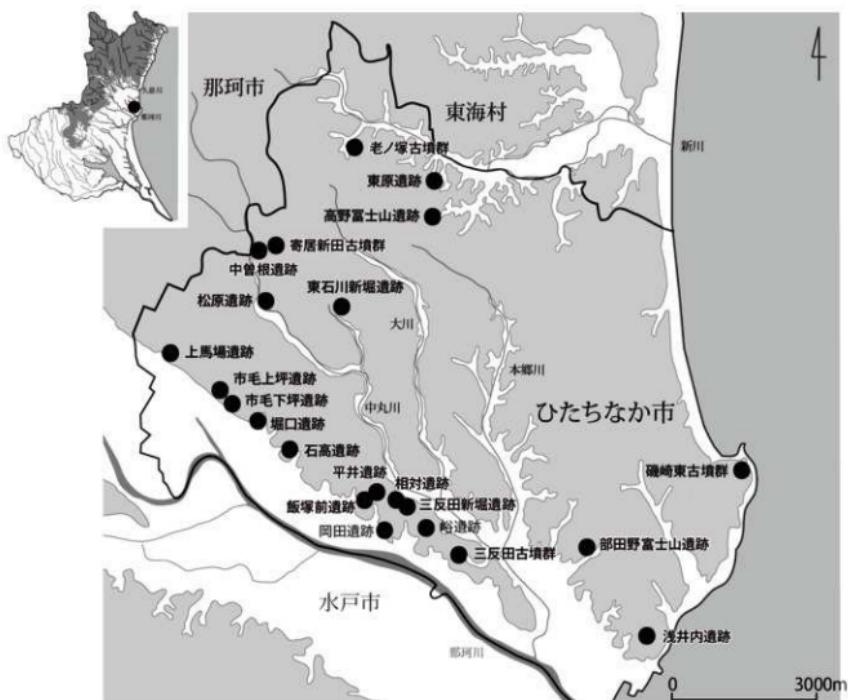
I 概 要

ひたちなか市は、茨城県の中央部に位置し、面積99.96 km²、人口約16万人を擁する地方中心都市である。市域南側を東流する那珂川は栃木県那須岳に源を発し、茨城県のほぼ中央部を東西に横断し太平洋へと注ぐ全長150kmの河川であり、古くから流域の文化形成に大きな役割を果たしてきた。本市は、この那珂川河口左岸域に位置する。市域は那珂川の支流である中丸川・大川・本郷川により開析され、小支谷が発達する。市域の北側を東流する新川付近の低地は、近世まで真崎浦という入り江であったが、現在は広く水田化され、東海村との境となっている。

現在市内には、約300か所以上の遺跡が所在する。市域では昭和30年ごろから都市化が進み、周知遺跡内

における個人住宅建設件数も増加の一途をたどり、そうした事態に対応すべく、昭和54(1979)年から、国・県の補助を受け、市教育委員会を主体とした市内遺跡発掘調査事業を継続して実施してきた。市内遺跡発掘調査は市内各地で実施されてきたこともあり、市域の埋蔵文化財の全体的状況を知る上で、その調査の成果は貴重な資料となっている。

平成20年度から、市内遺跡発掘調査は市教育委員会から財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社(現公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)に委託されるようになり、公社が主体となり実施されるようになった。令和2年は、21カ所の遺跡において試掘調査30件、4カ所の遺跡において本調査5件が実施され、三反田新堀遺跡における弥生時代住居跡や、堀口遺跡における奈良・平安時代住居跡等の成果を得ている。



第1図 調査遺跡の位置

第1表 令和2年市内遺跡発掘調査一覧

No	遺跡名	調査 次数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
1	三坂田字新堀 三坂田新堀遺跡	20次	三坂田字新堀 5233番1	1月7日～21日	個人住宅	本調査	佐々木 田中	34 m ²	32 m ²	整穴遺構1基(弥生)	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器
2	堀口遺跡	31次	堀口字堀坪12番 1ほか	1月9日～ 2月4日	宅地造成	試掘	佐々木 田中	3,209 m ²	259 m ²	住居跡35基(弥生6、古 墳17、奈良・平安8、時 期不明4)、溝跡1条、 土坑26基	弥生土器、土師器、 須恵器、陶器
3	市毛字上坪遺跡	30次	市毛字上坪1209 番5	1月21日～ 2月12日	個人住宅	本調査	佐々木 田中	126 m ²	77 m ²	住居跡4基(弥生2、古墳3) 土坑3基	弥生土器、土師器
4	石高遺跡	13次	武田字原前858 番	1月29日～2月 7日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	374 m ²	41 m ²	なし	なし
5	堀口遺跡	2次	三坂田字船4117 番3	2月4～6日	個人住宅	試掘	佐々木 田中	481 m ²	54 m ²	なし	なし
6	堀口遺跡	32次	堀口字堀坪42番 9	2月18日～ 3月11日	個人住宅	本調査	佐々木 田中	41 m ²	39 m ²	住居跡3基 (奈良・平安2、時期不明1)	土師器、須恵器、石器、 鉄製品、馬具
7	浅井内遺跡	4次	道メキ12999番	3月11～17日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	376 m ²	45 m ²	なし	なし
8	堀口遺跡	33次	堀口字久保坪 189番1ほか	5月12～19日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	752 m ²	23 m ²	なし	なし
9	相野遺跡	4次	金上字平井648 番1	5月20～27日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	631 m ²	67 m ²	なし	なし
10	高野富士山遺跡	13次	高野字富士山 1695番6	6月2日～5日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	303 m ²	28 m ²	住居跡2基(古墳1、平安1)	土師器、須恵器
11	市毛下坪遺跡	20次	市毛字下坪 440番22ほか	6月9～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	498 m ²	33 m ²	住居跡4基(平安)、 溝跡1条	土師器
12	堀口遺跡	34次	堀口字新地坪 148番1ほか	6月18日～ 7月7日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	47 m ²	47 m ²	住居跡1基(古墳)、 溝跡1条、土坑3基、 地下式坑1基	弥生土器、土師器、 須恵器、内瓦土器、 かわらけ、陶器、瓦、 石器、铁滓、铁製品、 人骨
13	三坂田古墳群	4次	三坂田字天王前 4552番ほか	6月30日～ 7月15日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	666 m ²	48 m ²	古墳周溝1条、溝跡1条	なし
14	磯崎町字磯崎東 ノ三4418番1	13次	磯崎町字磯崎東 ノ三4418番1	7月7日～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	410 m ²	34 m ²	なし	なし
15	中磐根遺跡	2次	田彦字土木内 420番1ほか	7月16日～ 31日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	999 m ²	146 m ²	溝跡1条	なし
16	三坂田古墳群	5次	三坂田字天王前 4555番1	7月30日～ 8月7日	駐車場 整備	試掘	田中 田中	1,725 m ²	30 m ²	古墳周溝1条	弥生土器、石器
17	牛井遺跡	4次	金上字平井1000 番1	7月30日～ 8月13日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	990 m ²	95 m ²	住居跡2基(平安)、 土坑3基、ピット21基	縄文土器、土師器、 須恵器
18	松原遺跡	8次	田彦字松原795 番2ほか	8月4～7日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	251 m ²	31 m ²	なし	なし

No	遺跡名	調査 次数	所在地	調査期間	調査原因	調査 種別	調査担当	対象 面積	調査 面積	主な遺構	主な遺物
19	高野富士山道路	14次	高野字富士山 1695番6	8月4～28日	個人住宅	本調査	田中 佐々木	331 m ²	37 m ²	住居跡2基（平安1， 時期不明1）	土師器、須恵器、 石器
20	岡田遺跡	37次	三坂田字北長町 3454番1	8月18～25日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	453 m ²	49 m ²	なし	なし
21	東原遺跡	10次	高野字堂の上 1074番1	8月25～28日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	488 m ²	45 m ²	住居跡3基（奈良・平安）	土師器、須恵器、 磁器
22	東石川字新堀	5次	東石川字新堀 2613番3	9月1日～29日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	5,164 m ²	388 m ²	なし	石器、縄文土器、 弥生土器、土師器
23	堀口遺跡	35次	堀口字表坪123 番1ほか	9月8～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	195 m ²	19 m ²	土坑1基、ピット1	弥生土器、土師器、 須恵器、内耳土器
24	市毛上坪遺跡	31次	市毛字上坪1263 番7	9月8～16日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	280 m ²	26 m ²	なし	なし
25	平井遺跡	5次	金上字平井1000 番1	9月15～30日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	990 m ²	120 m ²	住居跡1基（平安）、 溝跡1条、ピット3基	縄文土器、土師器、 須恵器、陶器
26	部田野富士山遺跡	1次	部田野字富士山 73番3ほか	9月15日～ 10月1日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	1,419 m ²	30 m ²	なし	なし
27	老ノ塙古墳群	1次	稲田字老ノ塙 584番3	9月29日～ 10月3日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	378 m ²	48 m ²	なし	なし
28	老ノ塙古墳群	2次	稲田字老ノ塙 584番1	9月29日～ 10月3日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	405 m ²	50 m ²	なし	なし
29	上馬塙遺跡	6次	津田字塙台3040 番3ほか	10月6日～ 10月13日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	447 m ²	40 m ²	ピット1	なし
30	施塙前遺跡	3次	三坂田字新平 3242番1	10月13～20日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	392 m ²	19 m ²	なし	なし
31	平井遺跡	6次	金上字原1047 番1	10月20～22日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	414 m ²	33 m ²	住居跡1基（時期不明）、 溝跡1条	なし
32	市毛上坪遺跡	32次	市毛字上坪1263 番5	10月27～30日	個人住宅	試掘	田中 佐々木	266 m ²	28 m ²	なし	なし
33	平井遺跡	7次	金上字平井1000 番1	11月4～5日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	990 m ²	36 m ²	住居跡2基（平安）	縄文土器、須恵器
34	寄居新田古墳群	5次	田彦字寄新田 1004番9	11月10～17日	集合住宅	試掘	田中 佐々木	807 m ²	93 m ²	なし	なし
35	岡田遺跡	38次	三坂田字岡田 3492番1ほか	12月2～15日	宅地造成	試掘	田中 佐々木	2,440 m ²	256 m ²	なし	弥生土器、土師器、 須恵器、石器

II 試掘調査報告

1 堀口遺跡

(1) 第31次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部に位置し、調査区南半部は南東方向にゆるく傾斜し、それ以外は平坦な地形を呈する。調査は16カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.1～0.7mを測る。調査の結果、住居跡を35基確認した。出土遺物から推定される時期は、弥生時代後期6基、古墳時代17基、奈良・平安時代8基、時期不明4基である。溝跡、土坑、ピットは出土遺物がなく時期不明である。遺物は弥生時代後期の十王台式土器や古墳時代の土師器甕・杯、平安時代の灰釉陶器皿等が出土した。調

査区からは、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、近世陶磁器が出土している。

遺物説明

第4～5回

1 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：小型縦頸壺形土器 法量：頸径42mm（残存率55%）、胴径134mm（残存率29%） 文様：柳描文（4本）、頭部に薩摩帯3条（薩摩の上に棒状工具による刻み）、付加条縞文（L-S-R-Z） 備考：胎土に金雲母含む、赤彩されていた可能性あり

2 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：小・中型壺形土器 文様：柳描文（4本） 法量：頸径88mm（残存率22%） 備考：胎土に金雲母含む、器外面上に炭化物付着、器内外変色

3 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：中型壺形土器 法量：最大径172mm（残存率17%） 文様：柳

描文（6本）、付加条縞文（R-S） 備考：器外面上に炭化物付着、器内変色

4 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器 法量：最大径154mm（残存率18%） 文様：付加条縞文（R×R L×L） 備考：胎土に金雲母含む、器内変色

5 出土位置・注記：1トレ2住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：小・中型壺形土器 法量：口径136mm（残存率9%） 文様：口唇部刻み（棒状工具）、口縁部柳描文（4本） 備考：胎土に金雲母含む

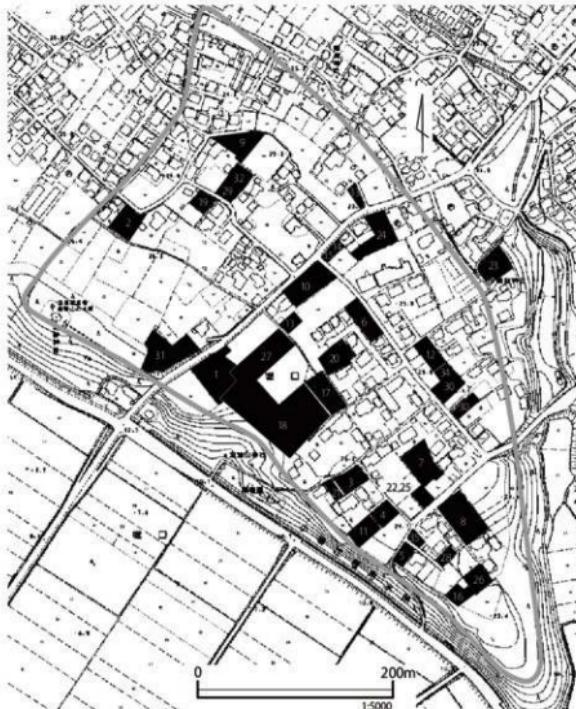
6 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器 法量：推定口径110mm（残存率6%）、最大径60mm（残存率25%） 文様：口唇部刻み（棒状工具）、口縁部付加条縞文（R×Rカ）

7 出土位置・注記：30住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：口唇部刻みカ、口縁部柳描文（4本） 備考：胎土に金雲母含む

8 出土位置・注記：6住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：— 文様：口唇部刻み（ヘラ状工具）、口縁部柳描文（4本）

9 出土位置・注記：8トレ19住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：口唇部刻み（ヘラ状工具）、口縁部付加条縞文（R×R L×L） 備考：胎土に海綿骨針含む、器内に赤色Hue5YRS/6明赤褐色

10 出土位置・注記：11トレ27住 時代時期：



第2図 堀口遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第2表 堀口遺跡調査一覧

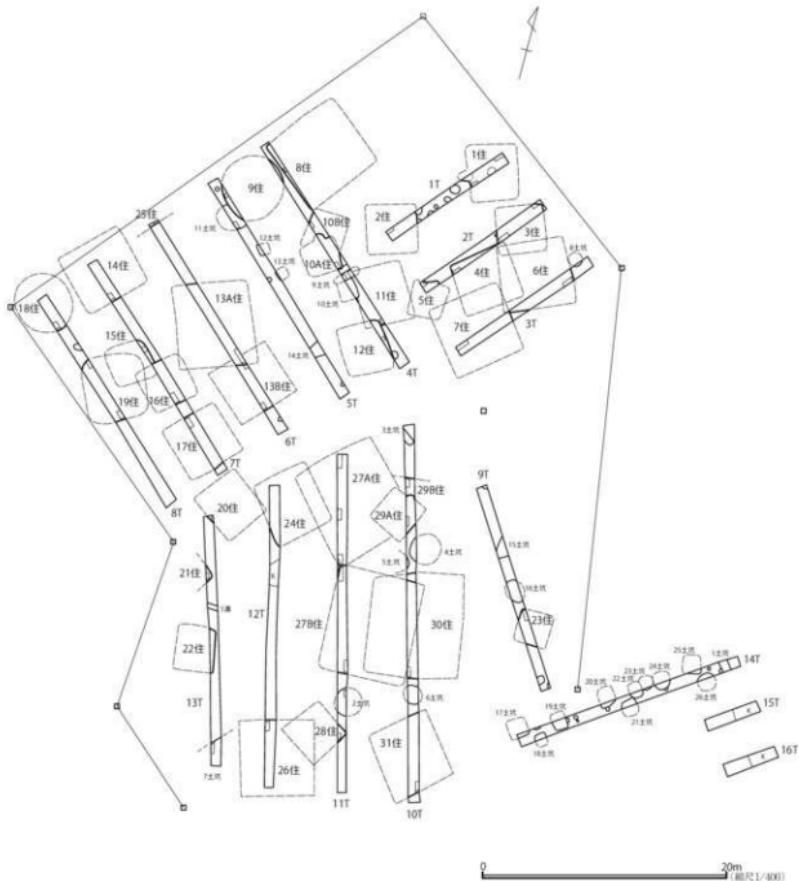
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1979	勝山市教委	本調査	住居 17 (土塁上、古墳中期)、 古墳中期・平安 4、中期中期(?)	1
2	1979	勝山市教委	本調査	住居 2 (平安)	2
3	1983	勝山市教委	本調査	住居 3 (古墳中期)、古墳前期・平安 1)	3
4	1984	勝山市教委	本調査	住居 2 (古墳)、中期中期(?)	4
5	1985	勝山市教委	本調査	住居 4 (古墳中期)、平安 2、中期中期(?)	5
6	1992	勝山市教委	本調査	住居 2 (古墳中期)、平安 1)	6
7	1993	勝山市教委	本調査	住居 8 (中期)、古墳中期、古墳前期・平安 1)	7
8	1996	市教委	本調査	住居 6 (古墳中期)、古墳中期・平安 2、平安 1)	8
9	2006	市教委	本調査	なし	9
10	2007	市教委	本調査	住居 7 (古墳中期)、古墳中期・古墳中期・平安 4)	10
11	2008	公社	試掘	住居 2 (中期・平安 2、中期中期(?)、溝 1)	11
12	2008	公社	試掘	住居 25 (古墳中期)、古墳中期・古墳中期・平安 2、中期中期(?)、溝 1)	11
13	2013	公社	試掘	住居 2 (中期)	12
14	2013	公社	試掘	住居 2 (古墳中期)、平安 1)、溝 2 (中期中期)	12
15	2013	公社	本調査	住居 4 (古墳中期)、古墳中期・平安 2、溝 1)	13
16	2014	公社	試掘	住居 1 (中期)、溝 1 (中期中期)	13
17	2014	公社	試掘	住居 16 (中期)、古墳中期・中期中期(?)、 土坑 2 (中期中期)	14
18	2015	公社	試掘	住居 120 (生地 3、古墳 26、古墳 5、平安 2、 中期中期(?)、土坑 14、土壤基 2、溝 2)	14
19	2015	公社	試掘	住居 1 (中期)	14
20	2015	公社	試掘	住居 5 (中期)、土坑 5 (中期中期)	14
21	2015	公社	試掘	なし	14
22	2015	公社	試掘	住居 6 (古墳 5、平安 2、中期中期)	15
23	2015	公社	試掘	住居 1 (中期)	15
24	2015	公社	試掘	住居 2 (中期中期)	15
25	2016	公社	本調査	住居 9 (中期)、 なし	15
26	2016	公社	試掘	なし	15
27	2016	福井文化財 振興会	本調査	住居 25 (生地 3、古墳 12、古墳平安 11)、 溝 1 (中期中期)、 土坑 43 (中期・平安 9、中期中期 34)	18
28	2016	公社	試掘	なし	15
29	2018	公社	試掘	住居 8 (古墳 2、古墳 4、平安 4、中期中期(?)	16
30	2019	公社	試掘	住居 2 (中期中期)、溝 1)	17

文献

- 1 福井県勝山市堀口遺跡発掘調査報告書
- 2 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 54 年度)
- 3 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 58 年度)
- 4 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 59 年度)
- 5 市内遺跡発掘調査報告書 (昭和 60 年度)
- 6 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 8 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 10 堀口遺跡発掘調査報告書
- 11 平成 20 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成 23 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 16 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 17 岐阜県ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 18 堀口遺跡 (特別収蔵老人ホーム建築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)

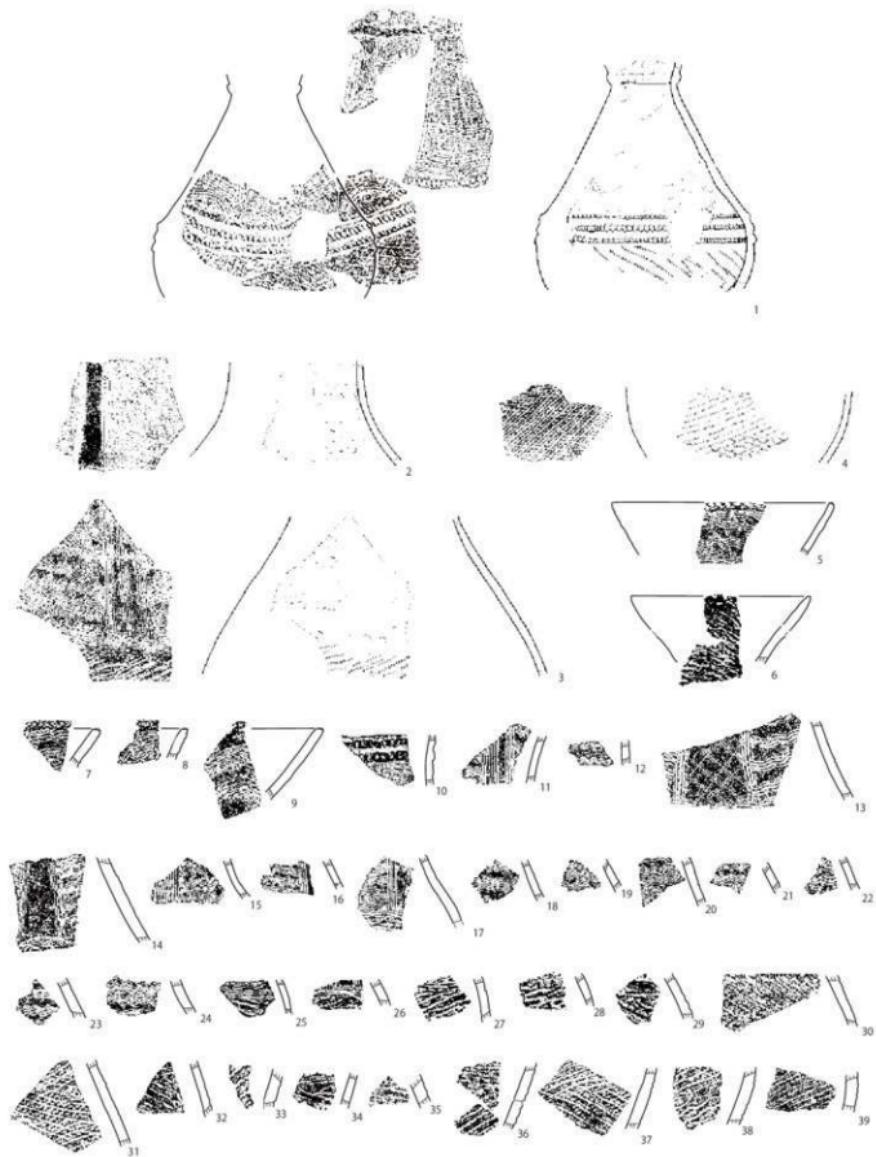
弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器 文様: 隆帯 2 条、柳描文 (5 本) 備考: 脇上に金雲母含む

- 11 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器 文様: 柳描文 (4 本)
- 12 出土位置・注記: 13A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 大型壺形土器 文様: 柳描文 (4 本), 格子状文 (ヘラ状工具) 備考: 脇土に金雲母含む
- 13 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 大型壺形土器 文様: 柳描文 (4 本), 格子状文 (ヘラ状工具) 備考: 脇土に金雲母含む
- 14 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器 文様: 柳描文 (5 本) 備考: 脇土に金雲母・海綿骨片含む、器外側面骨片付着
- 15 出土位置・注記: 2 トレ 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器 文様: 柳描文 (5 本)
- 16 出土位置・注記: 2 トレ 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (4 本)
- 17 出土位置・注記: 8 トレ 18 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器 文様: 柳描文 (4 本), 付加条縫文 (R-S-L-Z) 備考: 脇土に金雲母含む、赤彩の可能性あり
- 18 出土位置・注記: 13A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (5 本)
- 19 出土位置・注記: 13A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 文様: 柳描文 (4 本)
- 20 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 大型壺形土器 文様: 柳描文 (4 本) 備考: 赤彩の可能性あり
- 21 出土位置・注記: 8 トレ 19 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 文様: 柳描文 (4 本)
- 22 出土位置・注記: 12 トレ 24 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 文様: 柳描文 (3 本)
- 23 出土位置・注記: 27A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (4 本)
- 24 出土位置・注記: 12 トレ 24 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (4 本)
- 25 出土位置・注記: 11 レ 27 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 文様: 柳描文 (5 本), 付加条縫文 (R-X-L)
- 26 出土位置・注記: 27A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 文様: 柳描文 (5 本) 付加条縫文 (R-S-L)
- 27 出土位置・注記: 7 トレ 17 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (4 本), 付加条縫文 (R-X-R)
- 28 出土位置・注記: 13 A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (3 本以上), 付加条縫文 (R-X-R)
- 29 出土位置・注記: 13 A 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 柳描文 (5 本), 付加条縫文 (R-S-L-Z)
- 30 出土位置・注記: 2 トレ 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 大型壺形土器 文様: 付加条縫文 (L-X-L-S-K) 備考: 脇土に金雲母含む
- 31 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 壺形土器カ 文様: 付加条縫文 (R-X-R-L-X) 備考: 脇土に金雲母含む
- 32 出土位置・注記: 11 トレ 27 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式)



第3図 堀口遺跡第31次調査区

- 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文 ($R \times R, L \times L$)
- 33 出土位置・注記：1トレ1住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文 ($L \times S$)
- 34 出土位置・注記：2トレ5住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文 ($R \times R, L \times L$) 備考：器内面変色
- 35 出土位置・注記：3トレ7住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文 ($L \times L$)
- 36 出土位置・注記：5トレ9住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文 ($L \times L, R \times R$)
- 37 出土位置・注記：10B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文 ($R \times R, L \times L$)
- 38 出土位置・注記：13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：
- 壺形土器カ 文様：付加条縄文 ($R \times R, L \times L$) 備考：器外面に炭化物付着
- 39 出土位置・注記：13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
- 器種：壺形土器カ 文様：付加条縄文 ($LR \times R, L$) 備考：器内面変色
- 40 出土位置・注記：13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：
— 文様：付加条縄文 ($R \times R$) 備考：器内面変色
- 41 出土位置・注記：6トレ13A住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：— 文様：付加条縄文 (R, S, L, Z) 備考：胎土に金雲母含む
- 42 出土位置・注記：13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式) 器種：
大型壺形土器カ 文様：付加条縄文 ($R \times R, L \times L$) 備考：胎土に金雲
母含む
- 43 出土位置・注記：6トレ13B住 時代時期：弥生時代後期(十王台式)
器種：壺形土器 文様：付加条縄文 ($L \times L, R \times R$) 備考：胎土に金

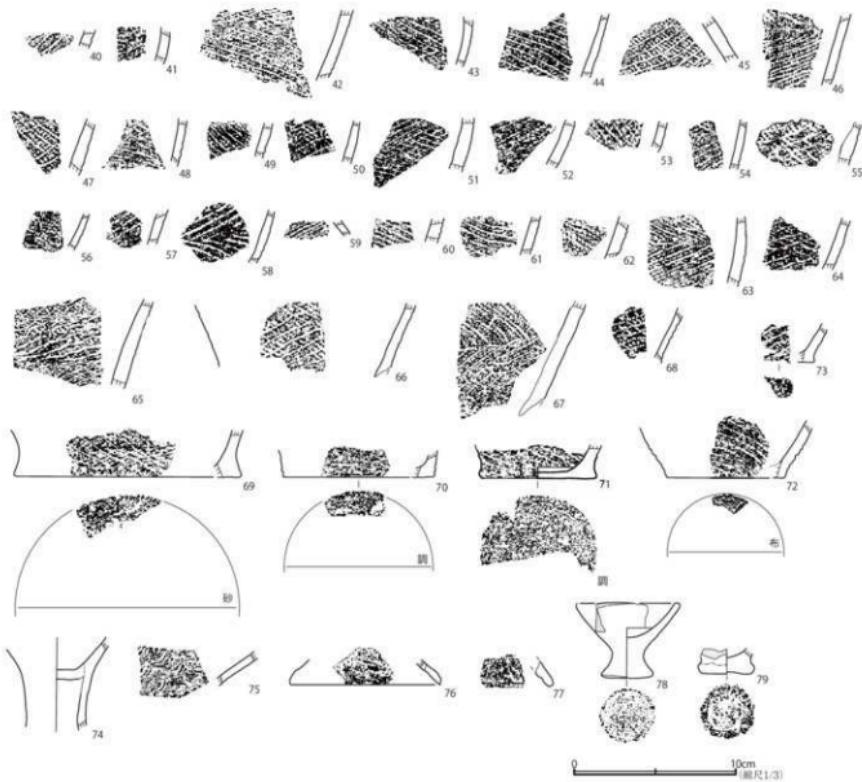


第4図 堤口遺跡第31次調査区出土遺物(1)

- 雲母・海綿骨針含む
- 44 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L, R×R) 備考: 脇上に金雲母含む、器内面変色
- 45 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 大型蕈形土器 文様: 付加条縫文(R×L)
- 46 出土位置・注記: 13 B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(R×R, L×L)
- 47 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 大型蕈形土器 文様: 付加条縫文(L×L, R×R) 備考: 脇上に金雲母含む
- 48 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L) 備考: 器内面一部変色
- 49 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L) 備考: 器内面一部変色
- 50 出土位置・注記: 7 トレ 14 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 一 付加条縫文(R×R) 備考: 脇上に金雲母含む
- 51 出土位置・注記: 8 トレ 19 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(R×R, L×L)
- 52 出土位置・注記: 8 トレ 19 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(R×R) 備考: 器内面変色
- 53 出土位置・注記: 11 トレ 27 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L) 備考: 脇上に金雲母含む
- 54 出土位置・注記: 11 トレ 27 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器 文様: 付加条縫文(L×L, R×R) 備考: 器内面変色
- 55 出土位置・注記: 27 A 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 一 文様: 付加条縫文(R×R, L×L) 備考: 脇上に金雲母含む
- 56 出土位置・注記: 27A 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L) 備考: 脇上に海綿骨針含む
- 57 出土位置・注記: 27A 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L) 備考: 脇上に海綿骨針含む
- 58 出土位置・注記: 27B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(R×R, L×L) 備考: 器外に炭化物付着
- 59 出土位置・注記: 27B 住 時代時期: 弥生時代後期カ 器種: 一 文様: 織糸文(Lカ)
- 60 出土位置・注記: 10 トレ 29 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 一 文様: 付加条縫文(L×L)
- 61 出土位置・注記: 30 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(L×L, R-S) 備考: 器内面変色
- 62 出土位置・注記: 30 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 一 文様: 付加条縫文(L×Lカ)
- 63 出土位置・注記: 10 トレ 31 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器 文様: 付加条縫文(L×L, R×R) 備考: 脇上に金雲母含む、器内面一部変色
- 64 出土位置・注記: 3 トレ 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 一 文様: 付加条縫文(R×R, L×L)
- 65 出土位置・注記: 4 トレ 11 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(R×L) 備考: 脇上に海綿骨針含む
- 66 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 法量: 最大径 112mm(残存率 11%) 文様: 付加条縫文(R×R, L×L) 備考: 脇上に海綿骨針多量・金雲母含む
- 67 出土位置・注記: 30 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 大型蕈形土器 文様: 付加条縫文(RL-R カ LR-R) 備考: 脇上に金雲母多量に含む、器内面剥落
- 68 出土位置・注記: 5 トレ 9 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縫文(R×R)
- 69 出土位置・注記: 3 トレ 6 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 大型蕈形土器カ 法量: 底径 138mm(残存率 13%) 文様: 付加条縫文(L×L), 底面砂痕 備考: 脇上に金雲母含む
- 70 出土位置・注記: 2 トレ 3 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 一 法量: 底径 92mm(残存率 15%) 文様: 付加条縫文(L-Zカ), 底面調整痕 備考: 器内面変色、炭化物付着
- 71 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 法量: 底径 70mm(残存率 54%) 文様: 付加条縫文(L×L), 底面調整痕 備考: 脇上に金雲母多量に含む
- 72 出土位置・注記: 11 トレ 27 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 蕈形土器カ 法量: 最大径 86mm(残存率 13%), 推定底径 72mm(残存率 9%) 文様: 付加条縫文(L×L), 底面布目痕
- 73 出土位置・注記: 8 トレ 19 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 一 文様: 付加条縫文(R×R) 備考: 器内面変色
- 74 出土位置・注記: 7 トレ 15 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 高环形土器 法量: 腹部径 36mm(残存率 100%), 环部最大径 63mm(残存率 56%) 備考: 脇上に海綿骨針含む
- 75 出土位置・注記: 4 トレ 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種: 高环形土器 文様: 條描文(4本カ)
- 76 出土位置・注記: 13 B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 高环形土器 法量: 腹部径 92m m(残存率 10%) 文様: 成形による指紋あり
- 77 出土位置・注記: 13B 住 時代時期: 弥生時代 器種: 高环形土器カ
- 78 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期(十王台式カ) 器種: 小型环形土器 法量: 口径 62mm(残存率 16%), 底径 32mm(残存率 100%) 備考: 脇上に海綿骨針含む
- 79 出土位置・注記: 6 トレ 13B 住 時代時期: 弥生時代後期 器種: 小型环形土器カ 法量: 底径: 35mm(残存率 100%)

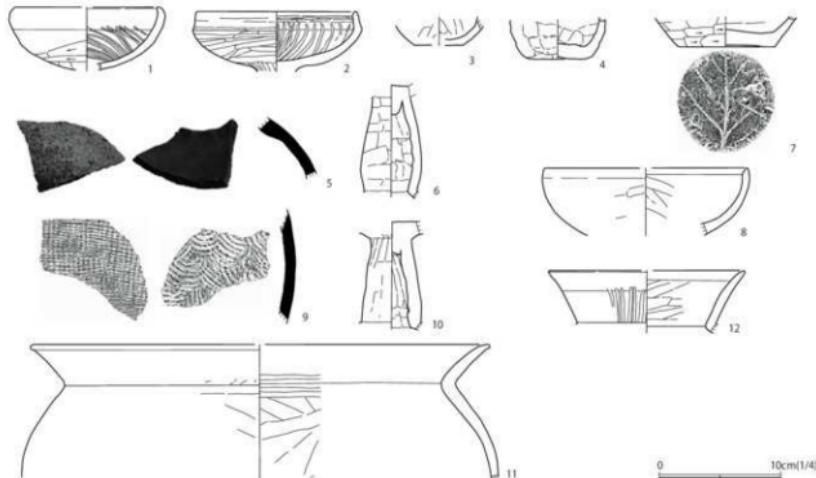
第 6 図

- 1 台帳: 3 トレ 7 住 材質: 土師器 器種: 杯 残存: 30% 法量: 口径 (11.6), 器高 (5.2) 色調: 外面橙色, 内面暗~ぶい縁~灰黄色
胎土: 砂(白微), 砂(白多, 透多) 烧成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ, 体部上位ナデ, 下位ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラミガキ。 使用痕: 一 備考: 一
- 2 台帳: 3 トレ 7 住 材質: 土師器 器種: 高杯 残存: 杯部 90% 法量: 口径 13.0, 高さ (4.9) 色調: 内外面とも赤褐色~暗赤褐色
胎土: 砂(白微), 砂(白多, 透多) 烧成: 良好 技法等: 外面口縁部ヨコナデ, 体部ヘラナデ, ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデヘラミガ

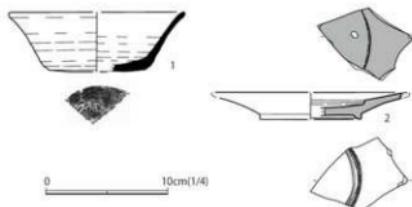


第5図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(2)

- キ。体部放射状にヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—
- 3 台帳：5トレー9住 材質：土師器 器種：手づくね上器 残存：10% 法量：深高（2.3）、底径（4.0） 色調：外面黒色、内面浅黄色 胎土：砂（白多、透多） 技法等：内外面ともヘラナデ。 使用痕：— 備考：—
- 4 台帳：5トレー9住 材質：土師器 器種：手づくね上器 残存：20% 法量：深高（3.3） 色調：外面浅黄色、内面黒色 胎土：砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面ナデ。 内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—
- 5 台帳：13A住 材質：須恵器 器種：ハソウ？ 法量：— 色調：外面灰オリーブ。 灰色。 内面灰色。 胎土：砂（白少） 焼成：硬質 技法等：ロクコ成型。 外面にカキ目調整。 使用痕：— 備考：—
- 6 台帳：7トレー14住 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚柱部 法量：100% 色調：外面赤～赤褐色。 内面赤色。 胎土：砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラナデ。 内面ヘラナデ。 ナデ。 外面上位に杯との接合痕あり。 接合部はソケット状。 使用痕：— 備考：—
- 7 台帳；7トレ22住 材質：土師器 器種：甕 残存：底部100% 法量：器高（2.4）、底径（7.9） 色調：外面赤橙～暗赤褐色。 内面に赤い黄褐色。 胎土：礫（白多）、砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り、底部木葉茎。 内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—
- 8 台帳：13トレー22住 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径（16.6）、器高（5.5） 色調：外面橙～に赤い橙～褐色。 内面橙色。 胎土：砂（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。 ナデ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—
- 9 台帳：23住 材質：須恵器 器種：甕 残存：胴部片 法量：— 色調：外面青灰～黄色。 内面灰色。 胎土：礫（白少）、砂（白少、透少） 焼成：硬質 技法等：外面タタキ。 内面で具痕。 使用痕：— 備考：—
- 10 台帳：12トレー24住 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚柱部 法量：100% 色調：外面赤～赤褐色。 内面赤色。 胎土：礫（白多、透多） 焼成：良好 技法等：外面上位ヘラナデ。 ナデ。 内面ナデ。 しづり痕がみられる。 杯部と脚柱部の接合はソケット状。 使用痕：—



第6図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(3)



第7図 堀口遺跡第31次調査区出土遺物(4)

— 考考:—

11 台帳:27A 住 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁~胴部上位
10% 法量:口径(37.2), 濱高(11.0) 色調:外面暗褐~黒色。内面橙色。

胎土:砂(白多, 透少) 焼成:良好 技法等:内外面とも口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。 使用痕:外表面にスス状痕付着。 考考:—
12 台帳:10トレ 31住 材質:土師器 器種:壺 残存:口縁部
10% 法量:口径(15.5), 濱高(5.1) 色調:外面浅黄~黒褐色。内面浅黄色。 胎土:砂(白多, 透少) 焼成:良好 技法等:外面上位ヨコナデ、下位ヘラナデ・ヘラミガキ。 内面上位ヨコナデ、中~下位ヘラナデ。 使用痕:— 考考:—

第7図

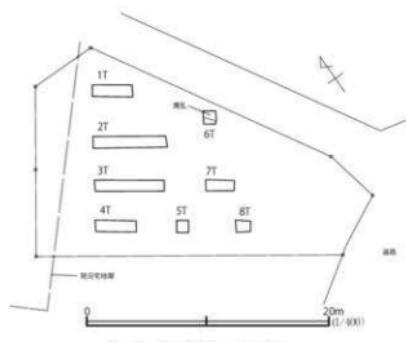
1 出土位置:9トレ 23住 注記:— 材質:須恵器 器種:杯 残存:
20% 法量:口径(14.2), 濱高 4.9, 底径(7.9) 色調:灰色 胎土:鐵(灰、
透少)、砂(白、透)、骨針微量 特徴:底部外面ナデ。口縁部外面黒化。

備考:木葉下窯産か

2 出土位置:6トレ 注記:— 材質:灰釉陶器 器種:段皿 残存:
底部 20% 法量:口径(15.8), 濱高 2.2, 底径(8.1) 色調:素地明灰色。
釉淡緑色 胎土:— 特徴:内面灰釉施釉。外面高台部外側に灰釉付着。
内面にトチン跡。 備考:筑後窯跡 K-14号窯期(9世紀前半)

(2) 第33次調査報告

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から280mほど離れた地点に位置する。調査区北側には浅い谷が入るため、調査区は木田へ向かい緩やかに傾斜している。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3~0.7mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。



第8図 堀口遺跡第33次調査区

(3) 第35次調査報告（堀口館跡と重複）

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺部付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3~0.6mを測る。調査の結果、中世の土坑が1基確認され、覆土中から内耳土鍋の口縁部が出土した。

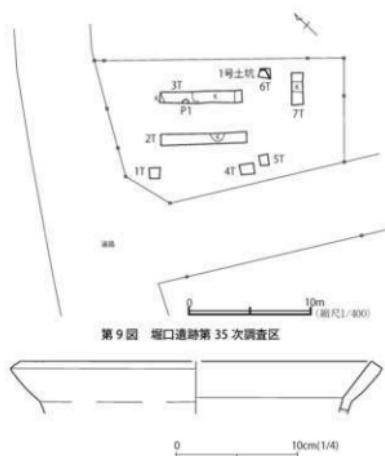
遺物説明

第10図

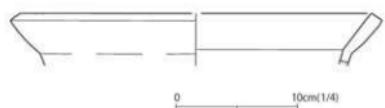
出土位置：6トレンチ1号土坑 注記：— 材質：土器 器種：内耳鍋
残存：口縁部片 法量：口径（28.8） 色調：外面黒色、内面褐色 胎土：砂（透多、黒多）、骨針多 技法等：内面ヨコナデ。外面煤付着。

第11図

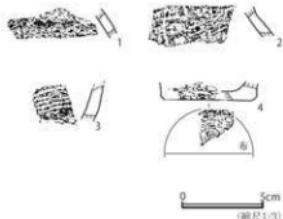
- 1 出土位置・注記：3トレンチ1号土坑 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：櫛描文（4本）
- 2 出土位置・注記：2トレンチ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 文様：付加条櫛文（R×R）
- 3 出土位置・注記：3トレンチ 時代時期：弥生時代 器種：壺形土器カ 文様：燃系文カ
- 4 出土位置・注記：3トレンチ 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：壺形土器カ 法量：底径54mm（残存率12%） 文様：底面布目痕



第9図 堀口遺跡第35次調査区



第10図 堀口遺跡第35次調査区出土遺物（1）

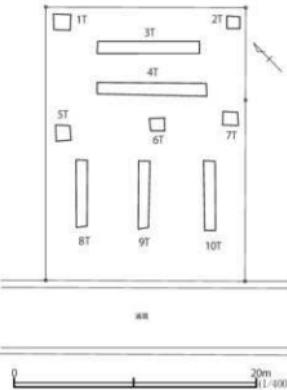


第11図 堀口遺跡第35次調査区出土遺物（2）

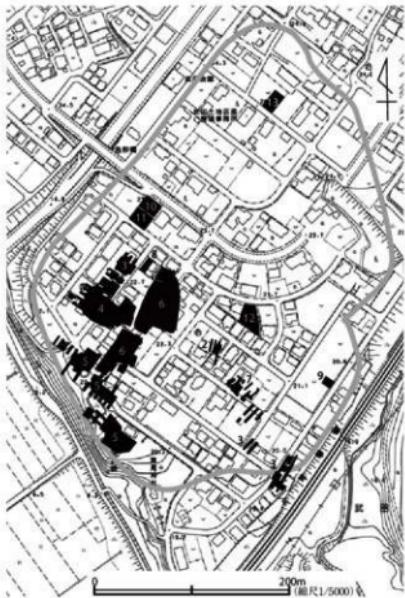
2 石高遺跡

(1) 第13次調査報告

調査地は、那珂川を望む台地縁辺から320mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2m～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかつた。



第13図 石高遺跡第13次調査区



第12図 石高遺跡の調査地点(数字は調査次数)

第3表 石高遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1980	熊谷市教委	本調査	溝上、土坑3	1
2	1983	熊谷市教委	本調査	住居1、土坑3、道路	2
3	1986	武田遺跡調査会	本調査	住居30、溝1、土坑1、	3
4	1988	公社	掘立1、粘土被覆坑3		
5	1989	公社	本調査	住居1、土坑6、	5
6	1991	公社	本調査	窓穴13、溝、壁	6
7	1992	公社	本調査	住居10、土坑5、溝2	6
8	1994	公社	本調査	住居3	7
9	2002	市教委	本調査	なし	8
10	2004	市教委	本調査	溝	9
11	2005	市教委	本調査	なし	10
12	2010	公社	試験	なし	11

3 峠遺跡

(1) 第2次調査報告

調査地は、中丸川低地から南西方向に入り込む谷から、北西方向に伸びる浅い小支谷にむけてゆく傾斜する地形を呈する。調査は11か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.2～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかつた。

第4表 峠遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2019	公社	試験	なし	1

文献

1 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

文献

1 中丸遺跡発掘調査報告書(昭和56年)

2 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書

3 武田I

4 武田II

5 武田III

6 武田IV

7 武田Ⅴ

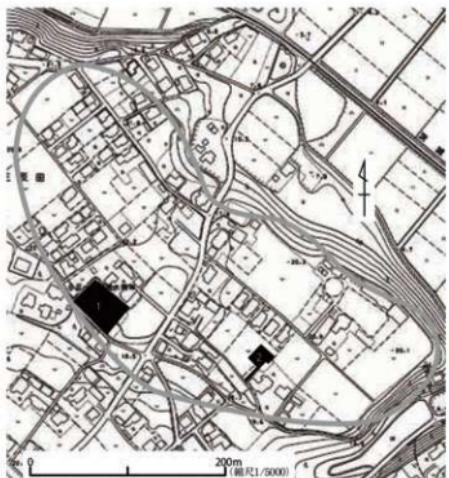
8 武田Ⅵ

9 武田Ⅶ

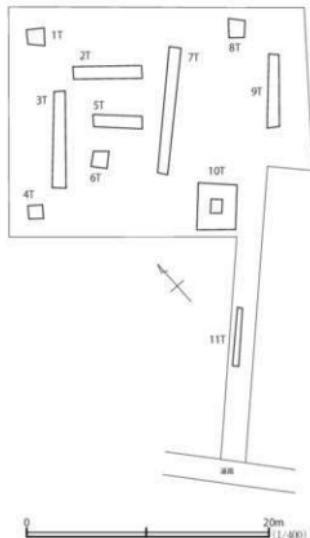
10 武田Ⅷ

11 武田Ⅸ

12 武田Ⅹ



第14図 島遺跡の調査地点（数字は調査次数）



第15図 島遺跡第2次調査区

4 浅井内遺跡

（1）第4次調査報告

調査地は、那珂湊の市街地がある低地から北東に入り込む谷の谷頭から200mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は12カ所のトレーニングを設定し、重機による表土除去を実施した。トレーニングの深さは0.5～1.1mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



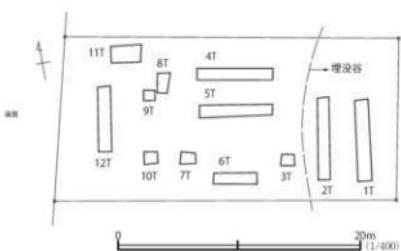
第16図 浅井内遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第5表 浅井内遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査特徴	道幅	文献
1	2004	市教委	試掘	十坑2	1
2	2018	公社	試掘	溝1	2
3	2018	公社	試掘	ビット1	2

文献

- 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

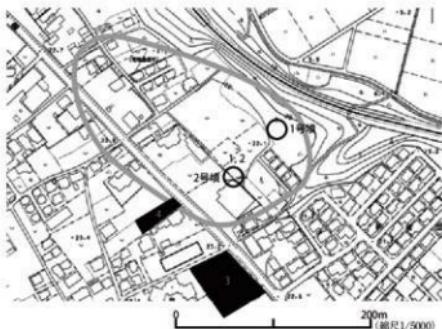


第17図 浅井内遺跡第4次調査区

5 相対遺跡

(1) 第4次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から 160 mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は 8 力所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。調査区全体に土盛りが認められたため、トレンチの深さは 0.8 ~ 1.0 m とやや深めである。調査の結果、調査区全体に擾乱が広く入っており、遺構・遺物とも確認されなかった。



第 18 図 相対遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第 6 表 相対遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査範囲	遺構	文献
1	1984	御山小教委	本調査	古墳 1	1
2	1988	市道跡調査会	本調査	古墳 1	2
3	1995	市教委	本調査	住居 1, 潟 3	2

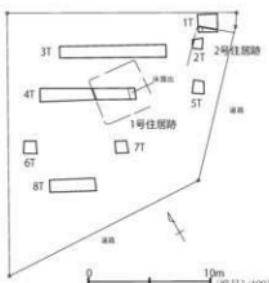
文献

- 昭和 59 年度市内道跡発掘調査報告書
- 君ヶ台道跡（第 7 次）、松原道跡（第 4 次）、相対古墳群（第 2 次）、東原道跡（第 3・4 次）
- 平成 7 年度市内道跡発掘調査報告書

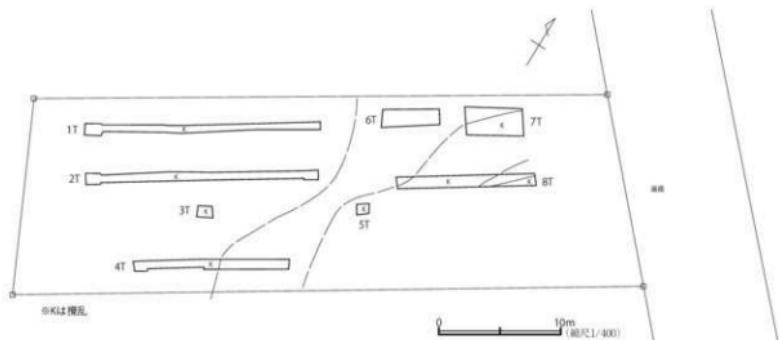
6 高野富士山遺跡

(1) 第 13 次調査報告

調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し、平坦な地形を呈する。調査は 8 力所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは 0.5 ~ 0.8 m を測る。調査の結果、住居跡が 2 基確認された。出土遺物から 1 号住居跡が平安時代、2 号住居跡が古墳時代と推定される。その他調査区からは、土師器片と須恵器片が少量確認されている。



第 20 図 高野富士山遺跡第 13 次調査区



第 19 図 相対遺跡第 4 次調査区

第7表 高野富士山遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺跡	文献
1	1982	勝山市考古	試掘	なし	1
2	1989	勝山市考古	試掘	住居跡1(古墳)	2
3	2001	市教委	本調査	土坑墓11(後世), 住居跡1(古墳)	3
4	2007	市教委	試掘	なし	4
5	2010	公社	試掘	住居跡3(平安), 土坑2	5
6	2010	公社	本調査	住居跡1(平安)	5
7	2013	公社	試掘	なし	6
8	2015	公社	試掘	なし	7
9	2017	公社	試掘	なし	8
10	2017	公社	試掘	住居跡3(吉原-一条), 土坑1	8
11	2017	毛野考古 研究所	本調査	住居跡3(奈良・平安), 土坑1, 溝1	9
12	2018	公社	試掘	住居跡1(古墳), 土坑1	10

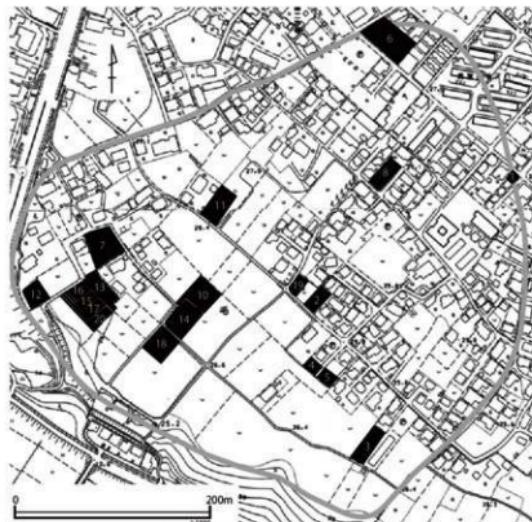


第21図 高野富士山遺跡の調査地点（数字は調査次数）

7 市毛下坪遺跡

(1) 第20次調査報告

調査地は、那珂川の低地を望む台地縁辺部から40mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～0.5mを測る。調査の結果、住居跡4基、溝跡1条が確認された。出土遺物から住居跡は平安時代のものと推定される。溝跡の時期は不明である。遺物は、土師器片が少量出土している。



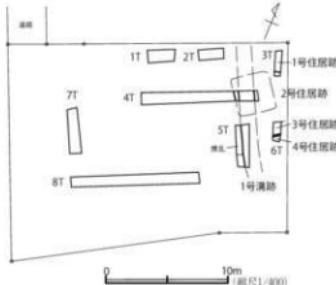
第22図 市毛下坪遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第8表 市毛下坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1985	勝山市教委	本調査	土坑1(時期不明)	1
2	1987	勝山市教委	本調査	溝1(9世紀)	2
3	1987	勝山市教委	本調査	住居1(8世紀), 溝2(時期不明)	2
4	1989	勝山市教委	本調査	住居1(9世紀), 溝1(時期不明)	3
5	1989	勝山市教委	本調査	溝2(時期不明)	3
6	1989	勝山市教委	本調査	住居2(8世紀), 溝2(時期不明)	3
7	1991	勝山市教委	本調査	住居3(古墳後期2, 9世紀1)	4
8	1993	勝山市教委	試掘調査	なし	5
9	2006	市教委	試掘調査	なし	なし
10	2012	公社	試掘	住居3(9世紀), 溝5+土坑1+, ピット5(時期不明)	6
11	2014	公社	試掘	住居4(平安), 溝1	7
12	2016	公社	試掘	土坑4(近世, 時期不明2)	8
13	2017	公社	試掘	住居4(古墳3, 平安1)	9
14	2018	公社	試掘	住居6(平安), 溝1+土坑3	10
15	2018	公社	試掘	溝1	10
16	2018	公社	試掘	なし	10
17	2018	公社	試掘	溝1	10
18	2018	公社	試掘	住居4(平安L, 時期不明3), 溝5	11
19	2019	公社	試掘	住居1(時期不明)	11

文献

- 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 昭和62年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成元年度鶴田山内遺跡発掘調査報告書
- 平成3年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成5年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第23図 市毛下坪遺跡第20次調査区

8 三反田古墳群

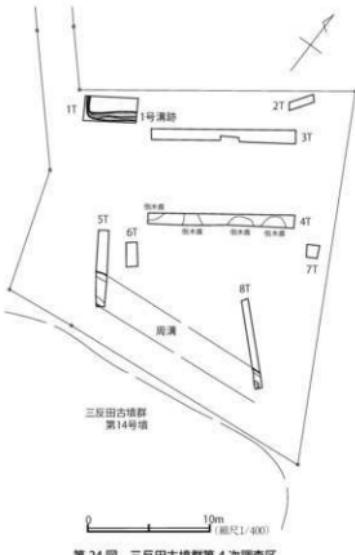
(1) 第4次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から320m、那珂川低地を望む台地縁辺から340mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は8カ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチ

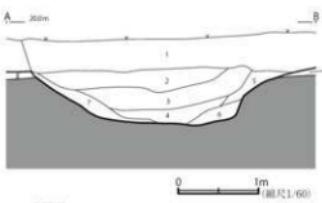
の深さは0.4~0.7mを測る。調査の結果、三反田古墳群第14号墳に伴う周溝を1条確認した。確認した周溝は、二重の周溝の外側の周溝と思われる。周溝の深さは遺構確認面から5.3~6.5cmを測る。そのほか時期不明の溝跡が1条確認された（根切り溝か？）。調査区から遺物は出土しなかった。

(2) 第5次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から310m、那珂川低地を望む台地縁辺から320mほど離れた地点に位置し平坦な地形を呈する。調査は1カ所のトレン



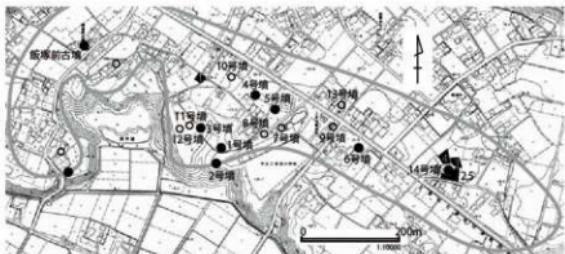
第24図 三反田古墳群第4次調査区



土壤剖面
A-B 土壌剖面
1 黄褐色 (表土)
2 黑褐色
3 黄褐色
4 黑褐色 (ローム粒少量含む)
5 黑褐色 (ロームブロック少量化)
6 明褐色
7 黑褐色 (ローム小ブロック少量含む)
8 明褐色 (ローム土基じる)

第25図 三反田古墳群第4次調査区第14号墳周溝土層
(第5トレンチ西壁)

第26図 三反田古墳群の調査地点



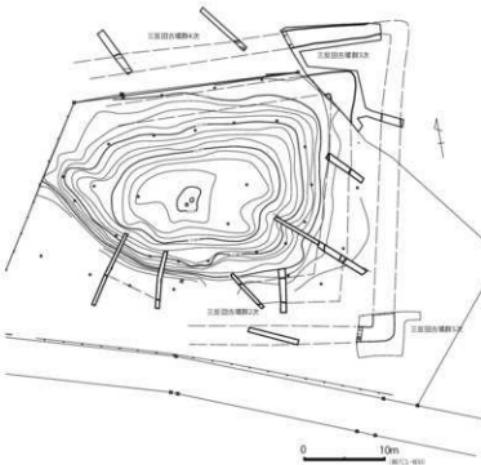
第26図 三反田古墳群の調査地点（数字のみは調査次数）

を設定し、重機による表土除去を実施した。トレーナーの深さは0.3~0.4mを測る。調査の結果、三反田古墳群第14号墳に伴う周溝を1条確認した。確認した周溝は二重周溝の外側周溝であり、その南東隅部である。周溝の深さは遺構確認面から約0.5mを測る。そのほか周溝および調査区からは弥生土器の小破片、石器が確認された。

遺物説明

第28図

- 出土位置：周溝サブトレ 時代時期：弥生時代中・後期か 器種：壺形土器 カ 文様：付加条縦文 (LR+2R) カ 備考：胎上に金雲母含む
- 出土位置：表土 時代時期：弥生時代中・後期 カ 器種：小片のため不明 文様：付加条縦文 (LR+2R) カ 備考：胎上に金雲母含む
- 出土位置・注記：周溝サブトレ 時代時期：不明 器種：敲打痕のある円錐 石材：安山岩 法量：長さ209mm、幅71mm、高さ73mm、重さ1659g 備考：表面上にネズミの齧り痕が残る



第29図 三反田古墳群第14号墳調査区の位置

第27表 三反田古墳群調査一覧

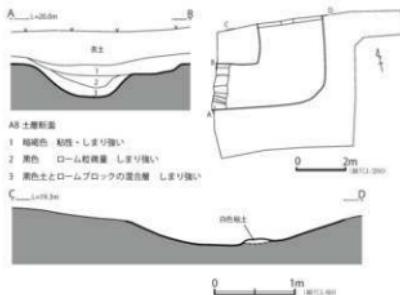
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2009	公社	試掘	住居3（古墳前頭）、溝3	1
2	2017	公社	試掘	長方墳1	2
3	2019	公社	試掘	古墳周溝（二重周溝）	3

文解

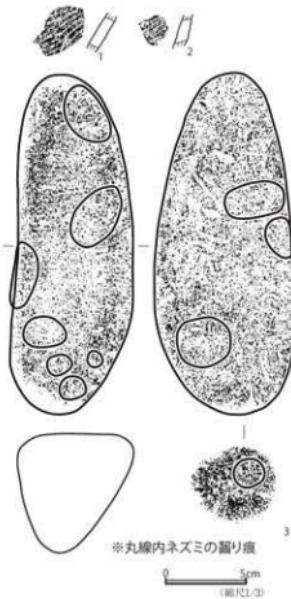
1 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

2 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

3 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



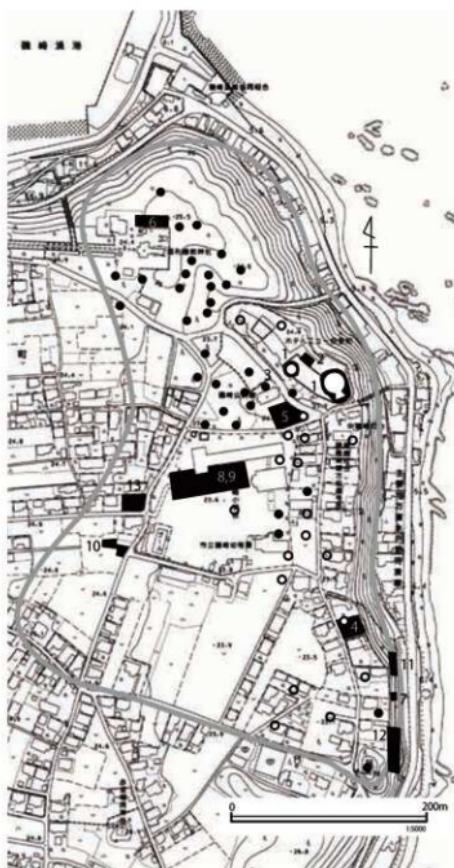
第27図 三反田古墳群第5次調査区



第28図 三反田古墳群第5次調査区出土遺物

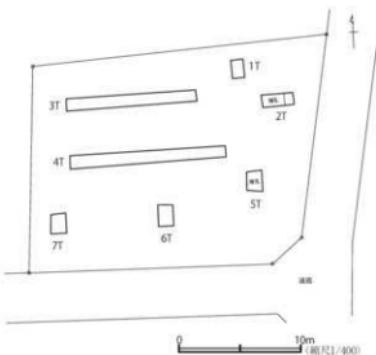
第10表 磯崎東古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	調査会	本調査	古墳 2	1
2	1990	那珂湊市教委	本調査	石棺 2	なし
3	1991	調査会	本調査	横穴式石室 1	なし
4	1995	市教委	本調査	石棺 1	2
5	2004	市教委	試掘	周溝 1	3
6	2007	市教委	試掘	なし	4
7	2011	市教委	試掘	石棺 1	なし
8	2011	公社	試掘	石室 4, 古墳 1 (横穴式石室 1)	5
9	2011	市教委	本調査	回土	なし
10	2012	公社	試掘	古墳 1 (石室 1, 周溝), 溝 2, 土坑 1	6
11	2014	県文化課	工事立合	石棺 2	なし
12	2016	県文化課	工事立合	石棺 6	なし



文献

- 1 那珂湊市磯崎東古墳群
- 2 平成7年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

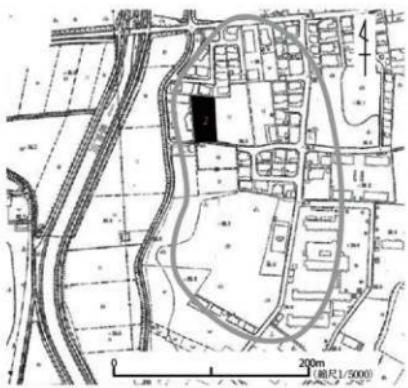


第31図 磯崎古墳群第13次調査区

10 中曾根遺跡

(1) 第2次調査報告

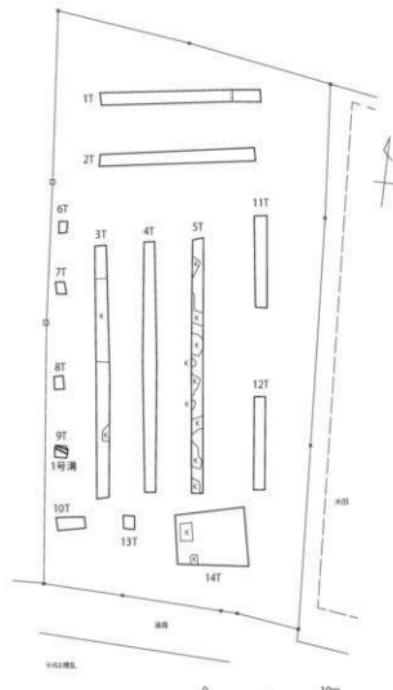
調査地は、早戸川をのぞむ台地縁辺部付近に位置し、早戸川低地に向かい西に緩やかに傾斜する地形を呈する。調査時は荒地であった。調査は14ヵ所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.3～1.0mを測る。調査の結果、溝跡が1条確認された。調査区から遺物は出土していない。



第32図 中曾根遺跡の調査地点

第11表 中曾根遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2006	市教委	不明	不明	なし



第33図 中曾根遺跡第2次調査区

11 平井遺跡

(1) 第4・5・7次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から200mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は第4次が7か所、第5次が17か所、第7次が9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3~0.7mを測る。調査の結果、住居跡2基、溝跡1条、土坑3基、ピット21基を確認した。遺物の出土状況から遺構の時期は1号住居跡、2号住居跡ともに平安時代と考えられる。溝跡、土坑は出土遺物がなく時期不明である。土坑は覆土が柔らかだったので近代以後の土坑と思われる。なお調査区からは縄文土器の小破片が出土した。

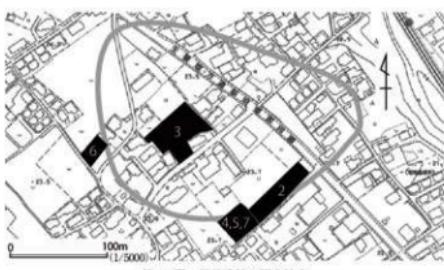
遺物説明

第36図

- 1 出土位置・注記: 4次 4トレンチ1住 材質: 土師器 器種: 有台杯 残存: 底部 色調: 外面褐色、内面黒色 脂土: 砂(白褐少) 特徴: 底部外回転ヘラ削り、内面ハラミガキ(底部1方向)・黒色處理。
- 2 出土位置・注記: 5次 6トレンチ 材質: 土師器 器種: 大型管状土器 残存: 破片 法量: 推定孔径1.4 色調: 暗褐色、底面灰褐色 脂土: 粘(白少、赤少) 黒雲母微量 技法等: 外面指須压痕。

第37図

- 1 出土位置・注記: 7次 8トレンチ 時代時期: 縄文時代早期(田戸下層式) カルテ種類: 深鉢形土器 文様: 斜線文
- 2 出土位置・注記: 5次 5トレンチ 時代時期: 縄文時代前期(植式)



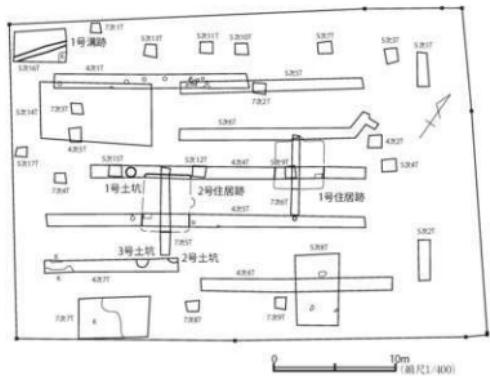
第34図 平井遺跡の調査地点

第12表 平井遺跡調査一覧

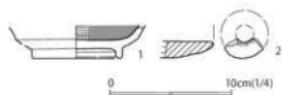
次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	2002	市教委	本調査	住居1	なし
2	2014	公社	試掘	住居1(発文), 潟1	1
3	2015	公社	試掘	澗2, 土坑2	2

文献

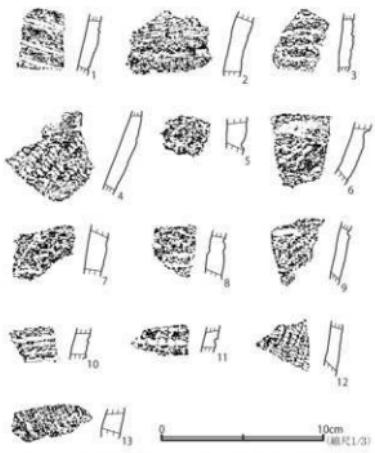
- 1 平成26年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 2 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第35図 平井遺跡第4・5・7次調査区



第36図 平井遺跡第4・5・7次調査区出土遺物（1）



第37図 平井遺跡第4・5・7次調査区出土遺物（2）

器種：深鉢形土器 文様：柳描文 備考：胎上に織維含む

3 出土位置・注記：5次5トレー 時代時期：縄文時代前期（植樹式）

器種：深鉢形土器 文様：柳描文 備考：胎上に織維含む

4 出土位置・注記：5次8トレー 時代時期：縄文時代前期（植樹式）

器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎上に織維含む

5 出土位置・注記：5次8トレー 時代時期：縄文時代前期 器種：深

鉢形土器カ 備考：胎上に織維含む

6 出土位置・注記：5次14トレー 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 文様：捺文系（LSで擦り戻し） 備考：胎上に織維含む、器内面磨き

7 出土位置・注記：4次5トレー 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 備考：胎上に織維含む

8 出土位置・注記：4次4トレー 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 備考：胎上に織維含む

9 出土位置・注記：5次6トレー 時代時期：縄文時代前期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR） 備考：胎上に織維含む、器内面磨き

10 出土位置・注記：4次4トレー 時代時期：縄文時代前期（浮島式）カ 器種：深鉢形土器 文様：沈線文

11 出土位置・注記：4次5トレー 時代時期：縄文時代前期（浮島式）カ 器種：深鉢形土器 文様：沈線文

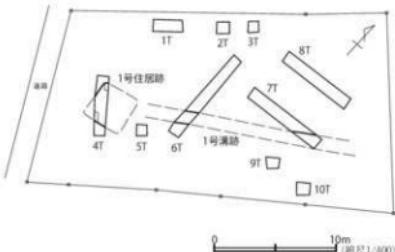
12 出土位置・注記：4次6トレー 時代時期：縄文時代中期カ

器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR）

13 出土位置・注記：5次16トレー 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 備考：器外面磨き、器外部一部剥落

（2）第6次調査報告

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から350mほど離れた台地上のほぼ中央に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畑地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.7mを測る。調査の結果、住居跡1基、溝跡1条が確認された。住居跡の時期は遺物が出土しなかったため不明である。

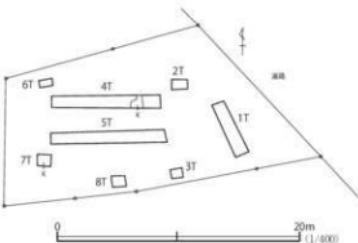


第38図 平井遺跡第6次調査区

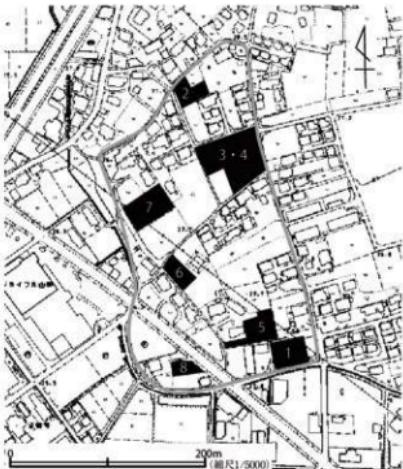
12 松原遺跡

(1) 第8次調査報告

調査地は、中丸川低地に向かいゆるく傾斜する台地縁辺部に位置する。調査時は畠地であった。調査は8か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.2~0.3mを測る。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



第40図 松原遺跡第8次調査区



第39図 松原遺跡の調査地点

第13表 松原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1998	市教委	試掘	なし	1
2	2001	市教委	試掘	なし	2
3	2008	公社	試掘	住居5(古墳前期5), 土坑1(時期不明), ピット1 (時期不明), 潟2(時期不明), 不明遺構1(時期不明)	3
4	2009	調査会	本調査	住居5(古墳前期5), 澗2(時期不明)	4
5	2015	公社	試掘	住居1(古墳), 窑戸1(時期不明)	5
6	2018	公社	試掘	なし	6
7	2019	公社	試掘	住居4(古墳), 土坑1	7

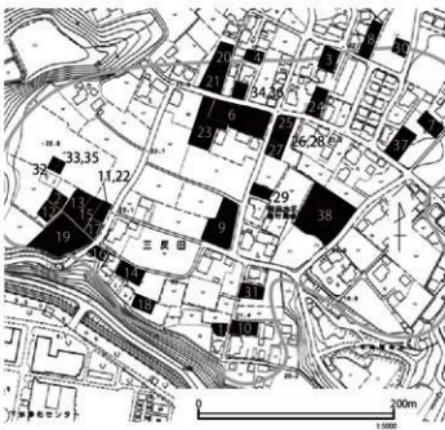
文献

- 平成10年度小田原跡発掘調査報告書
- 平成13年度小田原跡発掘調査報告書
- 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 君ヶ台遺跡(第7次), 松原遺跡(第4次), 相對古墳群(第2次), 東原遺跡(第3・4次)
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年改訂ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

13 岡田遺跡

(1) 第37次調査報告

調査地は、那珂川低地から北に入り込む谷部から80mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畠地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5~0.7mを測る。調査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。



第41図 岡田遺跡の調査地点

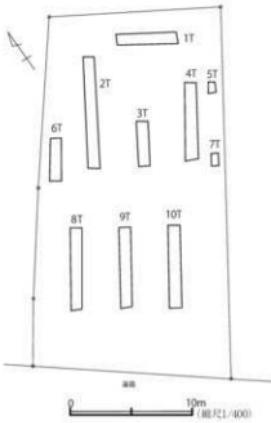
第14表 岡田遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1982	鶴山市教委	試掘	なし	1
2	1983	鶴山市教委	本調査	住居3(十王台1, 古墳後期2)	2
3	1985	鶴山市教委	試掘	住居2(古墳地附1, 不明1)	3
4	1990	鶴山市教委	本調査	住居3(8世紀1, 9世紀1, 不明1), 窑穴遺構1	4
5	1991	鶴山市教委	試掘	なし	なし
6	1997	市教委	本調査	住居5(十王台1, 古墳後期1, 8世紀2, 9世紀1)	5
7	2003	市教委	試掘	なし	6
8	2005	市教委	試掘	なし	7
9	2006	市教委	試掘	なし	なし
10	2006	市教委	試掘	住居2(時期不明)	8
11	2006	市教委	試掘	なし	8
12	2006	市教委	本調査	住居1(十王台)	8
13	2006	市教委	試掘	なし	8
14	2006	市教委	試掘	住居(時期不明)	なし
15	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
16	2007	市教委	本調査	住居1(古墳後期), 谷1	9
17	2007	市教委	試掘	住居1(時期不明)	9
18	2010	公社	試掘	住居2(十王台1, 時期不明1)	10
19	2011	公社	試掘	住居6(十王台4, 古墳前期1, 時期不明1)	11
20	2012	公社	試掘	住居1(時期不明)	12
21	2012	公社	試掘	住居2(古墳後期1, 時期不明1), 谷1	12
22	2012	公社	試掘	土坑2, ビット9	12
23	2012	公社	試掘	住居4(奈良・平安4, 時期不明2), 土坑2, ビット4	12
24	2013	公社	試掘	住居1(奈良・平安)	13
25	2015	公社	試掘	住居1(古墳), ビット1	14
26	2015	公社	試掘	住居5(奈良1, 古墳1, 平安1, 時期不明2), ビット1(奈良・平安)	14
27	2015	公社	試掘	住居1(古墳), 土坑1	14
28	2015	公社	本調査	住居5(奈良1, 古墳1, 平安3), 土坑2(平安1, 時期不明1), 谷1	15
29	2016	公社	試掘	なし	15
30	2017	公社	試掘	なし	16
31	2017	公社	試掘	谷1, 土坑1	17
32	2017	公社	試掘	なし	17
33	2017	公社	試掘	住居4(奈良2, 時期不明2), 土坑2	17
34	2017	公社	試掘	住居6(奈良・平安), 谷1, 土坑1	17
35	2018	公社	本調査	住居2(古墳1, 平安1)	18
36	2018	公社	本調査	谷1	18

文献

- 昭和57年度市内遺跡発掘調査報告書
- 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書
- 昭和60年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成元年鶴山市内遺跡発掘調査報告書
- 岡田遺跡発掘調査報告書
- 平成15年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成17年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成18年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成19年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

- 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成29年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第42図 岡田遺跡第37次調査区

(2) 第38次調査報告

調査地は、那珂川低地から北西方向に入り込む小支谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は荒地であったが、近年まで水田として使用されていたようである。調査は19か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3~1.0mを測る。調査の結果、当調査区は水田として造成された際に、鹿沼バミス層状面まで削られたようであり、その際に遺存していた遺構は埋没したのだろうと考えられる。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、砥石の小片が少量出土した。

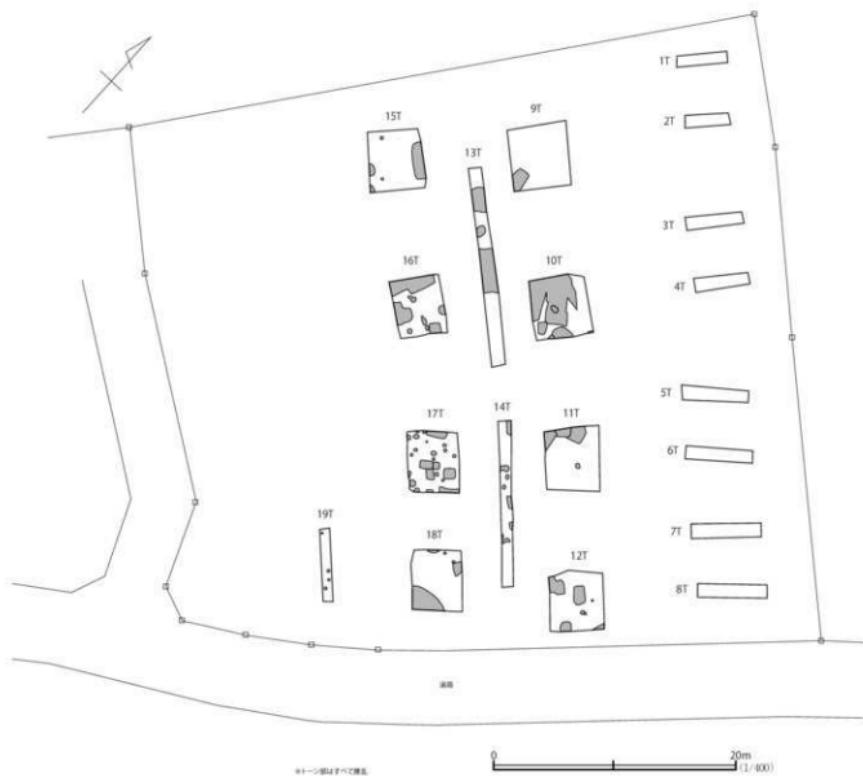
遺物説明

第43図

1 出土位置: 11トレンチ 材質: 流紋岩 種類: 砥石 法量: 長3.6, 幅3.3, 厚1.5, 重量 31.2g 特徴: 手面2面(A・B面)。A・B面に刻線が認められる。



第43図 岡田遺跡第38次調査区出土物

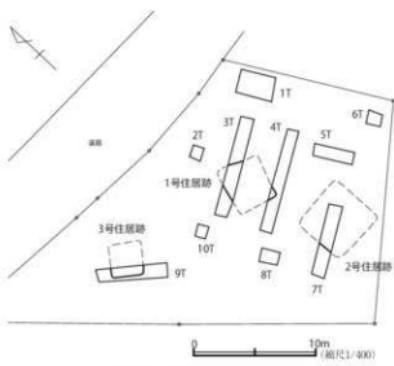


第44図 岡田遺跡第38次調査区

14 東原遺跡

(1) 第10次調査報告

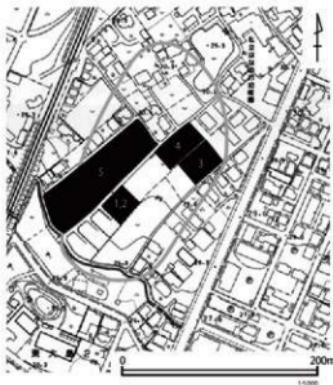
調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南に入り込む小支谷の谷頭付近に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は畠地であった。調査は10か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4~0.8mを測る。調査の結果、住居跡が3基確認された。土師器・須恵器の小破片が出土しており、奈良・平安時代の住居跡と考えられる。このほか調査区からは近世の磁器片が出土している。



第45図 東原遺跡第10次調査区



第 46 図 東原遺跡の調査地点（数字は調査次数）



第 47 図 東石川新堀遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第 15 表 東原遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1989	県教育財團	本調査	住居 13 戸（古墳 3、余長 5、平安 1、不明 4）、土坑 7、墓 5、井戸 1	1
2	1999	市遺跡調査会	本調査	土坑 11（繩文）	2
3	2006	市遺跡調査会	本調査	不明	なし
4	2007	市遺跡調査会	本調査	不明	なし
5	2015	公社	試掘	なし	3
6	2015	公社	試掘	住居 1（古墳）	3
7	2015	公社	試掘	なし	3
8	2016	公社	試掘	溝 1	4
9	2019	公社	試掘	住居 1（時期不明）	5

文献

- 主査地方道連絡馬鹿瀬道路改良工事中の埋蔵文化財調査報告書
- 東原遺跡発掘調査報告書
- 平成27年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成28年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

15 東石川新堀遺跡

（1）第 5 次調査報告

調査地は、中丸川の谷から派生する小支谷に向かい緩やかになん西方向に傾斜する地形を呈しており、調査時は荒地であった。調査は 13 か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは 0.1 ~ 0.7 m を測る。調査の結果、遺構は検出されなかった。2・3 トレンチでは窪み状の地形に黒色土が堆積した場所があり、一部にサブトレンチをいたが遺物包含層は確認されなかった。また 1・4 トレンチでは風削木痕が確認されている。調査区からは、石器・縄文土器片・弥生土器片・土師器片が少量出土した。

第 16 表 東石川新堀遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1987	勝田市教委	本調査	溝 1	1
2	2000	市教委	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	なし	3
4	2012	公社	試掘	なし	3

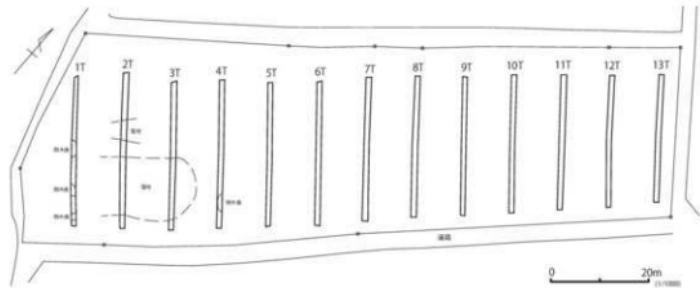
文献

- 昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 12 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

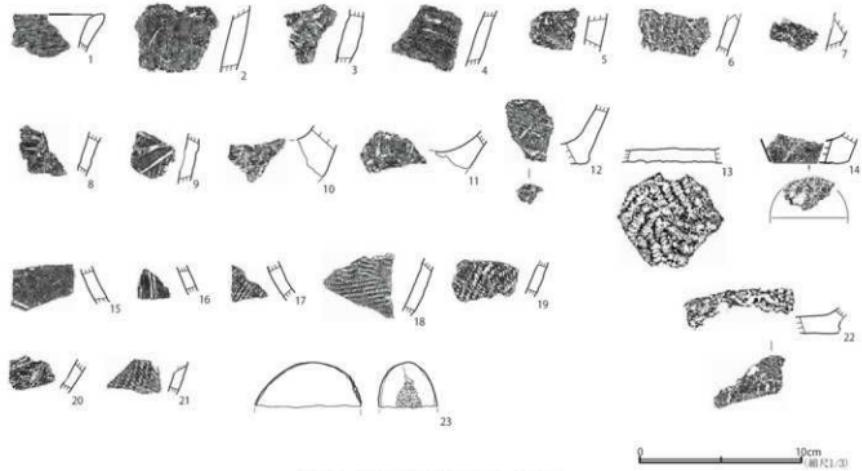
遺物説明

第 49 図

- 出土位置・注記：12 トレ 時代時期：縄文時代後期カ 器種：深鉢形土器カ 備考：器外面上面
- 出土位置・注記：5 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：深鉢形土器カ
- 出土位置・注記：2 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：深鉢形土器カ 備考：胎上に縦維含む
- 出土位置・注記：1 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：深鉢形土器 備考：無文土器
- 出土位置・注記：13 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：一 備考：無文土器
- 出土位置・注記：5 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：深鉢形土器カ 備考：無文土器
- 出土位置・注記：7 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：一 備考：無文土器、胎内一部剥落
- 出土位置・注記：3 トレ 時代時期：縄文時代早期カ 器種：一 備考：無文土器、胎上に赤褐色粒目立つ
- 出土位置・注記：13 トレ 時代時期：縄文時代後期カ 器種：一 文様：波線文、單脚斜繩文（LR）カ 備考：胎内一部剥落



第48図 東石川新堀遺跡第5次調査区



第49図 東石川新堀遺跡第5次調査区出土遺物

10 出土位置・注記: 2トレス 時代時期: 繩文時代早期カ 器種: 尖底
深鉢形土器 備考: 器外面に擦痕カ

11 出土位置・注記: 2トレス 時代時期: 繩文時代早期カ 器種: 尖底
深鉢形土器

12 出土位置・注記: 2トレス 時代時期: 繩文時代早期カ 器種: 深鉢
形土器カ 備考: 器外面擦痕

13 出土位置・注記: 4トレス 時代時期: 繩文時代前期(花瓶下層式)カ
器種: 深鉢形土器カ 文様: 底面に繩文(LR)カ 備考: 脱土に繩維含む

14 出土位置・注記: 1トレス 時代時期: 繩文時代 器種: - 備考:
器外面擦痕

15 出土位置・注記: 9トレス 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種:
壺形土器カ 文様: 洗線文(半截竹管) 備考: 器内面全面剥落, 脱土に
海綿骨針含む

16 出土位置・注記: 9トレス 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種:
- 文様: 洗線文(半截竹管)

17 出土位置・注記: 10トレス 時代時期: 弥生時代中・後期カ 器種:

- 文様: 単節斜縞文(LR)

18 出土位置・注記: 11トレス 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: 壺
形土器カ 文様: 単節斜縞文(LR)カ 備考: 器内面全面剥落

19 出土位置・注記: 10トレス 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: 壺
形土器カ 文様: 付加条縞文(R-S)カ 備考: 器内面磨き

20 出土位置・注記: 9トレス 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: - 文様:
付加条縞文(R-S)カ 備考: 脱土に海綿骨針含む, 器内面一部剥落

21 出土位置・注記: 9トレス 時代時期: 弥生時代中期カ 器種: - 文様:
付加条縞文(R-S)カ 備考: 器内面磨き

22 出土位置・注記: 9トレス 時代時期: 弥生時代中・後期カ 器種:
壺形土器カ 文様: 繩文あり

23 出土位置・注記: 2トレス 時代時期: 繩文・弥生時代 器種: 岩石
石材: 砂岩 法量: 長さ 27mm, 幅 67mm, 厚さ 36mm, 重さ 80.9
g

16 市毛上坪遺跡

(1) 第31次調査報告

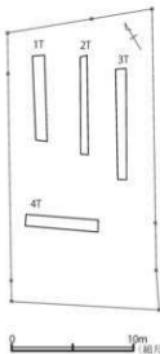
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から440mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は4か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7～0.9mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。

(2) 第32次調査報告

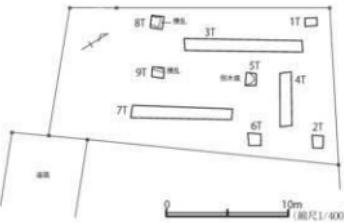
調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から440mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.7mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



第50図 市毛上坪遺跡の調査地点（数字は調査次数）



第51図 市毛上坪遺跡第31次調査区



第52図 市毛上坪遺跡第32次調査区

17 部田野富士山遺跡

(1) 第1次調査報告

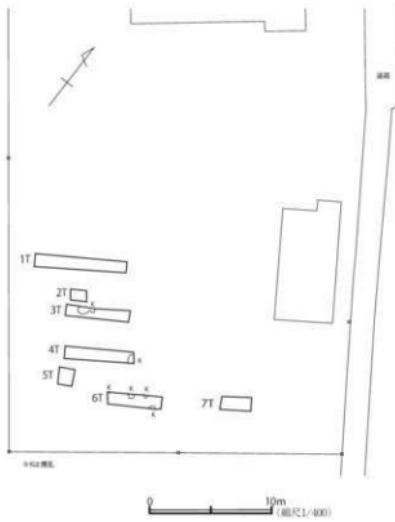
調査地は、那珂川低地から北東方向に入る谷を望む台地縁辺から70mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。調査は7か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.4～0.6mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



第53図 部田野富士山遺跡の調査地点（数字は調査次数）



第55図 老ノ塚古墳群の調査地点（数字は調査次数）

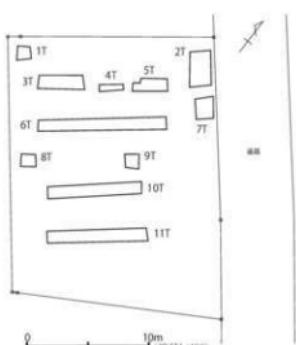


第54図 部田野富士山遺跡第1次調査区

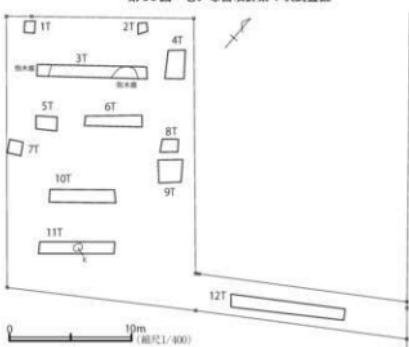
18 老ノ塚古墳群

(1) 第1・2次調査報告

調査地は、新川上流から南西方向に入る谷から200mほど離れた場所に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は林地であった。調査は第1次調査区が11か所、第2次調査区が12か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.5～0.8mを測る。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



第56図 老ノ塚古墳群第1次調査区



第57図 老ノ塚古墳群第2次調査区

19 上馬場遺跡

(1) 第6次調査報告

調査地は、那珂川低地から入り込む小さな谷の谷頭付近に位置し平坦な地形を呈する。調査時は畠地であった。調査は9か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.7~1.0mを測る。調査の結果、時期不明のピット1基が確認された。調査区から遺物は出土していない。



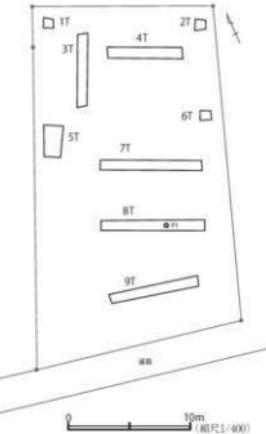
第58図 上馬場遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第17表 上馬場遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1979	勝田市教委	本調査	なし	1
2	2008	公社	試掘	なし	2
3	2012	公社	試掘	住居跡3（京良1、不明2）	3
4	2012	公社	試掘	住居跡1（平安1）、溝3、 隕石1（近代）	3
5	2018	公社	試掘	ピット1	4

文献

- 1 上馬場遺跡発掘調査報告書
- 2 平成20年度ひたちなか市内道路発掘調査報告書
- 3 平成24年度ひたちなか市内道路発掘調査報告書
- 4 平成30年度ひたちなか市内道路発掘調査報告書

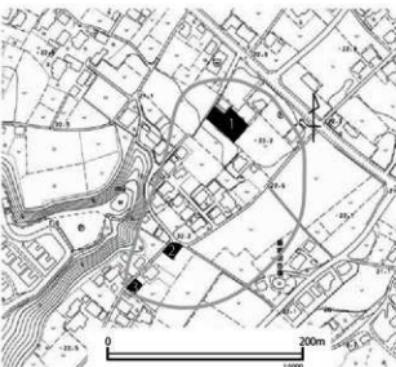


第59図 上馬場遺跡第6次調査区

20 飯塚前遺跡

(1) 第3次調査報告

調査地は、那珂川低地から北東方向に入り込む小さな谷の東側台地縁辺部付近に位置し平坦な地形を呈する。調査時は畠地であった。調査は6か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。確認面までの深さは0.3~0.8mを測る。ただし4~6トレンチ部分は浅い埋没谷と重なるため、黒色土中での遺構確認となっている。調査の結果、遺構・遺物とも確認されなかった。



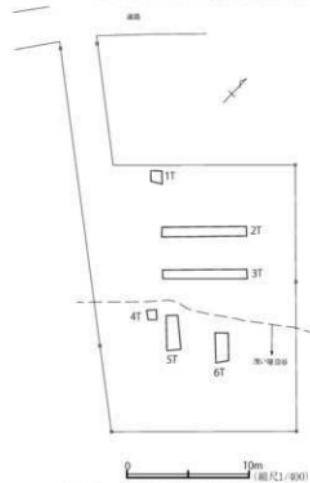
第60図 飯塚前遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第18表 飯塚前遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	1996	市道跡調査会	本調査	溝1, 土坑2	1
2	2011	公社	試掘	土坑1	2

文獻

- 1 内手道跡発掘調査報告書
2 平成23年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書



第61図 飯塚前遺跡第3次調査区



第62図 寄居新田古墳群の調査地点(数字は調査次数)

21 寄居新田古墳群

(1) 第5次調査報告

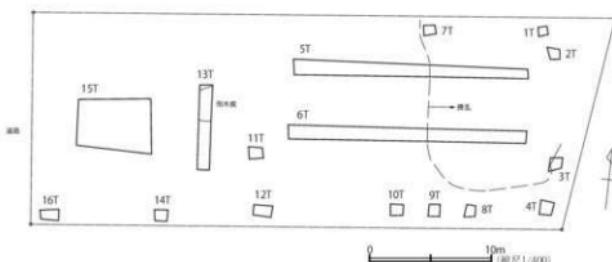
調査地は、中丸川低地近くの台地上平坦部に位置する。調査時は畠地であった。調査は16か所のトレンチを設定し、重機による表土除去を実施した。トレンチの深さは0.6~0.8mを測る。調査の結果、調査区からは遺構・遺物は確認されなかった。

第19表 寄居新田古墳群調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	主な遺構	文献
1	2019	公社	試掘	溝2	1
2	2019	公社	試掘	なし	1
3	2019	公社	試掘	溝1	1
4	2019	公社	試掘	溝1, 土坑1, ピット3	1

文献

- 1 令和元年度ひたちなか市内道跡発掘調査報告書



第63図 寄居新田古墳群第5次調査区

III 本調査報告

1 三反田新堀遺跡第20次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字新堀 5233番1

期間 / 令和2年1月7日～1月21日 担当 / 佐々木義則、
田中美零 面積 / 32m² 時代 / 弥生 遺構 / 竪穴遺構1
基(弥生時代)

調査地は、中丸川低地を望む台地縁辺から40mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第19次調査）がなされていたため、今回の調査区に係る遺構配置はおおよそ予想がついた。以下、簡単に調査の経過を記す。

1月7日：調査区設定後、重機による表土除去。竪穴遺構掘り込み開始。 1月10日：遺構完掘写真撮影。

1月15日：平面図作成。 1月16日：サブトレーナによる掘形調査。 1月20日：重機による埋戻し。

1月21日：現場撤収作業。



第64図 三反田新堀遺跡第20次調査区の位置



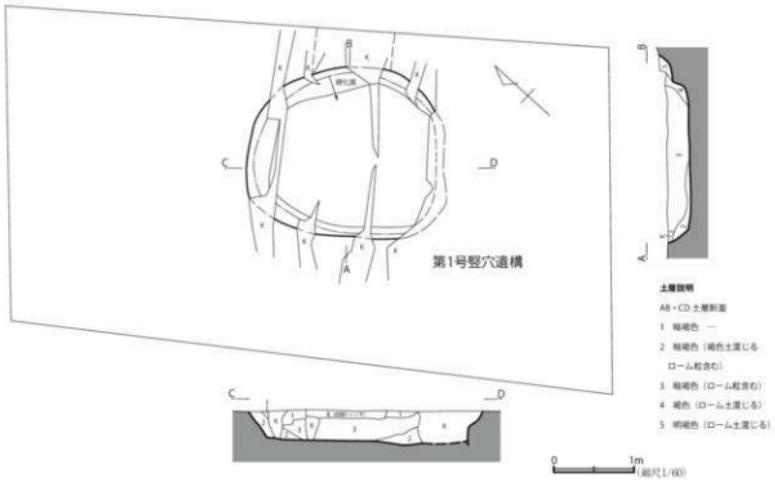
第65図 三反田新堀遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第20表 三反田新堀遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
1	1984	勝山市教委	試掘	なし	1
2	2004	市教委	試掘	住居1(弥生中期), 溝1	2
3	2005	市教委	試掘	溝1, 土坑1	3
4	2005	市教委	試掘	溝1, 土坑1	3
5	2006	市教委	試掘	なし	4
6	2007	市教委	試掘	なし	5
7	2008	公社	試掘	溝1, ピット3	6
8	2008	公社	試掘	溝2	6
9	2008	公社	試掘	住居2(平安), 溝1	6
10	2008	公社	本調査	住居2(9世紀), 溝2	6
11	2008	公社	試掘	なし	6
12	2008	市教委	試掘	なし	6
13	2009	公社	試掘	溝2	7
14	2010	公社	試掘	溝2, 土坑1	8
15	2010	公社	試掘	住居1(古墳), 溝1	8
16	2011	公社	試掘	なし	9
17	2012	公社	試掘	溝2(中期後期1), 土坑1	10
18	2016	公社	試掘	なし	11
19	2019	公社	試掘	住居2(弥生1, 時期不明1), ピット1	12

文献

- 昭和59年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成16年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成17年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成18年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成19年度市内遺跡発掘調査報告書
- 平成20年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成21年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成22年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成23年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成24年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 平成25年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書



第66図 三反田新堀遺跡第20次調査区第1号竪穴遺構

(2) 竪穴遺構

第1号竪穴遺構

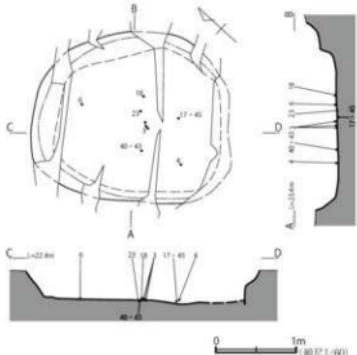
遺構 第1号竪穴遺構は重複する遺構はない。当遺構の長軸方向は、N-40°-Wを測る。竪穴部の規模は、長軸2.4m、短軸2.1mで、形状は不整椭円形である。壁は壁高が0.25～0.35mを測り、丸みを持ちながら斜めに立ち上がる。床面に柱穴や炉は認められない。床は全体が硬化しており、その範囲は竪穴部壁の中位にまで及んでいた。竪穴部覆土は、暗褐色土を基調とする自然埋土と思われるが、北東側の壁際にローム土が混じる褐色土の堆積が認められた。竪穴部の掘形はその有無をサブトレチにより確認したが、掘形はないことがわかった。

遺物出土状況 床面より土器3・6が出土し、床面からやや浮いた状態で土器4・17・18・23・40・43・45が出土している。いずれも弥生時代中期の土器片であることから、第1号竪穴遺構は弥生時代中期に属すると思われる。

遺物説明

第68～69図

- 1 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：縄文時代中期 器種：一 文様：撫糸文(L) 備考：器内面剥落



第67図 三反田新堀遺跡第20次調査区第1号竪穴遺構遺物出土状況

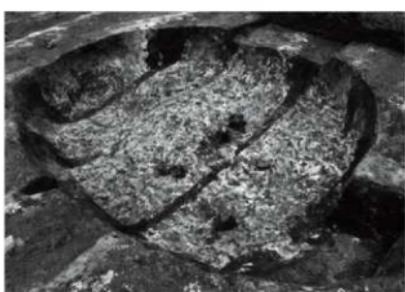
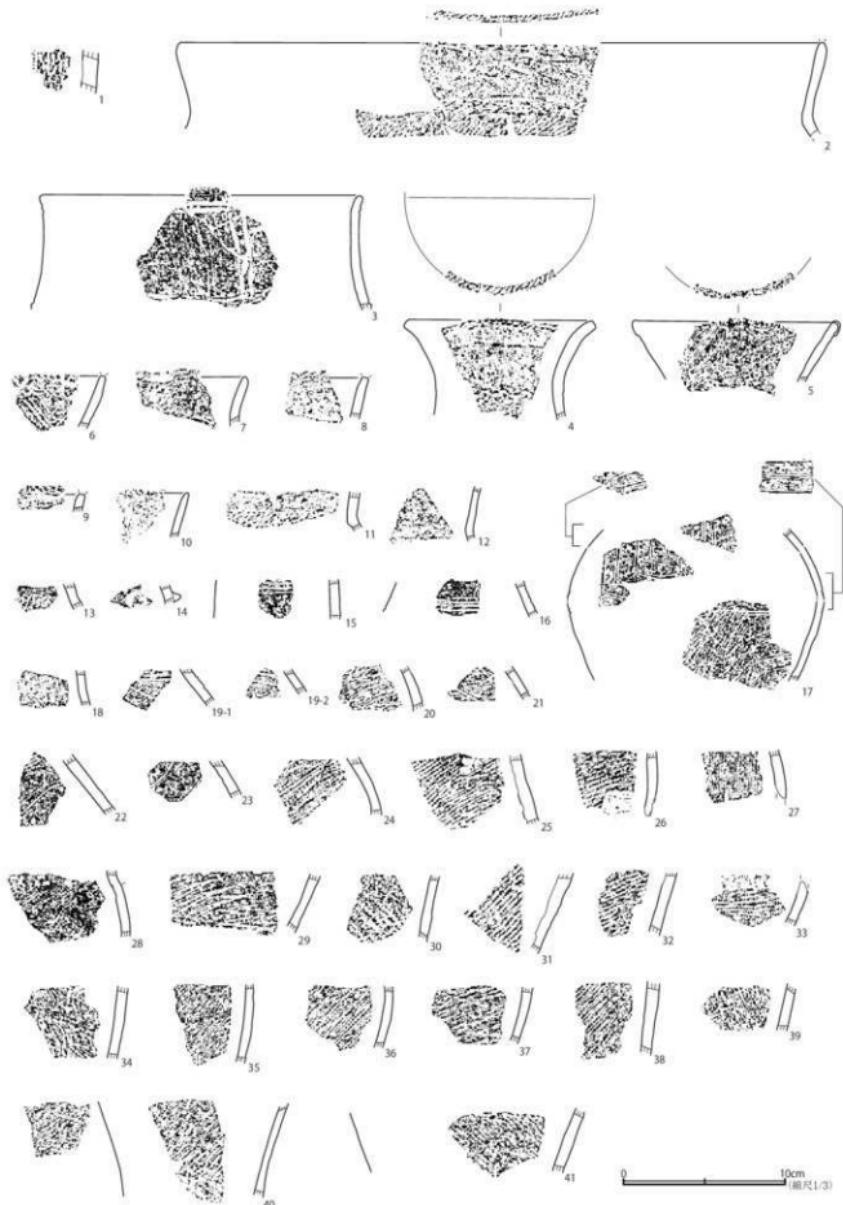
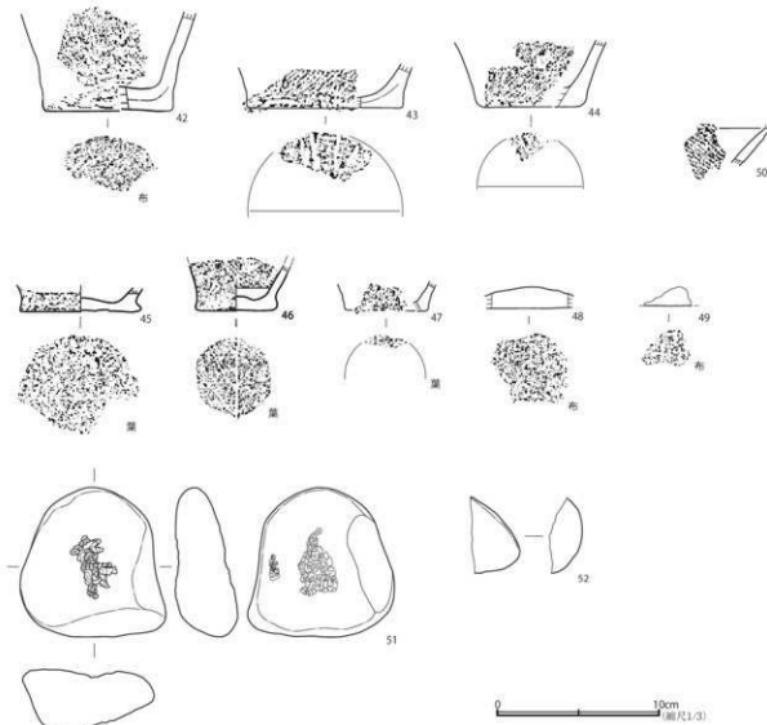


写真1 三反田新堀遺跡第20次調査区第1号竪穴遺構遺物出土状況



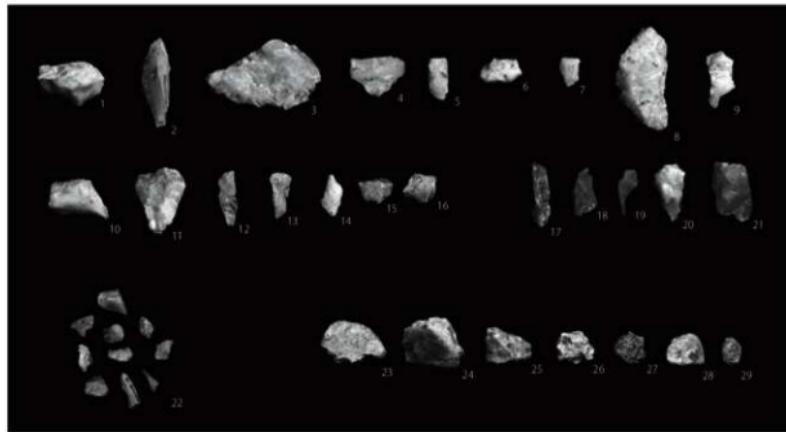
第 68 图 三反田新堆遗址第 20 次调查区第 1 号竖穴道横出土遗物 (1)



第69図 三反田新堀遺跡第20次調査区第1号竪穴道横出土遺物(2)

- 2 出上位置・注記：20次1住2区、4区 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 法量：口径 397mm(残存率 9%)、頭径 382mm(残存率 12%) 文様：口唇部繩文、頸部反燃り繩文(LL)カ
 3 出上位置・注記：20次1住PTP10.P12.1住2区、1住 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 法量：推定口径 198mm、頭径 196mm(残存率 14%) 文様：頸部沈線文(△状工具) 備考：器内外面磨き、胎上に白色粒目立つ
 4 出上位置・注記：20次1住P2 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 法量：口径 118mm(残存率 20%) 文様：口唇部繩文(LR)、頸部單節斜繩文(LR) 備考：器内外面磨き
 5 出上位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 法量：口径 126mm(残存率 17%) 文様：口唇部突起、繩文力、口縁部沈線文(平底竹管)
 6 出上位置・注記：20次1住P5.1住 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：口唇部繩文、口縁部沈線文(棒状工具) 備考：器内外面磨き
 7 出上位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 文様：口唇部繩文(LR)カ 備考：器内外面磨き、胎上に海綿骨針含む

- 8 出上位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器カ 文様：口唇部繩文(LR) 備考：胎上に海綿骨針含む
 9 出上位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：口唇部繩文(LL)
 10 出上位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中期カ 器種：一 文様：口唇部繩文
 11 出上位置・注記：20次1住1区、1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器カ 文様：反燃り繩文(LL)カ
 12 出上位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 文様：繩文あり
 13 出上位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：付加繩文(R.S) 備考：器内外面磨き
 14 出上位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：一 文様：貼痕あり 備考：器外面赤彩あり
 15 出上位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 法量：頭径 76mm(残存率 8%) 文様：鶴描文(3本以上) 備考：



第70図 三反田新堀遺跡第20次調査区第1号竪穴通構出土遺物(3)

(写真縮尺1/2)

器外面赤彩あり

16 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 法量: 径85mm(残存率10%) 文様: 沈線文(半截竹管) 備考: 器外面赤彩あり

17 出土位置・注記: 20次1住P11, 1住3区, 1住, 表土 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種: 小型薩形土器 法量: 径158mm(残存率9%) 文様: 重四角文(半截竹管)付加条縦文(RS) 備考: 器内面磨き, 器外面炭化物付着

18 出土位置・注記: 20次1住P6 時代時期: 弥生時代中期 器種: 一 文様: 沈線文(半截竹管) 備考: 器内面磨き

19 出土位置・注記: 20次1住2区 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種: 一 文様: 沈線文(棒状工具)カ, 推消し彫文

20 出土位置・注記: 20次1住1区 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 文様: 沈線文(棒状工具), 付加条縦文(LR+R)カ 備考: 器内面磨き

21 出土位置・注記: 20次1住4区 時代時期: 弥生時代中期 器種: 一 文様: 沈線文(棒状工具), 付加条縦文(LR+R)カ 備考: 器内面剥落

22 出土位置・注記: 20次1住4区 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種: 薩形土器カ 文様: 沈線文(棒状工具)

23 出土位置・注記: 20次1住P9 時代時期: 弥生時代中期(足洗式) 器種: 薩形土器カ 文様: 沈線文(棒状工具) 備考: 器内面剥落

24 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 文様: 付加条縦文(RS) 備考: 器内面一部剥落

25 出土位置・注記: 19次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 文様: 无節縦文(L) 備考: 器内面剥落, 二次焼成あり

26 出土位置・注記: 19次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 一 文様: 无節縦文(L) 備考: 器外面一部剥落

27 出土位置・注記: 19次1住 時代時期: 弥生時代 器種: 一 文様: 条痕カ 備考: 器内面剥落

28 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 文様: 付加条縦文(RS)

29 出土位置・注記: 20次1住1区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器カ 文様: 付加条縦文(LR+R)カ 備考: 器内面磨き

30 出土位置・注記: 20次1住4区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器カ 文様: 付加条縦文(RL+L)カ

31 出土位置・注記: 20次1住3区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

一 文様: 付加条縦文(LR+R)カ 備考: 脣土に礫粒目立つ, 器内面剥落

32 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 一

文様: 擬糸文カ 備考: 器内面一部剥落

33 出土位置・注記: 20次1住2区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器カ 文様: 付加条縦文(LR+2R)

34 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 文様: 反振り縦文(RR) 備考: 器内面一部剥落

35 出土位置・注記: 20次1住4区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器カ 文様: 付加条縦文(L3R+R)カ 備考: 器内面磨き

36 出土位置・注記: 20次1住2区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器カ 文様: 付加条縦文(L3R+R)カ 備考: 器内面磨き, 器外面炭化物付着

37 出土位置・注記: 20次1住3区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器カ 文様: (LR+RL-Z)カ 備考: 器内面磨き

38 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 一

文様: 付加条縦文(L2R+R)カ

39 出土位置・注記: 20次1住 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器カ 文様: 付加条縦文(L×Lの盛り戻し)カ

40 出土位置・注記: 20次1住P3, 1住3区 時代時期: 弥生時代中期 器種: 薩形土器 法量: 径104mm(残存率12%) 文様: 反振り縦文(LL)カ 備考: 器外面磨き

41 出土位置・注記: 20次1住3区 時代時期: 弥生時代中期 器種:

薩形土器 法量: 径144mm(残存率13%) 文様: 反振り縦文(RR)カ

42 出土位置・注記: 19次1住, 20次1住 時代時期: 弥生時代中・後期カ 器種: 薩形土器 法量: 径80mm(残存率29%) 文様: 反振り縦文(RR)カ, 底面布目痕



第71図 三反田新堀道路第20次調査区出土遺物

- 43 出土位置・注記：20次1住P3 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：彫形土器カ 法量：底径 96mm(残存率 23%) 文様：付加条縦文 (LR+R) 底面にヘラ状工具による沈線カ
- 44 出土位置・注記：20次1住3区.1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：彫形土器カ 法量：底径 68mm(残存率 15%) 文様：付加条縦文 (R-S)
- 45 出土位置・注記：20次1住P1.1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：彫形土器カ 法量：底径 74mm(残存率 54%) 文様：單節斜縦文 (LR) カ、底面木葉痕
- 46 出土位置・注記：19次1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：彫形土器 法量：底径 50mm(残存率 100%) 文様：單節斜縦文 (RL) カ、底面木葉痕 備考：胎上に海綿骨針含む
- 47 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：彫形土器カ 法量：底径 52mm(残存率 18%) 文様：底面木葉痕
- 48 出土位置・注記：20次1住3区 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：— 文様：底面布目痕
- 49 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：— 文様：底面布目痕
- 50 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代中期 器種：高环カ 文様：口唇部縦文、口縁部反振り縦文 (RR) 備考：器外赤彩あり
- 51 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代 器種：敲石 石材：砂岩 法量：長さ 93mm、幅 90mm、厚さ 39mm、重さ 414.75g
- 52 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代 器種：椎石 石材：砂岩 法量：長さ 47mm、幅 30mm、厚さ 20mm、重さ 28.8g

第70図

- 1 出土位置・注記：20次1住S1 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英 法量：長さ 20mm、幅 27mm、厚さ 18mm、重さ 74mg
- 2 出土位置・注記：20次1住S2 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英 法量：長さ 38mm、幅 12mm、厚さ 8mm、重さ 27mg
- 3 出土位置・注記：20次1住S3 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英 法量：長さ 30mm、幅 49mm、厚さ 9mm、重さ 85mg
- 4-7 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英
- 8-9 出土位置・注記：20次1住2区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英
- 10-16 出土位置・注記：20次1住 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：石英
- 17-19 出土位置・注記：20次1住1区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：メノウ 備考：17は外形が円錐の破片で水晶が生じている
- 20 出土位置・注記：20次1住4区 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：メノウ

- 21 出土位置・注記：表土 時代時期：弥生時代 器種：剥片 石材：メノウ
- 22 出土位置・注記：20次1住2区、4区。1住 時代時期：弥生時代 石材：石英
- 23-29 出土位置・注記：20次1住2区、3区。1住 時代時期：弥生時代 器種：焼粘土塊 備考：23は平らなクッキー状の焼粘土塊

(3) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

遺物説明

第71図

- 1 出土位置・注記：20次表土 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文 (L) カ 備考：器内面磨き
- 2 出土位置・注記：19次9トレス 時代時期：弥生時代中期 器種：— 文様：付加条縦文 (LR+R) カ
- 3 出土位置・注記：20次表土 時代時期：弥生時代中・後期カ 器種：— 文様：底面布目痕

2 市毛上坪遺跡第30次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市市毛上坪 1209 番 5 期間 / 令和2年1月21日～2月12日 担当 / 佐々木義則、田中美零 面積 / 77 m² 時代 / 弥生・古墳 遺構 / 竪穴住居跡4基(弥生時代1基、古墳時代3基)、土坑3基

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から140mほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。調査時は住宅地であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(第29次調査)がなされていたが、今回の調査により試掘とは一部の遺構配置が異なる結果となった。調査区は全体的にかなり深く擾乱が入っており、遺構の遺存状況はよくなかった。以下、簡単に調査の経過を記す。

1月21日：調査区設定。 1月22～24日：重機による表土除去。 1月30日：遺構確認、掘り込み開始。

1月31日：図面・写真による記録作業開始。 2月5日：調査区全体図作成。 2月12日：現場撤収作業。

(2) 住居跡

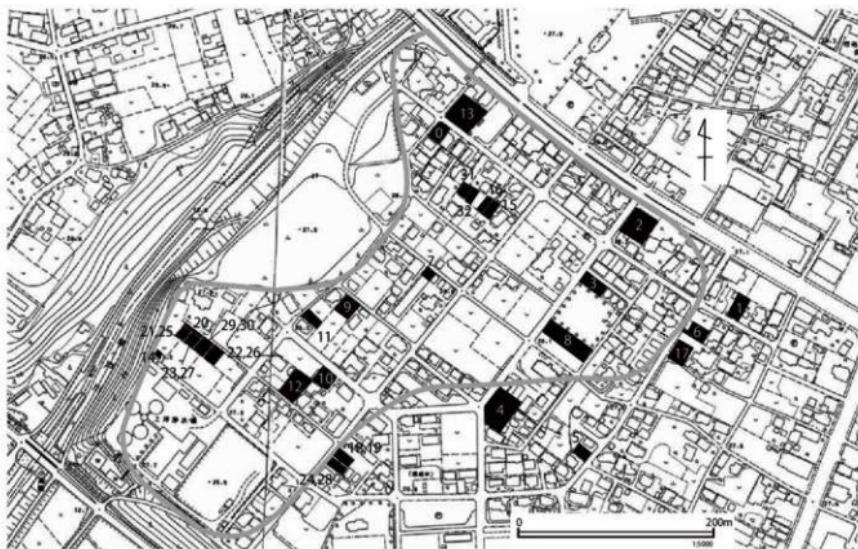
第1号住居跡

遺構 第1号住居跡は床面・竈の一部等が確認できたのみで遺存状況は悪く、規模や形状等は不明である。北東側の床面境界部分と思われるラインが、遺構確認面の色調差により確認でき、主柱穴のあり方などを合わせ考えると、主軸方向は、N-45°-Wを測る。遺存部分の状況からみて竪穴部の規模は一辺5m以上と推定される。ピットはP1～4が主柱穴であろう。ピットの深度は、P1が64cm、P2が31cm、P3が59cm、P4が51cmを測る。擾乱が床面まで達しているため床の遺存状況は悪いが、それでも竈前から南東方向に向かい主柱穴内部に硬化面を認めることができた。竈は焚口部分付近の確認にとどまるが、泥岩切石により焚口部両脇は補強されていた。

遺物は覆土中より土師器甕や杯の小片が出土している。土器の年代は不明瞭であるが、古墳時代後期になると思われる。

第2号住居跡

遺構 第2号住居跡は北西隅部が擾乱のため床面が



第72図 市毛上坪遺跡の調査地点（数字は調査次数）

第 21 表 市毛上坪遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
0	1979	勝山市教委	木調査	不明	なし
1	1980	勝山市教委	木調査	住居跡 1 (古墳)	1
2	1985	勝山市教委	木調査	住居跡 1 (古墳)	なし
3	1985	勝山市教委	試掘調査	なし	2
4	1985	勝山市教委	木調査	住居跡 2 (平安)、溝跡 1、土坑 10	2
5	1986	勝山市教委	試掘	なし	3
6	1999	勝山市教委	試掘	なし	4
7	1992	勝山市教委	木調査	溝跡 1	5
8	1996	市教委	試掘	なし	6
9	2006	市教委	試掘	なし	7
10	2006	市教委	木調査	住居跡 2 (古墳 1、平安 1)、土坑 1	7
11	2006	市教委	試掘	住居跡 2 (古墳 1、平安)、溝跡 1	7
12	2012	公社	試掘	住居跡 14 (古墳か)	8
13	2013	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)	9
14	2014	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)、土坑 1	10
15	2015	公社	試掘	住居跡 1 (古墳)、溝跡 1	11
16	2016	公社	試掘	住居跡 2 (古墳)	12
17	2017	公社	試掘	住居跡 2 (古墳)	13
18	2017	公社	試掘	住居跡 3 (平安 2、時不明) 1	13
19	2017	公社	木調査	住居跡 4 (古墳 2、平安 2)	14
20	2017	公社	試掘	住居跡 2 (時不明)、溝跡 1	14
21	2018	公社	試掘	住居跡 3 (古墳)	14
22	2018	公社	試掘	住居跡 4 (発生 1、古墳 3)	14
23	2018	公社	試掘	住居跡 3 (古墳)、土坑 2	14
24	2018	公社	試掘	住居跡 4 (発生 1・平安)	14
25	2018	市調査	住居跡 5 (古墳)、溝跡 1、溝跡 2、土坑 2	14	
26	2018	公社	木調査	住居跡 4 (古墳)	14
27	2018	市調査	住居跡 4 (古墳)、溝跡 1	14	
28	2018	公社	木調査	住居跡 4 (古墳 2、平安 2)	14
29	2019	公社	試掘	住居跡 6 (古墳 4、時期不明 2)、溝跡 1	15

文献

- 1 平成3年度市内遺跡発掘調査報告書(昭和 55 年度)
- 2 昭和 60 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 3 昭和 61 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 4 平成 3 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 5 平成 4 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 6 平成 5 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 7 平成 18 年度市内遺跡発掘調査報告書
- 8 平成 24 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 9 平成 25 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 10 平成 26 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 11 平成 27 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 12 平成 28 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 13 平成 29 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 14 平成 30 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
- 15 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

削られており、また全体的に床面近くまで攪乱されているため、遺存状況は悪い。住居北西部のみの調査であり、主軸方向は N-26° -W を測る。竪穴部の規模は東西 6.8 m を測る。ピットは P1・2 が主柱穴と思われるが、位置からみて P2 は主柱穴ではないかもしれない。ピット

の深さは P1 が 67cm、P2 が 53cm を測る。北東隅部の壁高は 11 cm である。炉は 2 か所確認された。炉 1 は径 0.3m ほどに床面が焼けている状況であった。炉 2 は長軸 1m、短軸 0.4 m、深さ 3 cm ほどの浅い掘り込みの底面が焼けるものであった。床面は北壁際を除く部分に硬化面がみられている。竪穴部覆土は攪乱を受け遺存状況がよくないため様相は不明である。住居掘形は EF 土層断面部分にサブトレンドを入れて確認したが特に掘り込みは見られなかった。

遺物は覆土中より土師器甕や杯の小片が出土している。炉をもつ住居跡であることから時期は古墳時代中期になるのであろう。

第 3 号住居跡

遺構 第 3 号住居跡は第 1 号住居跡と重複する。円形を呈すると思われる住居跡の南東部のみの調査であり、竪穴部の規模は不明であるが調査部分からみておそらく径 3m ほどになるだろうと思われる。壁高は 0.2 m ほどを測り壁周溝はみられない。ピットは壁際に 2 つあり、深さは P1 が 18cm、P2 が 16cm を測る。P1・2 付近を除く底面が硬化していた。竪穴部覆土は壁際にロームブロックを含む暗褐色土の堆積がみられており、竪穴部周囲の盛土の崩落土かもしれない。なお床面からの観察であるが、住居掘形は認められないようである。

遺物は覆土から上師器甕の小片が少量出土しているが、住居形態からみて弥生時代の住居跡と思われるので、1 点のみ出土した弥生土器を図化している。

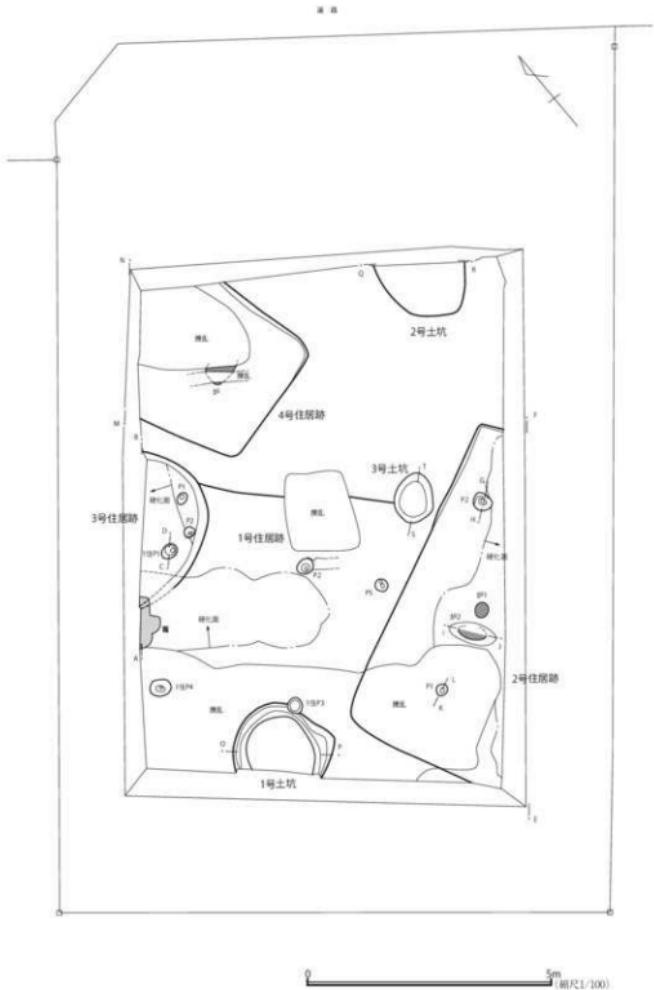
遺物説明

第 7 図

- 1 出土位置・注記: 3 住 時代時期: 弥生時代後期 (十王台式) 器種: 菱形土器 文様: 橫彫文 (4 本) カ、付加条彫文 (L × L) 備考: 器外面に炭化物付着、器内部一部変色

第 4 号住居跡

遺構 第 4 号住居跡は攪乱のため床面が大きく削られており、また全体的に床面近くまで攪乱されているため、遺存状況は悪い。住居南半部のみの調査であり主軸方向は N-17° -W を測る。竪穴部の規模は東西 3.2 m、南北 3.6 m 以上を測る。ピットは認められなかった。東壁の壁高は 9 cm である。炉は 1 か所確認され、推定径 0.7 × 0.5m ほどに床面が焼けるものである。床面は攪乱が



第73図 市毛上坪遺跡第30次調査区

多く不明瞭ではあるが、全体的に硬化するようである。住居掘形はMN土層断面部分では全体的に10cmほど掘り込まれているようである。

遺物は覆土中より土師器小片が少量出土している。がんをもつ住居跡であることからみて、時期は古墳時代中期であろう。

(3) 土坑

土坑は3基検出した。第1号土坑は径2.0m、深さ30cmほどを測る円形を呈する。底面は平坦で、壁際が1~5cmほど溝状にくぼんでいる。一部掘り下げたところ床下は10cmほど深い掘形を有するようあり、ロームブロックを多く含む土で埋め戻されていた。遺物は覆土中より古墳時代後期の土師器杯が出土しているので、当該期の土坑になる可能性もある。

第2号土坑は規模が不明だが、残存部分から推定して2.2×1.7mほどの不整円形を呈するものと思われる。擾乱により床面の一部が確認されたにとどまるが、やや凹凸のある床面には白色粘土が敷かれていた。遺物は出土しなかった。

第3号土坑は1.0×0.8mほどの不整円形を呈するものと思われる。壁は緩く斜めに立ち上がり、床面は平坦である。遺物は出土しなかった。

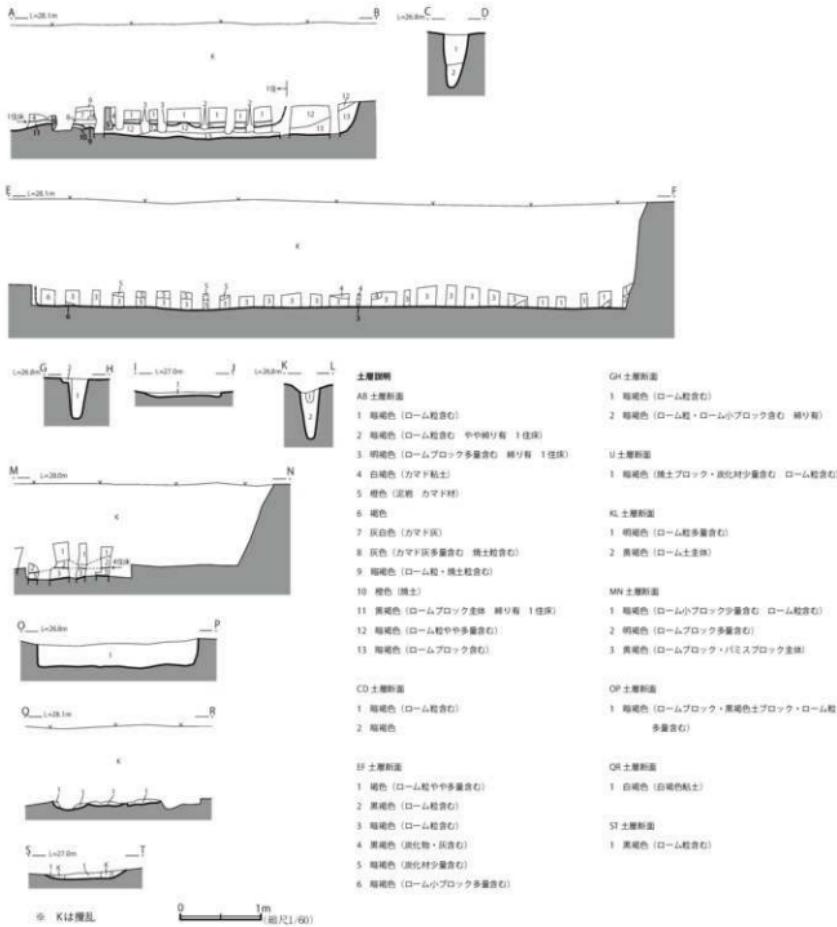
(4) 調査区出土遺物

各遺構の時期と異なる可能性が高い遺物や、表土から出土した遺物である。

遺物説明

第76図

1 出土位置：1号土坑 材質：土師器 器種：杯 残存：10% 法量：口径(12.1)、高(3.5) 色調：内外とも褐-黒褐色 脱土：砂(白少)



第 74 図 市毛上坪遺跡第 30 次調査区土層

透少）燒成：良好 技法等：外面口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ。下位ヘラ削り。内面口縁～体部上位ヨコナデ、体部ヘラミガキ。内外面とも黒色処理。 使用痕：— 備考：—

2 出土位置：表土 材質：土師器 器種：甕 疣存：口縁部 10% 法量：口径 (18.0), 高 (6.5) 色調：外面に赤い黄褐色～黒褐色。内面浅黄色～黒。 胎上：疊（白微）、砂（白多、透多、黑微）。 燒成：良好 技法等：外面口縁部上～中位ヨコナデ。下位～胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ。 脚部ヘラナデ、ナデ。 使用痕：— 備考：—

3 出土位置：表土 材質：土師器 器種：甕 疣存：口縁部 10% 法量：口径 (16.3), 高 (5.3) 色調：外面赤橙～褐色。 胎上：疊（白微）、砂（白

多、透多）燒成：良好 技法等：外面ヨコナデ後ヘラ削り。内面ヨコナデ？ 使用痕：— 技法等：内面表面の大半が剥離している。

第 77 図

- 1 出土位置・注記：1 住 時代時期：縄文時代中期 器種：深形土器 カ文様：単節斜縞文 (LR) 備考：胎上に赤褐色粒目立つ
- 2 出土位置・注記：2 住 時代時期：縄文時代後期（称名寺式）カ文様：沈線文、単節斜縞文 (LR) カ 備考：胎上に白色粒目立つ
- 3 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器 カ文様：沈線文 備考：胎上に海綿骨片含む
- 4 出土位置・注記：2 住 時代時期：弥生時代中期カ 器種：圓形土器

文様：沈線文カ、單節斜縞文（LR）

5 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器
文様：反燃り縞文（LL）カ

6 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：反燃り縞文（RR）カ

7 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代中期 器種：壺形土器カ
文様：單節斜縞文（LR）備考：器内面磨き

8 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：付加条縞文（LR+R）カ 備考：器内面磨き

9 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：付加条縞文（R+S）備考：器内面磨き

10 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代中期カ 器種：壺形土器カ
文様：付加条縞文（RS）備考：器内面磨き

11 出土位置・注記：4 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
小型頸部壺形土器カ 文様：柳描文（6本）

12 出土位置・注記：1 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：柳描文（4本）

13 出土位置・注記：2 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：付加条縞文（R×R, L×L）

14 出土位置・注記：2 住 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
大型壺形土器 文様：付加条縞文（R×R, L×L）備考：内一部剥落

15 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
大型壺形土器 文様：付加条縞文（R×R, L×L）備考：器内一部剥落

16 出土位置・注記：SK1 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器カ 文様：付加条縞文（R×R）備考：胎土に海綿骨針含む、
器内外変色、器外炭化物付着

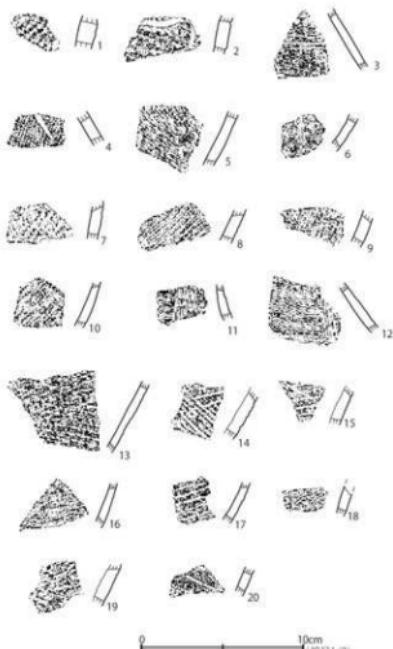
17 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器 文様：付加条縞文（R×R）

18 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代後期（十王台式） 器種：
壺形土器カ 文様：付加条縞文（R×R）

19 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ

文様：付加条縞文（R×L）カ 備考：器内面剥落

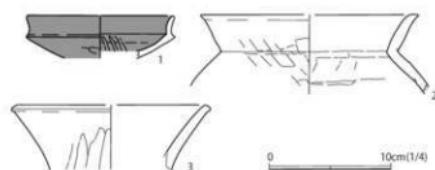
20 出土位置・注記：表探 時代時期：弥生時代後期 器種：壺形土器カ
文様：付加条縞文（RL+L）カ



第74図 市毛上坪遺跡第30次調査区出土遺物(2)



第75図 市毛上坪遺跡第30次調査区第3号住居跡出土遺物



第76図 市毛上坪遺跡第30次調査区出土遺物(1)

3 堀口遺跡第32次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市堀口字塙坪42番9 期間 / 令和2年2月18日～3月11日 担当 / 佐々木義則、田中美零 面積 / 39 m² 時代 / 奈良・平安 遺構 / 竪穴住居跡3基(奈良・平安時代2、時期不明1)

調査地は、那珂川低地を望む台地縁辺から230mほど離れた地点に位置する。調査区北東方向には那珂川低地から延びる谷の谷頭部分があるため、調査区周辺は北東方向へ緩く傾斜する地形を呈する。調査時は調査区に宅地造成が済んでおり、砂質土による土盛りが施された状況であった。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査(第29次調査)がなされていたため住居跡の配置はおおよそ予想通りであった。以下、簡単に調

査の経過を記す。

2月18日：調査区設定。 2月19日：重機による表土除去。 2月20日：遺構確認、掘り込み開始。

2月26日：図面・写真による記録作業開始。 2月28日：調査区全体図作成。 3月11日：現場撤収作業。

(2) 住居跡

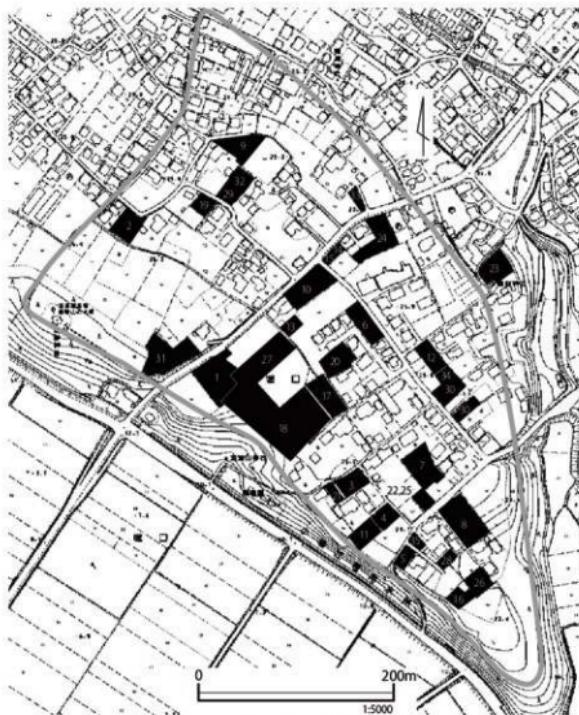
第1号住居跡

遺構 第1号住居跡は第2号住居跡と重複する。新旧は土層から第2号住居跡→第1号住居跡である。当住居跡の主軸方向は、N44°Wを測る。

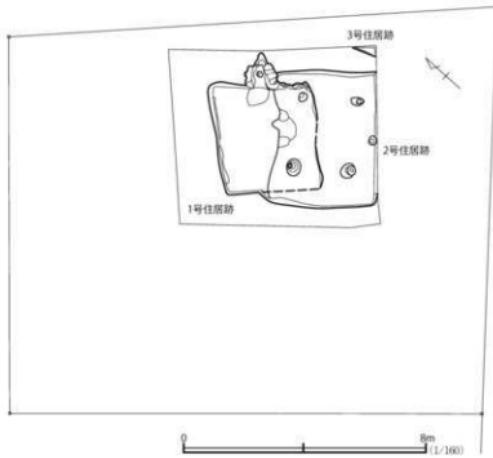
竪穴部は、3.6×3.4 m、面積12.2 m²で、形状はやや縱長の正方形である。壁高は竪のある壁を北壁とみると、東壁0.5 m(CD土層断面による)、西壁0.5 m、南壁0.5 m、北壁0.5 mである。壁周溝は断続的にめぐるようであるが不明瞭である。床面にピットはみられない。

床は南壁際および住居東側を除く部分が硬化する。竪穴部覆土はブロック土を含む褐色土が堆積しており、人為的埋土かもしれない。住居中央やや南西よりの覆土中位から白褐色粘土ブロックがまとまって出土していることも人為的な埋め戻しを示すものかもしれない。この白褐色粘土ブロックは竪に用いられるものと類似する。

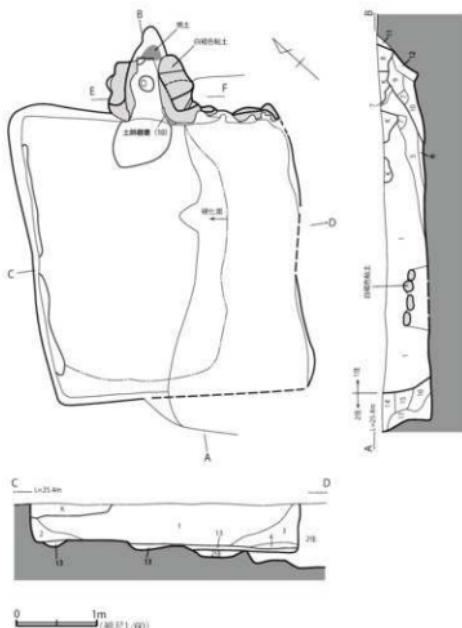
竪は両側面の粘土が比較的よく残っており、竪前床面が若干浅くくぼんでいた。竪右側の焚口側面部において、白褐色粘土を覆うように土師器壺胴部片が出土したが、これはおそらく2号住居跡との重複部分であるため補強が図られたのであろう。竪から右側に向けて竪穴部壁面に白褐色粘土が貼られているが、これも壁面の崩落を防ぐための処置と思われる。なお竪中央床面に小さなピットが確認されたが、これは位置からみて支脚を据えた穴ではないだろうか。また竪覆土中に灰が認めら



第78図 堀口遺跡の調査地点(数字は調査次数)



第79図 堀口遺跡第32次調査区



◎Kは発見品。

第80図 堀口遺跡第32次調査区第1号住居跡

れたため、その土層を採取し洗浄したところ、25点以上の炭化米が検出された。

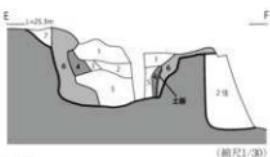
住居掘形は、CD土層断面部で確認したがほとんど掘り込みはみられなかった。

遺物出土状況 土師器壺8は竈補強材として用いられた土師器壺10と同様に、竈付近および住居南隅部付近から出土している。住居廃絶に伴う竈解体の際に、竈補強材として用いられた土師器壺(8・10)の一部が住居南隅に投げ捨てられたのではないかと思われる。このほか覆土中から銅板小片が出土している。

遺物説明

第82回

1 出土位置: 1住 注記: P11 材質: 頸壺器 器種: 杯 残存: 底部外周 20%、体部下半 10% 法量: 底部 (9.3) 色調: 灰色 肩上: 磁 (白少), 砂 (白)



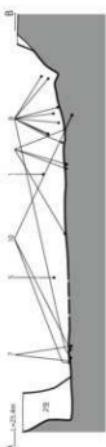
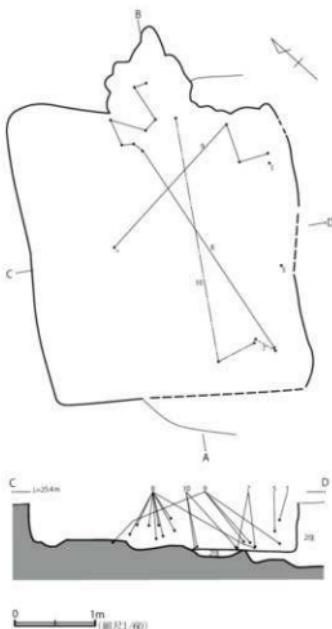
上層断面 (尺1/30)

A-B・C-D土層断面

- 1 細褐色 (ローム粘や多量含む ローム小ブロック含む 黒褐色土ブロック含む)
- 2 細褐色 (ローム粘や多量含む)
- 3 明褐色 (ローム粘や多量含む)
- 4 黄褐色 (ローム粘・ローム小ブロック非常に多量含む)
- 5 細褐色 (ローム粘や多量含む)
- 6 明褐色 (ローム小ブロック含む)
- 7 明褐色 (カマド粘土ブロック多量含む)
- 8 黄褐色 (ローム粘多量含む)
- 9 細褐色 (カマド粘土小ブロック・焦土粘・ローム粘含む 黄褐色土混じる)
- 10 明褐色 (カマド粘土ブロック多量含む 焦土ブロック少量含む 黄褐色土混じる)
- 11 暗褐色 (焦土)
- 12 明褐色 (カマド粘土小ブロックと焦土小ブロックと灰の混合層)
- 13 明褐色 (ローム小ブロック多量含む 焦土小ブロック少量含む 黄褐色)
- 14 黄褐色 (ローム粘含む ローム小ブロック少量含む)
- 15 細褐色 (ローム粘多量含む)
- 16 明褐色 (ローム粘含む)
- 17 明褐色 (ローム土混じる)

E-F土層断面

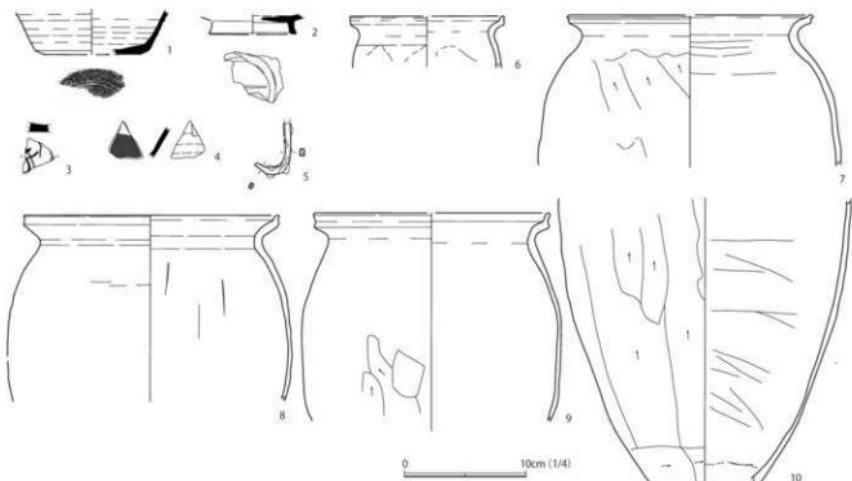
- 1 細褐色 (ローム粘多量含む 焦土小・ブロック少量含む)
- 2 細褐色 (白褐色粘土ブロック多量含む 焦土粘含む)
- 3 明褐色 (白褐色粘土多量含む)
- 4 細褐色 (焦土)
- 5 細褐色 (焦土粘・灰化物粘少量含む 白褐色粘土混じる)
- 6 白褐色 (カマド粘土)
- 7 明褐色 (ローム土と褐色土の混合層)



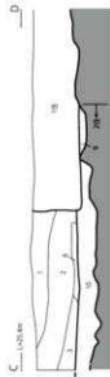
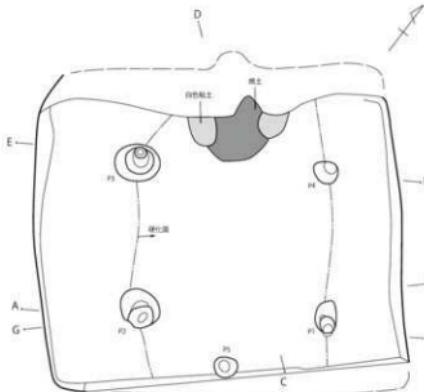
第 81 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡出土状況

透少、灰少) 特徴: 回転ヘラ切り 備考: 木葉下窓産か

- 2 出土位置: 1 住 注記: 4 区② 材質: 須恵器 器種: 有台杯
残存: 底部 30% (高台若干残存) 法量: 高台径 (6.7) 色調:
灰色 胎土: 砂 (白) 骨針微量 特徴: 底部外面に浅いヘラ記号
- 3 出土位置: 1 住 注記: 3 区 材質: 須恵器 器種: 杯 残存:
底部中央部片 法量: — 色調: 灰色 胎土: 砂 (白) 骨針少
特徴: 底部外面ナデの後ヘラ記号。底部外面墨書き (文字不明)。
備考: 木葉下窓産か
- 4 出土位置: 1 住 注記: 4 区 材質: 須恵器 器種: 杯 残存:
全体部片 法量: — 色調: 明灰色 胎土: — 特徴: 内面に黒色漆 (あるいは油煙) 付着
- 5 出土位置: 1 住 注記: II 材質: 鉄 器種: 不明 (釘か?)
法量: 残存長 6.8、重量 6.5g 特徴: 斜面や長方形
- 6 出土位置: 1 住 注記: カマド 材質: 上師器 器種: 罐 残存:
口縁部 15% 法量: 口径 (12.4) 色調: 橙色 胎土: 砂 (透多、
白少) 骨針微量 特徴: 胸部内外面ナデ。口縁部ココナデ。内面
汚染により黒味を帯びる。
- 7 出土位置: 1 住 注記: P6・8、2 区、2 住 注記: 上師器 器種:
甕 残存: 口縁部 20% 法量: 口径 (19.7) 色調: 暗褐色 胎土:
礫 (白透、灰少)、砂 (透、灰少) 黒雲母微量 特徴: 胸部外側面斜
方向へナギり、肩部内側横方向ナデ。口縁部ココナデ。
- 8 出土位置: 1 住 注記: P7・17・18・19・20・22・23、
29・30、4 区、カマド 材質: 上師器 器種: 罐 残存: 口縁部
80%、胸部上半 30% 法量: 口径 20.7 色調: 暗褐色 胎土: 砂 (透
多、白透)、骨針微量 特徴: 胸部外側面ナデ。胸部内側横方向ナデ。
口縁部ココナデ。
- 9 出土位置: 1 住 注記: P12・13・15・16、1 区、2 区、カマド,
2 住 Pit4 材質: 上師器 器種: 罐 残存: 口縁部 50%、胸部上
半 30% 法量: 口径 (19.0) 色調: 橙色 胎土: 磬 (白、灰少、白、



第 82 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡出土遺物



土層説明

AB・CD 土層断面

1 明褐色 (ロームブロック含む) 黒褐色ブロック含む 人糞的埋土が

2 間色 (ローム粒多量含む) ローム小ブロック少量含む 人糞的埋土が

3 暗褐色 (ローム粒や多量含む)

4 明褐色 (ローム粒多量含む)

5 明褐色 (ローム小ブロック・ローム粒多量含む)

6 間色 (ローム粒多量含む ローム小ブロック少量含む)

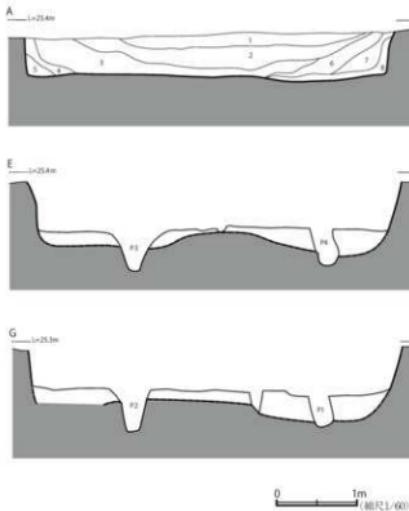
7 暗褐色 (ローム粒や多量含む)

8 明褐色 (ローム粒非常に多量含む ローム小ブロック含む)

9 明褐色 (ローム小ブロック多量含む)

10 明褐色 (ロームのブロック多量含む)

ロームブロック・暗褐色土小ブロック含む)



第 83 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡

透、灰。特徴：胴部外面へラ削り後綱部ナデ。胴部内面横方向ナデ。口縁部ヨコナデ。

10 出土位置：1 住 注記：P3・5・24、2 区、2 住 Pit4 材質：土器器 形種：甕 残存：胴部下半 30% 法量：底径 (8.7) 色調：明褐～暗褐色 膜土：砂（透多、白少、白透少、灰少）特徴：胴部外面縱方向へラ削りの後、下端をヨコ方向へラ削り。胴部内面横方向ナデ。

第 2 号住居跡

遺構 第 2 号住居跡は第 1 号住居跡と重複する。新旧は土層から第 2 号住居跡→第 1 号住居跡である。当

住居跡の主軸方向は N-39° -W を測る。

竪穴部の規模は、東西 4.5 m、南北推定 4.0 m で、形状は横長の正方形である。壁高は東壁 0.5 m、西壁 0.5 m を測る。壁周溝は認められないようである。ピットは P1 ~ P4 が主柱穴、P5 が出入口ピットと思われる。ピットの深さは P1 が 36cm、P2 が 51cm、P3 が 50cm、P4 が 51cm、P5 が 32cm を測る。床は竪前から出入口ピットに向かって主柱穴の間の部分が硬化する。竪穴部覆土は、上層部（第 1・2 層）にロームブロックを含む褐色～明褐色土が堆積しているので、住居跡がある程度埋まったところでその窪みを埋めたのかもしれない。

竪は 1 号住居跡により削平されていたので、竪前面床面の痕跡が残る程度であった。

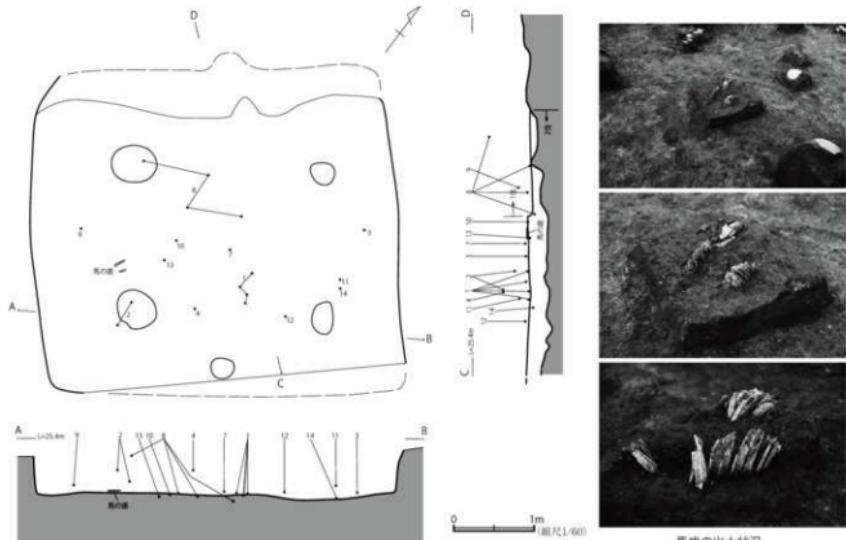
住居掘形は、CD・EF・GH 土層断面部分のサブトレンドによる確認にとどまるが、周囲をやや深く掘り込むタイプと思われる。

遺物出土状況 床面から馬歯（上顎骨）が出土した。馬歯から 1 m ほど離れた床面上からは、底部外面に墨書き（文字不明）をもつ完形の須恵器杯や、完形の手づくね土器が出土していることから、住居跡廃絶に際して（贖罪を目的とした）動物供犠祭祀が行われたのかもしれない。やや離れて勾玉も出土したが、これは覆土中出土のため馬歯とは関わらない可能性が高いだろう。

遺物説明

第 85 図

1 出土位置：2 住 注記：P3・12・13・19、2・3・4 区、1 住 材質：



第 84 図 堤口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡出土状況



写真 1 堤口遺跡第 32 次調査区住居跡出土状況

須恵器 器種：杯 残存：体部下半若干欠失 法量：口径 12.4、器高 4.8、底径 7.9 色調：灰色 胎土：礫（白、灰少、白透少）骨針微量 特徴：回転ヘラ切り。口唇部および底部周縁摩滅。底部外面墨書き（文字不可読）。
2 出土位置：2 住 注記：P4・5、1 区、1 住 1 区 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部 60%、体部 20% 法量：口径 (13.0)、器高 4.7、底径 (8.4) 色調：灰色、口縁部外面黒化 胎土：礫（白多、白透少） 特徴：回転ヘラ切り。底部外面ヘラ記号「一」。備考：木葉下窓產か
3 出土位置：2 住 注記：P17 材質：須恵器 器種：杯 残存：底部 30%、体部 10% 法量：口径 (13.7)、器高 4.9、底径 (9.0) 色調：白褐色 胎土：礫（灰少、白透少） 特徴：底部外面手持ちヘラ切り。口唇部・口縁部内面、外面底部周縁が摩滅。備考：木葉下窓產か

4 出土位置：2 住 注記：P7 材質：須恵器 器種：杯 残存：体部 20% 法量：口径 (10.8)、器高 4.0、底径 (6.7) 色調：暗灰色 胎土：砂（白多、透多） 特徴：外免体部下端・底部回転ヘラ削り。口唇部やや摩滅。備考：産地不明

5 出土位置：2 住 注記：3 区 材質：須恵器 器種：有台杯蓋 残存：鉢部（若干欠失） 法量：鉢径 2.5 色調：灰色 胎土：— 特徴：上面周縁やや摩滅

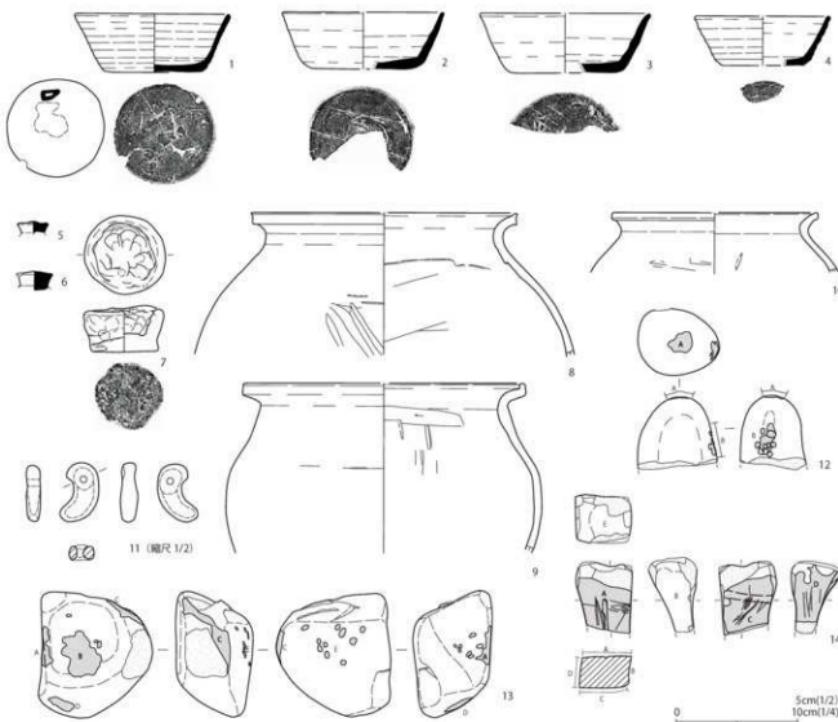
6 出土位置：2 住 注記：4 区 材質：須恵器 器種：有台杯蓋 残存：鉢部（一部欠失） 法量：鉢径 (3.0) 色調：灰色 胎土：砂（白） 特徴：上面中央および周縁が摩滅する

7 出土位置：2 住 注記：P11 材質：土師器 器種：手づくね土器 残存：完形 法量：口径 5.8、器高 3.3、底径 5.4 色調：明褐色、茶褐色、底部外面黑色 胎土：砂（灰微量）、細砂 特徴：底部外面未調整。側面に指頭圧痕（指紋あり）および粘土組合接痕あり。内面は放射状の指頭圧痕あり。

8 出土位置：2 住 注記：P8 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部 10% 法量：口径 (22.6) 色調：外面漆褐～暗褐色、内面褐色 胎土：砂（白透多）、白雲母多 特徴：外面口縁部ヨコナデ→胸部ナデ。内面胸部横方向ナデ、口縁部ヨコナデ→胸部ナデ→頸部ヨコ方向ヘラ削り。

9 出土位置：2 住 注記：P18、3 区、4 区、1 住 P4・9・25、1 住 1 区、2 区・4 区 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部 40%、胸部 10% 法量：口径 (21.5) 色調：褐色 胎土：砂（白透多、白）、白雲母多 特徴：胸部外面横方向ヘラミガキ。胸部内面横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

10 出土位置：2 住 注記：P6 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部 15% 法量：口径 (16.5) 色調：暗褐色 胎土：砂（白透多）、白雲母 特徴：外面・両部縱方向ヘラナデ痕。内面横方向ヘラナデ→ナデ。



第 85 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡出土遺物

口縁部ヨコナデ。内面汚染により黒色化。

11 出土位置: 2 住 注記: S1 材質: 石 器種: 勾玉 残存: 完形
法量: 高 2.4、最大幅 1.0、最大厚 0.7、孔径 0.25、重量 3.83g 色調:
濃緑色 特徴: 穿孔部周囲が両側ともむくみ 備考: 「蛇紋岩(もしくは滑石岩)か。塊状。帶褐色绿色半透明。軟質。不透明黑色粒(磁鐵鉱か)。
不透明褐色→真鍮色鉛(黄鉄鉱および黄鐵鉱後のゲーテ石)含有」(矢野徳也氏による実体顕微鏡観察)

12 出土位置: 2 住 注記: S5 材質: 石 器種: 敵石 残存: 大きく
欠失 法量: 重量 28.00g 色調: 灰色 特徴: 頂部と側面部に敵打痕あり。
A は浅く B はやや深い円形敵打痕の集合である。備考: 「アルゴース質粗粒砂岩。塊状。灰褐色。被熱による弱い赤褐色変色あり。粒子: 内磨が悪い。海汰や悪い。石英、長石、白雲母、チャート、頁岩、黒雲母。
外形は自然灘(円錐)の破片」(矢野徳也氏による実体顕微鏡観察)

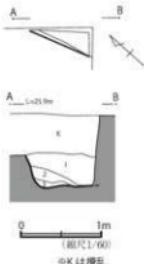
13 出土位置: 2 住 注記: S3 材質: 石(砂岩) 残存: 若干欠失 法量:
10.2 × 9.1 × 6.2 色調: 灰褐色 特徴: A ~ E の 5 ポイントに敵打痕 備考: 「石英質中粒砂岩。塊状。暗灰色。粒子: 内磨やや悪い。海汰や悪い。石英++、長石、チャート。外形は自然灘」(矢野徳也氏による実体顕微鏡観察)

14 出土位置: 2 住 注記: S7 材質: 石(流紋岩) 器種: 砥石 残存:
大きく欠失 法量: 現存長 5.6、幅 4.6、厚 3.9 色調: 白褐色、暗

褐色 特徴: 3 面使用 (A・C・D 面)。B・E 面は未使用。全ての使用面に刻線があるため最終使用面は不明。A 面中央に浅い沈潜状の研磨痕あり。備考: 「珪化流紋岩。塊状。斑状組織。帶淡緑白色。斑晶は白色細粒物質が置換。四面に湾曲した平滑面を生じ。水酸化鉄が粒状~皮膜状に付着」(矢野徳也氏による実体顕微鏡観察)

第 3 号住居跡

造構 第 3 号住居跡は調査区の東隅で西壁部分の一部が確認された住居跡である。壁高は 0.4 m を測る。出土遺物はなく時期は不明である。



第 86 図 堀口遺跡第 32 次調査区第 3 号住居跡

4 堀口遺跡第 34 次調査報告

(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市堀口字新地坪 148 番 1 ほか 期間 / 令和 2 年 6 月 16 日～7 月 7 日 担当 / 田中美零、佐々木義則 面積 / 47 m² 時代 / 古墳、中世 遺構 / 窓穴、住居跡 1 基 (古墳時代)、溝跡 1 条 (中世)、土坑 1 基 (時期不明)、地下式坑 1 基

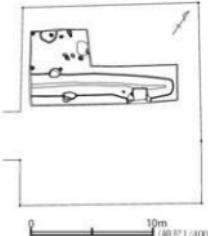
調査地は、那珂川低地から北方に入り込む谷から 80m ほど離れた地点に位置し、平坦な地形を呈する。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査 (第 30 次調査) がなされていたため遺構の配置はおよそ予想通りであった。以下、簡単に調査の経過を記す。

6 月 16 日：調査区設定。 6 月 17 日：重機による表土除去。 6 月 18 日：遺構確認、掘り込み開始。 6 月 24 日：図面・写真による記録作業開始。 7 月 3 日：調査区全体図作成。 7 月 7 日：重機による埋め戻し。 現場撤収作業。

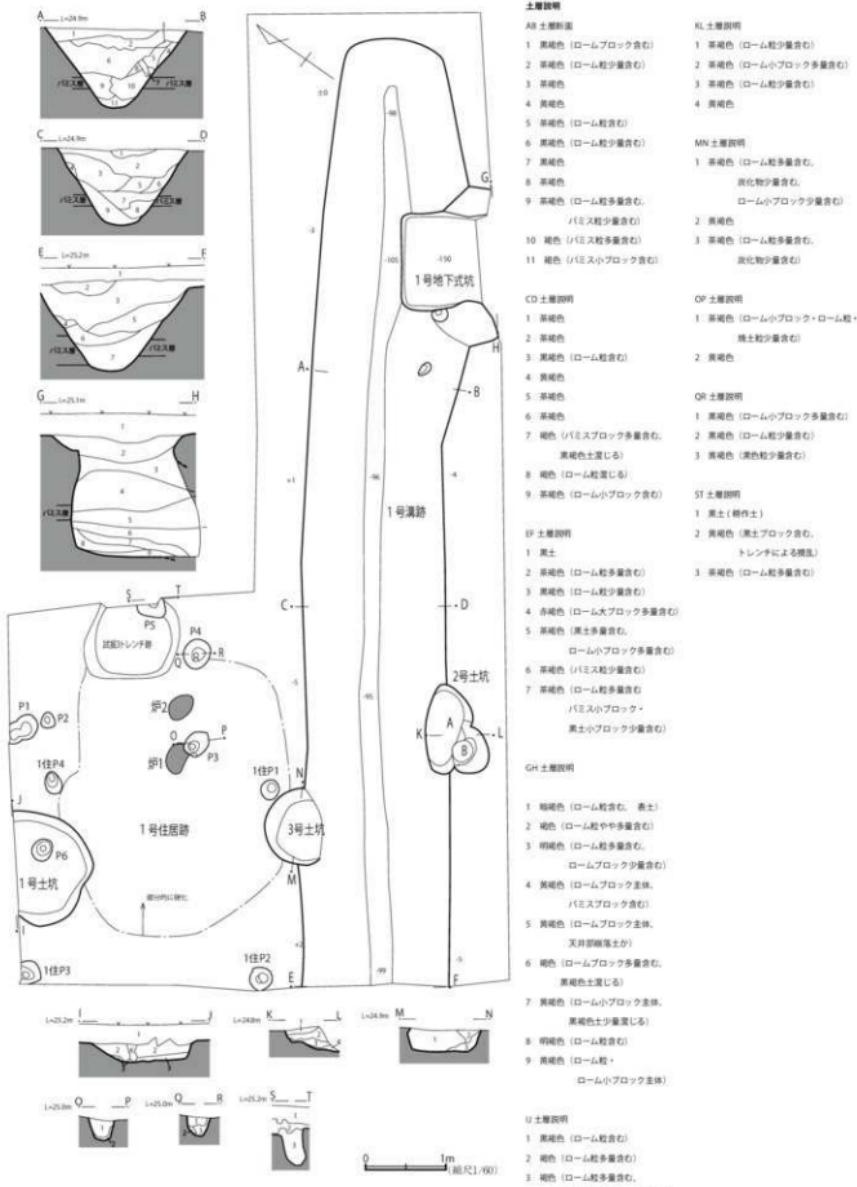
(2) 住居跡

第 1 号住居跡

遺構 第 1 号住居跡は所々床面の硬化面が遺存する程度の残存状況であり、住居跡の形状は把握できなかった。確認面のローム層の状況や表土層の薄さからみて、当調査区は全体的に削平を受けているのかもしれない。当住居跡は炉跡と思われる焼上面が 2か所確認されているので、古墳時代前・中期の住居跡になる可能性が高い。遺物は出土しなかった。



第 87 図 堀口遺跡第 34 次調査区の位置



第 88 図 堀口遺跡第 34 次調査区（第 1 号溝路中の数字は土 0 からの比較高差cmを示す。）

第22表 堀口遺跡第34次調査区第1号溝跡出土品一覧

台帳番号	長 cm	幅 cm	厚 cm	重量 g	台帳番号	長 cm	幅 cm	厚 cm	重量 g
S 2	11.9	9.3	5.1	657.7	3区	12.4	9.7	4.6	658.8
S 3	16.1	8.2	6.7	1335.2	"	9.7	5.7	5.2	508.1
S 4	9.7	7.5	6.7	646.0	"	10.3	6.6	4.5	462.8
1区	15.5	8.7	6.5	1221.5	"	7.4	7.2	5.6	433.8
"	12.5	9.5	5.5	908.0	"	10.6	9.4	1.9	398.6
"	12.8	6.6	4.9	593.1	"	10.7	5.2	4.0	283.8
"	10.2	7.0	4.9	492.1	"	8.6	7.5	3.1	277.8
"	8.4	5.6	3.5	216.2	"	9.4	7.9	3.1	272.0
"	9.6	7.1	2.9	209.6	"	10.4	7.6	2.5	261.2
"	8.7	7.3	2.3	194.0	"	9.6	8.1	2.8	257.5
"	6.8	5.1	2.5	130.6	"	8.2	5.6	4.1	249.2
"	6.1	5.6	2.1	94.6	"	11.8	5.2	3.3	227.7
"	6.5	5.2	0.9	47.0	"	7.6	7.0	2.2	176.8
"	3.6	3.1	0.8	17.9	"	7.1	5.7	2.0	153.1
"	2.9	2.6	0.8	7.1	"	7.6	5.0	2.6	139.4
"	3.9	3.0	1.0	13.1	"	5.7	4.9	3.8	110.9
"	1.3	0.8	0.6	0.9	"	6.7	3.1	2.2	62.2
2区	7.9	8.8	5.7	592.6	"	5.8	3.9	1.5	56.6
"	8.7	7.1	3.2	286.1	"	4.1	3.6	2.6	53.6
"	9.0	6.7	4.0	281.2	"	5.5	4.4	2.7	49.7
"	9.5	6.6	2.5	244.9	"	4.2	3.7	1.4	40.7
"	7.4	5.1	3.0	153.0	"	5.9	4.4	1.1	34.4
"	7.0	7.1	1.7	143.6	"	5.7	2.9	1.4	31.2
"	4.7	4.0	3.6	90.2	"	2.8	2.8	2.7	29.5
"	6.0	5.1	3.2	140.2	"	3.9	3.6	1.3	28.9
"	7.8	5.4	1.0	62.7	"	6.4	2.8	0.9	25.8
"	5.2	4.3	2.3	61.3	"	3.3	2.1	1.7	20.4
"	7.3	3.2	2.0	53.5	"	2.3	1.6	1.4	6.6
"	4.5	3.1	0.5	16.6	"	2.4	1.7	1.0	4.3
				"		2.5	1.9	0.3	2.2

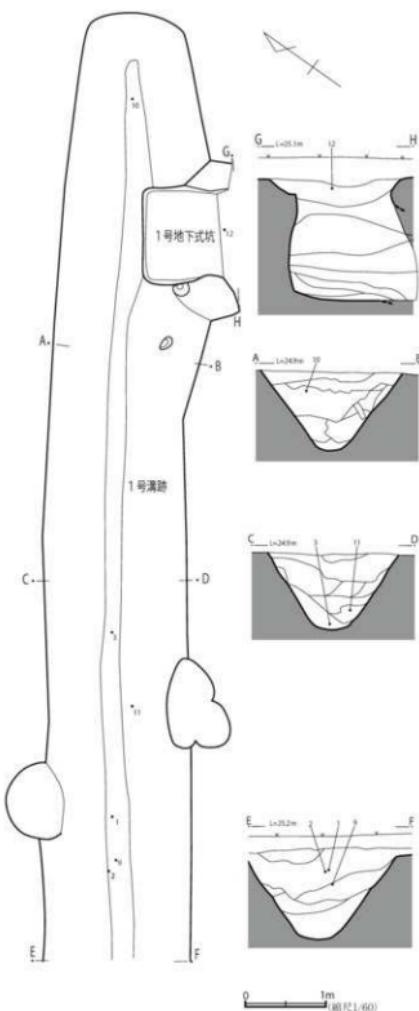
(3) 溝跡

第1号溝跡

遺構 第1号溝跡は東西方向に伸びる断面V字形の溝である。第1号地下式坑・第2号土坑・第3号土坑と重複しており、新旧は切り合い関係からみて、第1号溝跡→第1号地下式坑となる。第2・3号土坑との新旧は不明である。確認面幅1.2~1.9m、確認面からの深さは1mほどを測る。溝底面の標高はほぼ23.8m前後を測り、一方への傾斜は認められない。土層断面をみると、覆土中層に南側から流れ込む茶褐色土があるの

で、南側に土堤状の盛土があったと推定される。また溝は東側が途切れることから、その部分に通路が存在した可能性がある。現在その部分は土地の境界となっており、通路として利用されている。

遺物は土層断面図の位置を境にして、東から1~3区に分けて取り上げた。溝底面近くから小皿(3)が



第89図 堀口遺跡第34次調査区第1号溝跡遺物出土状況



第90図 堀口遺跡第34次調査区出土遺物(1)

出土しており、小皿の形状からみて16世紀頃に位置づけられる(田口睦子2011「県央・県北のかわらけ」『茨城中世考古学の最前線』)と思われるが、溝跡の年代もその頃の可能性がある。また覆土上層から瀬戸・美濃産志野鉄絵丸皿(1・2)が出土しているので、17世紀前葉には埋没していると考えられ

る。なお溝覆土中からの遺物として丸瓦と瓦片が注意されるが、丸瓦は古代の瓦の混在である可能性が高いと思われる。瓦片は中世から近世初頭の可能性もあるかもしれません。

遺物説明

第90回

- 1 出土位置：1溝 注記：P2 材質：陶器 器種：小皿 残存：底部40%、口縁部20% 法量：口径（12.0）、器高2.8、高台径（7.1） 色調：素地明褐色 脇上：— 特徴：内外面長石軸（白褐色）。内面鉄粒（赤紫色）。 備考：瀬戸・美濃産志野織部皿
- 2 出土位置：1溝 注記：P1 材質：陶器 器種：小皿 残存：25% 法量：口径（12.0）、器高2.1、高台径（7.7） 色調：素地明褐色 脇上：— 特徴：内外面長石軸（白綠色）。内面鉄粒（黒藍色）。外外面に目跡。 備考：瀬戸・美濃産志野織部皿
- 3 出土位置：1溝 注記：P5 材質：土師器 器種：小皿 残存：完形 法量：口径10.1、器高2.9、底径4.0 色調：橙色 脇上：砂（透）、骨針多、黒雲母 特徴：回転糸切り。底部外側面状压痕。内面底部1方向ナデ。 備考：脇上からみて東海村周辺產か？
- 4 出土位置：1溝 注記：3区 HRC30次5トレ1溝 材質：土師器 器種：小皿 残存：底部70%欠失 法量：口径9.8、器高2.9、底径（3.7） 色調：橙色 脇上：骨針多、黒雲母 特徴：回転糸切り。底部内面1方向ナデ。 備考：脇上からみて東海村周辺產か？
- 5 出土位置：1溝 注記：1区 材質：土器 器種：内耳土鍋 残存：内耳部 法量：— 色調：外面黒褐色、内面明褐色 脇上：細砂（透、角閃石・輝石類） 特徴：—
- 6 出土位置：1溝 注記：瓦1 材質：瓦 器種：丸瓦 残存：破片 法量：厚1.8 色調：橙色、暗褐色 脇上：砂（白褐色、透、白透、灰少） 特徴：凸面ナデ、凹面布目痕（縮压痕あり）。侧面および凹面側端部へラ削り。
- 7 出土位置：1溝 注記：1区 材質：鐵製品 器種：不明 残存：— 法量：重量3.9g
- 8 出土位置：1溝 注記：2区 材質：石 器種：砾石 残存：破片 法量：重量 66.2g 色調：白褐色 特徴：使用面3面（A～C） 備考：日立産結晶片岩か
- 9 出土位置：1溝 注記：S1 材質：石 器種：茶臼（臼臼） 残存：縁部辺10% 法量：— 色調：灰褐色、外面灰色 特徴：火を受けているか？ 外面に整形時の縦かくら目現る。 備考：砂岩か
- 10 出土位置：1溝 注記：S3 材質：石 器種：敲石 残存：完形 法量：長16.1、幅8.2、厚6.7、重量 1335.2g 色調：灰色 特徴：平坦面の縁辺部にA～Cの敲打痕がみられる。 備考：砂岩か
- 11 出土位置：1溝 注記：S5 材質：石 器種：台石 残存：大きく破損 法量：重量 4544g 色調：灰色 特徴：敲打痕Aは全体的に表面が荒れており、ところどころに径3～5mmほどの浅い凹みができる。 備考：砂岩か
- 12 出土位置：1溝 注記：I-I 材質：鐵津 種類：鍛治津（楔形津） 残存：破片 法量：重量 89.4g 特徴：楔形津の下部破片
- 13 出土位置：1溝 注記：3区 材質：炉壁 残存：炉壁内壁破片 法量：重量 76.2g 特徴：炉壁と思われる。内面はガラス質津を主とし、鉄小塊が木炭片などをも若干付着する。銷造炉の破片か？
- 14 台帳：1溝3区 材質：土師器 器種：甕 残存：底部100% 法量：高（1.8）、底径7.0～7.4 色調：外面にぶい赤褐色～にぶい橙色、内面黄褐色。 脇上：砂（白微）、砂（白多、透多、黒多） 硬成：良好 技法等：外面へラ削り後へラ削り。内面へラナデ。 使用痕：外面器面が被熱している。 備考：—

(4) 地下式坑

第1号地下式坑

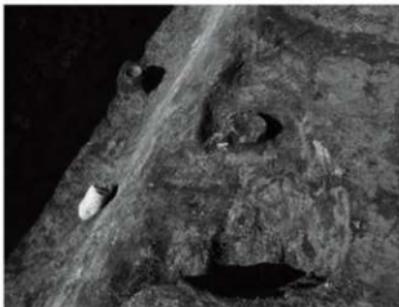


写真2 堀口遺跡第34次調査区第2号土坑人骨出土状況

遺構 第1号地下式坑は第1号溝跡と重複する。第1号溝跡の覆土上面では第1号地下式坑の掘り込みは見られなかったが、掘り込み作業を進めて行くと、溝覆土中層ぐらいから第1号地下式坑の掘り込みが現れてきたので、おそらく溝跡がやや埋まった段階で地下式坑が掘られたものと思われる。玄室部は調査区外のため竪穴部のみの調査にとどまる。竪穴部床面は確認面から深さ1.5mを測る。GH土層断面をみると、おそらく第4層が天井部崩落土になるのであろう。遺物は地下式坑天井崩落後の覆土上層から楔形津（12）が出土しているのみである。地下式坑の年代は溝がやや埋まった段階で掘り込まれていると思われる所以、16世紀頃に位置づけられるのであろう。

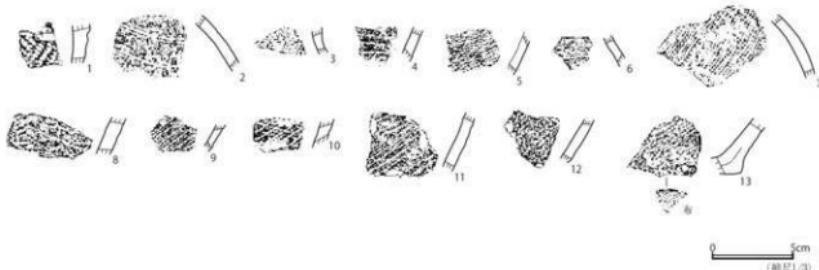
(5) 土坑

土坑は3基確認された。第1・3号土坑は円形の土坑であり、遺物がなく時期不明である。第2号土坑は、形状からみてA・Bの二つの土坑が重複していると思えたが、2号土坑の東側から人の頭蓋骨及び歯の一部が出土したため、当土坑が墓壙であることがわかった。

(6) 調査区出土遺物

第91図

- 1 出土位置・注記：1溝3区 時代時期：绳文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文、單節斜綱文
- 2 出土位置・注記：1溝1区 時代時期：弥生時代中期（足洗式） 器種：圓形土器カ 文様：沈線文（半截竹眉）、付加条綱文（R-S）カ
- 3 出土位置・注記：1溝3区 時代時期：弥生時代中期 器種：圓形土器カ 文様：付加条綱文（R-S）



第91図 塚口遺跡第34次調査区出土遺物(2)

4 出土位置・注記: 1溝3区 時代時期: 弥生時代中期 器種: 蕈形土器カ
文様: 摂条文 カ 備考: 器内面磨き、器外面一部剥落

5 出土位置・注記: 1溝3区 時代時期: 弥生時代中・後期 器種:
蕈形土器カ 文様: 付加条縦文(R×SL)カ 備考: 器内面全面剥落

6 出土位置・注記: 1溝3区 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種:
蕈形土器カ 文様: 縦描文(6本)

7 出土位置・注記: 1溝1区 時代時期: 弥生時代後期カ 器種: 蕈
形土器 文様: 付加条闊文(LR+R)

8 出土位置・注記: 1溝3区 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種:
蕈形土器カ 文様: 付加条縦文(R×R,L×L)カ

9 出土位置・注記: 1溝1区 時代時期: 弥生時代後期(十王台式) 器種:
蕈形土器カ 文様: 付加条縦文(R×R)

10 出土位置・注記: 1溝1区 時代時期: 弥生時代後期(十王台式)
器種: 蕈形土器カ 文様: 付加条縦文(R×R,L×L) 備考: 器外
面一部剥落

11 出土位置・注記: - 時代時期: 弥生時代後期 器種: 蕈形土器
文様: 付加条縦文(LR+2R)

12 出土位置・注記: 1溝3区 時代時期: 弥生時代後期 器種: 蕈形
土器カ 文様: 単節斜縦文(LR)カ

13 出土位置・注記: 1溝1区 時代時期: 弥生時代中・後期 器種:
蕈形土器 文様: 付加条縦文(LR+R)カ, 底面布目痕

5 高野富士山遺跡第14次調査報告

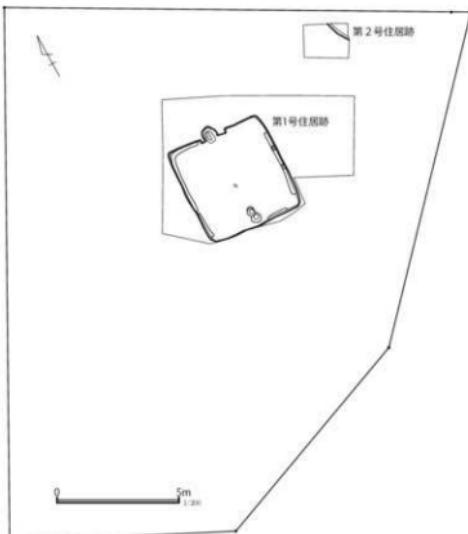
(1) 調査の経過

所在地 / ひたちなか市高野字富士山 1695 番 6
期間 / 令和2年8月4日～28日 担当 / 田中美零、佐々木義則 面積 / 37 m² 時代 / 平安 遺構 / 竪穴住居跡2基(奈良・平安時代)

調査地は、新川が流れる旧真崎浦の低地から南西方向に入り込む二つの谷に挟まれた台地上に位置し、平坦な地形を呈する。今回の調査は個人住宅建築に伴う発掘調査であり、建物部分を中心に調査区が設定された。当地区は試掘調査（第13次調査）がなされていたため遺構の配置はおおよそ想通りであった。以下、簡単に調査の経過を記す。

8月4日：調査区設定。重機による表土除去。

8月6日：遺構確認、掘り込み開始。8月12日：図面・写真による記録作業開始。8月19日：第1号住居跡全体図作成 8月28日：現場撤収作業。



第93図 高野富士山遺跡第14次調査区

(2) 住居跡

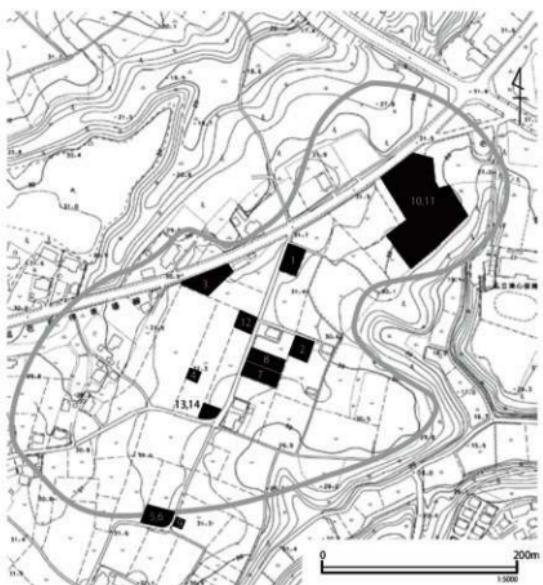
第1号住居跡

遺構 当住居跡の主軸方向は、N4°Wを測る。竪穴部は、4.1×4.1 m、面積 16.8 m²で、形状は正方形である。壁高は東壁 0.2 m、西壁 0.1 m、南壁 0.1 m、北壁 0.2 mであり、壁周溝は断続的にめぐる。主柱穴はみられないが、南壁中央部付近に出入口ピットが存在する。床は壁際を除く部分が硬化し、床中央部に 20cm×10cm ほどの焼土面が形成されていた。竪穴部覆土はブロック土を含む褐色土が堆積しており、人為的埋土かもしれない。

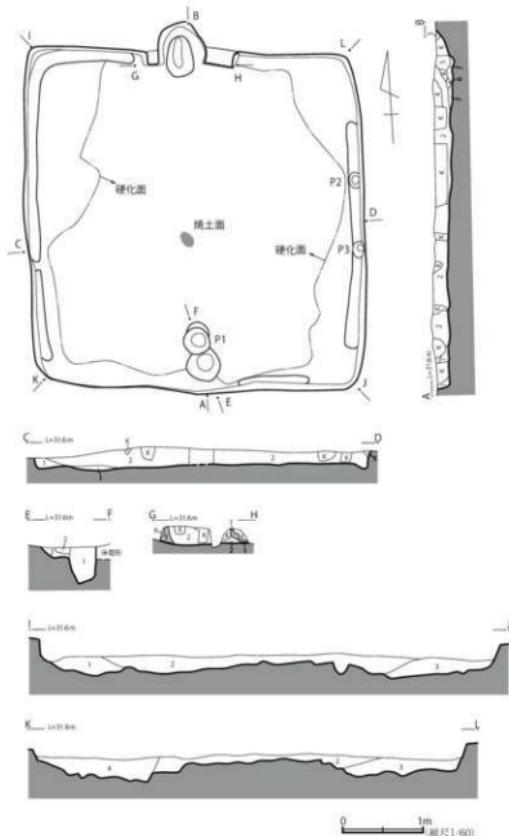
竪の残りは良くなく、竪内床面が若干浅くぼんでいた。

住居掘形は、EF・IJ・KL 土層断面部で確認し、住居外周をやや深く掘り込むタイプと思われる。

遺物出土状況 当住居跡に伴う可能性のある遺物は、竪内出土の土師器甕(12)、北西隅出土の土師器甕(11)、出入口ピット



第92図 高野富士山遺跡の調査地点(数字は調査次数)



土壤剖面

AB - CD 土壌剖面

1 明褐色 (ローム粒や多量含む)

2 暗色 (ローム粒・ローム小ブロック含む)

3 暗色 (ロームブロック多量含む 残土粒少量含む 緑苔有り 住居床面)

4 明褐色 (白褐色粘土ブロック多量含む 残土粒少量含む)

5 明褐色 (残土粒・ローム粒多量含む)

6 明褐色 (残土粒含む)

7 黒褐色 (ローム小ブロック含む 白褐色粘土粒 残土粒)

GH 土壌剖面

1 白褐色 (カドマド粘土)

2 明褐色 (カドマド粘土の崩壊土 ローム粒・残土粒含む)

U - K 土壌剖面

1 明褐色 (ローム粒ブロック多量含む 残土粒含む)

2 黄褐色 (白褐色粘土含む)

3 明褐色 (ロームブロック含む ローム粒多量含む)

4 暗色 (ローム粒多量含む ロームブロック少量含む)

EJ 土壌剖面

1 明褐色 (ローム粒や多量含む ローム小ブロック含む)

2 暗色 (ローム粒含む 泥化物粒少量含む)

3 明褐色 (ロームブロック含む ローム小ブロック多量含む)

第94図 高野富士山遺跡第14次調査区第1号住居跡

トの西側から出土した須恵器杯(1), 南東隅出土の敲石(15)がある。住居北西隅出土の土師器皿(4)及び北東隅からまとまって出土した5・6・8~10・13は、いずれも破損品であり、当住居跡に廃棄された遺物と思われる。したがって、墨書「田依」をもつ土師器皿(5)は他の住居から捨てられた遺物なのだろう。須恵器杯(1)の年代からみて当住居跡の廃絶は9世紀前半と思われる。床面から出土している土師器皿(4)・皿(5)の特徴からみると9世紀第2四半期廃絶の可能性が高いといえよう。

遺物説明

第95図

1 注記:P18 材質:須恵器 器種:杯 残存:体部35%, 底部20% 法量:口径(12.2), 深高4.7, 底径(6.4)

色調:灰色 脱土:礫(白, 灰少), 砂(白多, 灰少, 透少), 骨針微量 技法等:底部外面へラ記号。外面ところどころ煤付着。備考:木葉下窓産か

2 注記:4区① 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部25% 法量:底径(9.9) 色調:灰色, 底部外面黒褐褐色 脱土:細砂(白, 透) 技法等:外面底部および二次底部面回転へラ削り。備考:産地不明, 原の寺堂付近産か。

3 注記:P21 材質:須恵器 器種:杯 残存:底部 法量:底径6.4 色調:灰色 脱土:礫(白多, 灰少), 骨針微量 技法等:回転へラ切り未調整。底部外面へラ記号「一」。備考:木葉下窓産か

4 注記:P26・28・32 材質:土師器 器種:杯 残存:口縁部40%欠失 法量:口径12.1, 器高3.9, 底径6.8

色調:外面部褐色, 内面部黑色 脱土:砂(透多, 白少), 白褐色 技法等:外面部下端・底部回転へラ削り。底部中央系切痕か, 内面部ラミガキ(底部1方向)・黒色処理。

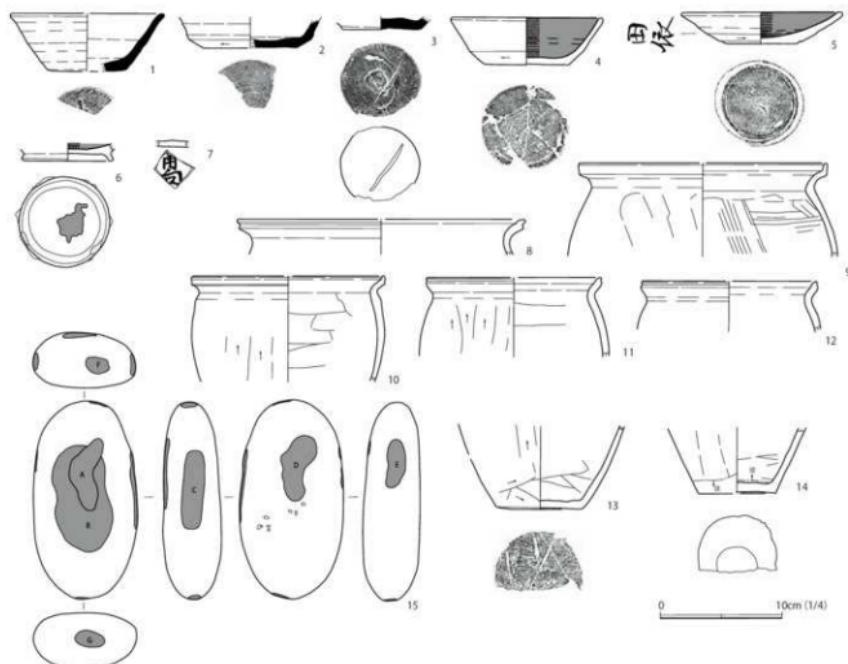
5 注記:P16 材質:土師器 器種:無台皿 残存:口径部25%欠失 法量:口径12.8, 深高2.6, 底径6.0 色調:外面部褐色・褐色, 内面部黑色 脱土:雲母片少 技法等:外面部下端および底部回転へラ削り。内面部ラミガキ(底部1方向)・黒色処理。底部外側面横幅墨書き「田依」。

6 注記:P10 材質:土師器 器種:有台皿? 残存:高台径7.0 色調:外面部褐色, 内面部黑色 脱土:砂(透少)

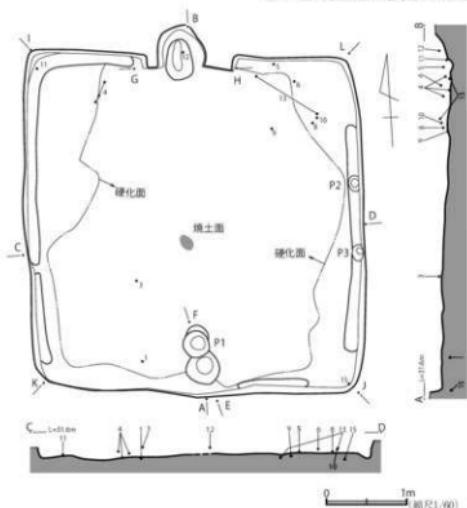
技法等:底部外回転へラ削り。底部外側に敲打痕状の痕跡Aがみられる。

7 注記:4区② 材質:土師器 器種:不明 残存:底部中央部破片 法量: 色調:外面部褐色, 内面部黑色 脱土:黒雲母少 技法等:底部内面1方向へラミガキ・黒色処理。底部外回転へラ削り, 墨書き「角向」か。

8 注記:P3 材質:土師器 器種:甕 残存:口縁部10% 法量:口径(23.3) 色調:暗褐色 脱土:砂(白



第95図 高野富士山道路第14次調査区第1号住居跡出土遺物



第96図 高野富士山道路第14次調査区第1号住居跡遺物出土状況

透多、白)、白雲母多 技法等：口縁部ヨコナデ 備考：新治窯付近産

9 注記：P7、P8、1区、ベルト 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部20% 法量：口径（20.1） 色調：褐色 胎土：礫（白透少） 技法等：肩部外面斜方向ナデ。肩部内方向および横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

10 注記：P2、P15、1区 材質：土師器 器種：甕 残存：上半部10% 法量：口径（15.5） 色調：暗褐色 断面褐色 胎土：礫（灰少）、砂（透） 技法等：胸部外面斜方向ヘラ削り。肩部内面横方向ヘラナデ。口縁部ヨコナデ。

11 注記：P23 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部30% 法量：口径（14.1） 色調：暗褐色 胎土：砂（透） 技法等：肩部外面斜方向ヘラ削り。肩部内面横方向ナデ。口縁部ヨコナデ。

12 注記：カマド、P51 材質：土師器 器種：甕 残存：口縁部20% 法量：口径（14.1） 色調：橙褐色 胎土：礫（白、灰少）、砂（透） 技法等：口縁部ヨコナデ

13 注記：P1・13、ベルト1・3、1区 材質：土師器 器種：甕 残存：胸部下半15%、底部 法量：底径7.0 色調：暗褐色 胎土：礫（白少、灰少）、砂（透、白少、灰少）、骨針微量 技法等：胸部外面斜方向ヘラ削り後下端部横方向ヘラ



第97図 高野富士山遺跡第14次調査区第2号住居跡

削り。胸部内面横方向ナデ。底部外面へラ削り後木茎痕。

14 注記：掘形 材質：土師器 器種：甕 残存：底部 70% 法量：底径 (6.2) 色調：褐色，黒色 胎土：甕（白，白透），白雲母 技法等：内外面ナデ（底部外面は未調整）。胸部内面と底部外面が保ける。底部外側中央が円形に燐けておらず、支脚と接していた部分かもしれない。

備考：新治窯下近産

15 注記：S1 材質：石（砂岩） 器種：敲石 残存：完形 法量： $16.2 \times 8.5 \times 4.6$ ，重量 990.8 g 色調：灰色 特徴：平坦面に深い敲打痕 A・D がみられ、側面に深い敲打痕 C・E・F・G がみられる。C は敲打痕が磨滅する。B はやや磨滅する。D の下部に刺突状の凹みがみられる。

第2号住居跡

遺構 住居西壁の一部を調査したのみであり、住居の規模や構造等は不明である。遺物も出土していない。竪穴部覆土も擾乱が深くまで入るため不明瞭である。

(3) 調査区出土遺物

遺物説明

第98図

1 注記：表土 材質：須恵器 器種：蓋 残存：紐部（周縁部ところどころ欠ける） 法量：鉢径 3.3, 鉢高 0.6 色調：灰色 胎土：砂（白，白透），骨針少 技法等：天井部外面回転へラ削り。 備考：木茎下窯産か



第98図 高野富士山遺跡第14次調査区出土遺物

図版1 試掘調査（1）



1 堀口通跡第31次調査区



6 相対通跡第4次調査区



2 石高通跡第13次調査区



7 高野富士山通跡第13次調査区



3 沖通跡第2次調査区



8 市毛下坪通跡第20次調査区



4 清井内通跡第4次調査区



9 三反田古墳群第4次調査区



5 堀口通跡第33次調査区



10 三反田古墳群第4次調査区第5トレンチ14号坑外側開溝

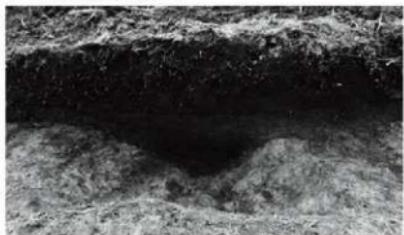
図版2 試掘調査（2）



11 三反田古墳群第5次調査区



16 松原遺跡第8次調査区



12 三反田古墳群第5次調査区14号墳周溝断面



17 岡田遺跡第37次調査区



13 磐崎東古墳群第13次調査区



18 東原遺跡第10次調査区



14 中曾根遺跡第2次調査区



19 東石川新堀遺跡第5次調査区



15 平井遺跡第4次調査区



20 市毛上坪遺跡第31次調査区

図版3 試掘調査(3)



21 部田野富士山遺跡第1次調査区



26 平井遺跡第6次調査区



22 老ノ塚古墳群第1次調査区



27 市毛上坪遺跡第32次調査区



23 老ノ塚古墳群第2次調査区



28 平井遺跡第7次調査区



24 上馬場遺跡第6次調査区



29 寄居新田古墳群第5次調査区



25 飯塙前遺跡第3次調査区



30 同田遺跡第38次調査区

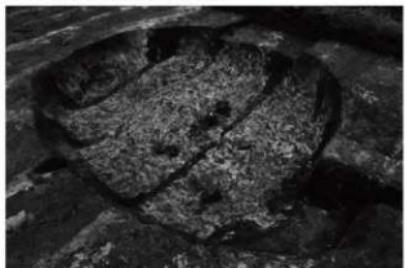
図版 4 発掘調査 (1)



31 三反田新堀遺跡第 20 次調査区



32 三反田新堀遺跡第 20 次調査区遠景



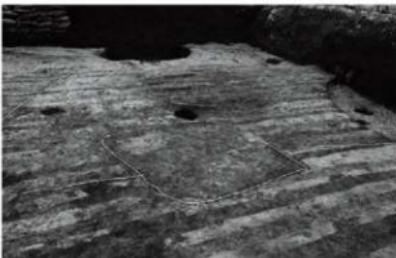
33 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竪穴遺構遺物出土状況



34 三反田新堀遺跡第 20 次調査区第 1 号竪穴遺構完掘



35 市毛上坪遺跡第 30 次調査区



36 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 1 号住居跡



37 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 2 号住居跡



38 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 3 号住居跡



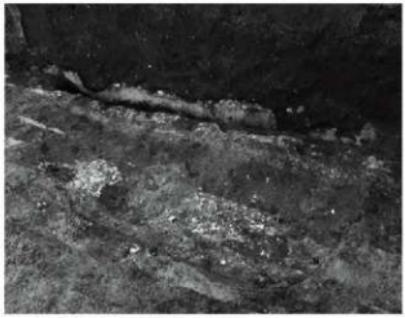
39 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 4 号住居跡



40 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 1 号土坑



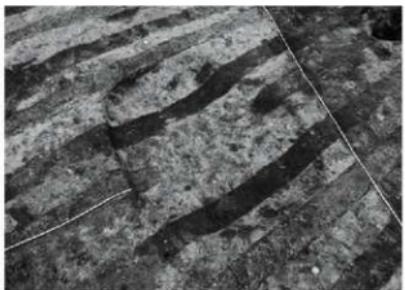
44 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡



41 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 2 号土坑



45 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡竪形



42 市毛上坪遺跡第 30 次調査区第 3 号土坑



46 堀口遺跡第 32 次調査区第 1 号住居跡竪形



43 堀口遺跡第 32 次調査区



47 堀口遺跡第 32 次調査区第 2 号住居跡

図版 6 発掘調査 (3)



48 堀口遺跡第32次調査区第1・2号住居跡遺物出土状況



52 堀口遺跡第34次調査区第1号住居跡



49 堀口遺跡第32次調査区第2号住居跡勾玉出土状況



53 堀口遺跡第34次調査区第1号溝跡



50 堀口遺跡第32次調査区第2号住居跡馬歯（上顎骨）出土状況



54 堀口遺跡第34次調査区第1号溝跡小面・石出土状況

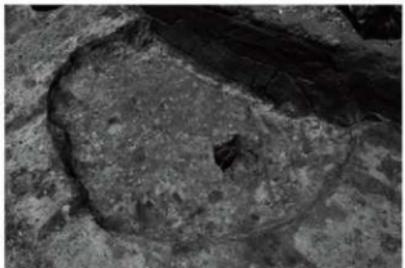


51 堀口遺跡第34次調査区



55 堀口遺跡第34次調査区第1号地下式坑

図版 7 発掘調査 (4)



56 堀口遺跡第 34 次調査区第 1 号土坑



60 高野富士山遺跡第 14 次調査区第 2 号住居跡



57 堀口遺跡第 34 次調査区第 2 号土坑人骨出土状況



58 高野富士山遺跡第 14 次調査区



59 高野富士山遺跡第 14 次調査区第 1 号住居跡

報告書抄録

フリガナ	レイエニネンドヒタチナカシナイセキハックツショウサホウコクショ
書名	令和2年度ひたちなか市内道路発掘調査報告書
編集者名	佐々木義則
著者名	福田健一、田中美零、佐々木義則
編集機関	公益財團法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課財調査事務所
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根3499 ひたちなか市理研文化財調査センター内
発行機関	ひたちなか市教育委員会
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市東右川2丁目10番1号
発行年	2021年3月14日

所収道路名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	道番番号						
ミタンダンボリ 二反田新堀	ひたちなか市 二反田	08221	109	36° 22' 22"	140° 33' 1"	21.4m	202001	32 m ²	20次調査
				36° 23' 23"	140° 30' 39"	25.7m	202001 ~ 202002	259 m ²	31次調査
				36° 23' 29"	140° 30' 37"	25.3m	202002 ~ 202003	39 m ²	32次調査
				36° 23' 28"	140° 30' 42"	22.9m	202003	23 m ²	33次調査
				36° 23' 22"	140° 30' 44"	25.1m	202006 ~ 202007	47 m ²	34次調査
				36° 23' 16"	140° 30' 43"	24.2m	202009	19 m ²	35次調査
ホリダチ 堀口	ひたちなか市 堀口	08221	004	36° 23' 52"	140° 29' 53"	27.1m	202001 ~ 202002	77 m ²	30次調査
				36° 23' 58"	140° 30' 3"	27.7m	202009	26 m ²	31次調査
				36° 23' 58"	140° 30' 4"	28.0m	202010	28 m ²	32次調査
				36° 23' 7"	140° 31' 9"	24.0m	202001 ~ 202002	41 m ²	13次調査
				36° 22' 12"	140° 33' 13"	19.7m	202002	54 m ²	2次調査
				36° 21' 3"	140° 35' 59"	23.1m	202003	45 m ²	4次調査
イチダカミツボ 市毛土坪	ひたちなか市 市毛	08221	131	36° 23' 58"	140° 30' 3"	27.7m	202009	26 m ²	31次調査
イダカ 石畠	ひたちなか市 武田	08221	126	36° 23' 7"	140° 31' 9"	24.0m	202001 ~ 202002	41 m ²	13次調査
ハザマ 船	ひたちなか市 二反田	08221	107	36° 22' 12"	140° 33' 13"	19.7m	202002	54 m ²	2次調査
アサナイ 浅井内	ひたちなか市 通メキ	08221	299	36° 21' 3"	140° 35' 59"	23.1m	202003	45 m ²	4次調査
アタタイ 対角	ひたちなか市 金上	08221	080	36° 22' 29"	140° 32' 33"	22.9m	202005	67 m ²	4次調査
コヤツブヤマ 高野富士山	ひたちなか市 高野	08221	062	36° 25' 44"	140° 33' 12"	31.6m	202006	28 m ²	13次調査
イケシモツボ 市毛下坪	ひたちなか市 市毛	08221	130	36° 23' 32"	140° 30' 17"	26.3m	202006	33 m ²	20次調査
ミタンダコフンダン 三反田古墳群	ひたちなか市 二反田	08221	018	36° 21' 53"	140° 33' 32"	20.1m	202006 ~ 202007	48 m ²	4次調査
イソサキヒビコフンダン 磯崎古墳群	ひたちなか市 磯崎町	08221	240	36° 22' 48"	140° 37' 23"	24.3m	202007	34 m ²	13次調査
ナゾノ 中曾根	ひたちなか市 田代	08221	161	36° 25' 13"	140° 30' 43"	28.4m	202007	146 m ²	2次調査
ヒライ 平井	ひたちなか市 金上	08221	083	36° 22' 33"	140° 32' 24"	23.2m	202007 ~ 202008	95 m ²	4次調査
				36° 22' 35"	140° 32' 18"	23.1m	202009	120 m ²	5次調査
				36° 22' 35"	140° 32' 18"	23.1m	202011	36 m ²	7次調査
マツバラ 松原	ひたちなか市 田代	08221	037	36° 24' 34"	140° 30' 49"	28.4m	202008	31 m ²	8次調査
オカダ 岡田	ひたちなか市 二反田	08221	039	36° 22' 9"	140° 32' 39"	21.6m	202008	49 m ²	37次調査
				36° 22' 7"	140° 32' 36"	21.1m	202012	256 m ²	38次調査
ヒガシハラ 東原	ひたちなか市 高野	08221	061	36° 25' 58"	140° 33' 1"	31.6m	202008	45 m ²	10次調査
ヒガシイカワコボリ 飯石川断堀	ひたちなか市 飯石川	08221	068	36° 24' 32"	140° 31' 51"	29.5m	202009	388 m ²	5次調査
ヘタノフジヤマ 御井野富士山	ひたちなか市 御井野	08221	295	36° 21' 54"	140° 35' 11"	24.0m	202009	30 m ²	1次調査
オノノココブンダン 老子塚古墳群	ひたちなか市 福山	08221	027	36° 26' 23"	140° 32' 8"	32.7m	202009 ~ 202010	48 m ²	1次調査
				36° 26' 23"	140° 32' 7"	32.7m	202009 ~ 202010	50 m ²	2次調査
カミハラ 上馬場	ひたちなか市 津山	08221	053	36° 24' 3"	140° 29' 35"	26.8m	202010	40 m ²	6次調査
イイヅカマ 駒場前	ひたちなか市 二反田	08221	072	36° 22' 0"	140° 32' 57"	21.3m	202010	19 m ²	3次調査
ヨリシキンゴンフンダン 夷居新田古墳群	ひたちなか市 田代	08221	159	36° 25' 16"	140° 30' 53"	30.7m	202011	93 m ²	5次調査

令和2年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

令和3（2021）年3月14日発行

編 集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発 行 ひたちなか市教育委員会

〒312-8501 茨城県ひたちなか市東石川2-10-1

TEL029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根3499

TEL029-276-8311

印 刷 有限会社 豊印刷

〒312-0041 茨城県ひたちなか市西大島1丁目20-8